コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名 H24-B14-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			直正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層の細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、種の種類及び形状、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必須に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	単種構造 (層理、葉理、級化など)	都道府県に対応する時記事項 ・コア欠如、コア破損など		地質名 ・層厚及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・性、風化の含有等などを記載。	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な(割れ目の見かけの傾斜や開きなどの特徴的な)記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、幅(開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のザベリ(スリックンサイド)、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・網構造 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(H_0,H_1,H_2) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、複合板構造、葉構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	都道府県における時記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
237	53.13	53.35	巾20～25mm、上下端15°程度、上側は巾5～15mm、粘土質砂礫状、下側は巾5～15mm、砂・細礫混じり粘土状、いずれも灰白色、見かけ正断層。	53.33	53.35	幅20～25mm、上下端15°程度、上側は幅5～15mm、粘土質砂礫状、下側は幅5～15mm、砂・細礫混じり粘土状、いずれも灰白色、見かけ正断層。粘土状部は網目状に分布し、上端境界・下端境界は不明瞭、原岩組織が認められる、せん断構造・変形構造が認められない、変質部。							-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適切化(幅) ・粘土状部の性状や境界、原岩組織の有無、内部構造の有無を追記した。 ・追記した理由から断層ではないと判断して「見かけ正断層」を削除し、「変質部」を追記した
238	53.15	53.82	∠25°および∠45°の割れ目が5～20mm間隔で交錯し、コアは細片状を呈する。全体に変質を受け、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟在する。	-	-	-							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
239	53.12	54.48	密着した∠38°および∠80の割れ目が3～5cm間隔で発達する。コアは硬質棒状を呈す。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。	53.82	54.48	密着した30～50°および∠80°の割れ目が5～5cm間隔で発達する。コアは硬質棒状を呈す。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・分布する割れ目の傾斜は38°のみではないため傾斜を範囲で示した。 ・誤記の修正(単位の記載漏れ) ・コアにまわせてコア形状を変更した
240	54.48	55.00	(割れ目状態標)Cランク (岩級区分欄)CL	54.48	55.00	(割れ目状態標)Cランク (岩級区分欄)CM							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをCランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
241	54.48	55.40	上位に比べて割れ目沿いの褐色化がみられる。微細な割れ目も発達する。特に55.10～55.17mは亀裂状の割れ目が密集し亀甲状をなす。割れ目に沿って風化が進む。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
242	55.40	60.00	(地質名欄)空欄	55.00	60.00	(地質名欄)花崗閃岩							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名単の追記
243	55.40	55.40	(コアの形状欄)Vランク	55.00	55.40	(コアの形状欄)Vランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位よりの割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した。
244	55.40	55.84	上下位に比べて風化・変質作用による岩盤劣化し、軟質となる。一部硬質岩片(硬さC)が残存する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目頻度も上下位に比べて大となり、亀甲状をなす。微細な割れ目まで マンガン汚染がみられる。	55.40	55.84	上下位に比べて風化・変質作用による岩盤劣化しやや軟質となる。一部硬質岩片(硬さC)が残存する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目頻度も上下位に比べて大となり、亀甲状をなす。微細な割れ目までマンガン汚染が見られる。							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにまわせて硬軟を変更した ・表現の直正化(見る)
245	55.84	56.62	上位に比べて風化作用による岩盤の劣化は軽微となる。傾斜45°及び縦方向の割れ目がみられる。岩芯は部分的にみられるが、割れ目沿いは褐色化する。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
246	56.28	56.62	割れ目沿いに母盤が劣化し、細片化する。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
247	55.84	57.05	(割れ目状態標)Lランク (岩級区分欄)CL	55.84	57.05	(割れ目状態標)Lランク (岩級区分欄)CM							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをLランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
248	56.62	57.42	上位と比べてやや変質作用を受け、割れ目及び割れ目周辺に褐色鉱物がみられる。	-	-	-							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
249	56.62	56.82	(コアの形状欄)Bランク	56.62	56.82	(コアの形状欄)Bランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲よりの割れ目が少ないためコアの形状のランクをBランクに変更した
250	56.62	56.91	(コアの硬さ欄)Cランク	56.62	56.91	(コアの硬さ欄)Bランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
251	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	57.42	57.68	上下位に比べて変質作用により岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類の大半は緑色鉱物(緑泥石)に変質する。							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにまわせて硬軟を変更した ・緑泥石であるため"?"を削除した
252	57.68	57.68	57.68m、割れ目沿いにマンガンが濃集し(最大幅2mm)、周囲の亀裂状割れ目はマンガンに汚染される。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
253	57.68	58.00	57.68～58.00、上位に比べて変質作用は軽微となる。	57.68	58.00	57.68～58.00m、上位に比べて変質作用は軽微となる。							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・誤記の修正(単位の記載漏れ)
254	58.00	58.31	(割れ目状態標)Lランク (コアの硬さ欄)Cランク	58.00	58.31	(割れ目状態標)Lランク (コアの硬さ欄)Bランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをLランクに変更した ・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
255	58.00	58.50	上下位に比べて岩質良好となる。割れ目沿いおよび岩芯の酸化汚染はほとんどみられない。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
256	58.00	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。	58.50	58.78	変質作用により、長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質となる。傾斜30°程度の割れ目が優勢となる。							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟を変更した
257	58.78	59.05	58.78～59.05、上位と比べて変質作用は軽微であり、硬質となる。	58.78	59.05	58.78～59.05m、上位と比べて変質作用は軽微であり、やや硬質となる。							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・誤記の修正(単位の記載漏れ) ・硬軟を変更した
258	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石?)に変質する。	59.05	59.25	上下位に比べて、変質作用によって岩盤が劣化し、やや軟質となる。長石類は淡緑色鉱物(緑泥石化)に変質する。							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟を変更した ・緑泥石であるため"?"を削除した
259	59.48	59.55	(コアの形状欄)Vランク	59.48	59.55	(コアの形状欄)Vランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
260	59.55	59.85	下位に破砕帯、上位に変質帯を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状をなす。 上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び緑褐色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42～60.62m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物脈が付着、挟在する。上下部ともに割れ目沿いの細片化がみられる。	59.55	60.85	下位に破砕部、上位に変質部を伴い、岩盤は劣化する。割れ目間隔は3cm以下であり、微細な割れ目を伴い、亀甲状をなす。 上部(59.90m付近まで)には、マンガン及び緑褐色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微であるのに対して、下部(60.42～60.62m)では割れ目沿いに褐色化がみられ、緑色鉱物脈が付着、挟在する。上下部ともに割れ目沿いの細片化が見られる。							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・誤記の修正(59.85m→60.85m) ・用語の統一(破砕帯→破砕部、変質帯→変質部) ・表現の直正化(見る)
261	60.86	150.00	アプライト	-	-	-							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
262	60.86	61.12	破砕帯(全せん断面:61.12m)。上盤40°，下盤43°をなす。境界は明瞭。	60.85	61.12	破砕部(亜断面破砕部:61.12m)。上盤40°，下盤40°をなす。境界は明瞭。							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・表新活動面いう用語に統一 ・コアにまわせて下端境界の傾斜を変更した(43°→40°) ・上端側へ動いたと思われるが、上端に変更した。下端も同様。
263	60.86	61.11	粘土混じり角礫状破砕部(原岩の組織は残る。常は硬質(硬さC)。(七宝焼)。	60.85	61.12	粘土混じり角礫状破砕部(原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅5～20mmの構造全体に硬質(硬さC)。(七宝焼)。含まれる細粒部は明瞭状に分布。明黄褐～緑灰色を呈する。							-	-	-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	-	・誤記の修正(61.11m→61.12m) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・コアにまわせて色調を追記した
264	60.86	61.12	(色調欄)5YR6.1(褐灰) (割れ目状態欄)Lランク (コアの形状欄)Vランク	60.85	61.12	(色調欄)明黄褐(2.5Y7/6) (割れ目状態欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにまわせて色調欄の色調を変更した。 ・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをCランクに変更した。 ・割れ目の頻度は周囲と同様であるためコアの形状のランクをVランクに変更した
265	61.11	63.47	傾斜30°～40°及び70°の主な割れ目とこれに斜交する微細な割れ目がみられ、一部亀甲状をなす。主要な割れ目はすべて酸化汚染を受け、褐色を呈する。岩芯には無部部がみられる。割れ目沿いに細片化、一部で細粒化する。	-	-	-							○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
266	62.91	63.09	割れ目密集し岩質、下端∠45°，巾1～2mm、粘土質粘土。	62.97	63.09	割れ目密集し岩質、下端∠45°，幅1～2mm、緑灰色粘土。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土という色名称は土色帖にない称であるため色調名を変更した。 ・表現の直正化(幅)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

○ 記載有り　なし、該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																	記事を削除・変更・適正した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異型など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海水度、含水状態などを記載。	連続構造 ・層理、薄層、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・色、岩品の含有物などを記載。	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や開度物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(大リッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など 特徴面 ・岩種	破砕等							空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
																		破砕度区分 ・記号(H1,H2,H3) ・区分毎の区間深度	破砕者区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕帯(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・縞状構造、複合面構造、葉理構造、単目状組織など	最新活動面(認定した場合)			
287	63.09	63.47	(コアの形状欠)Ⅳランク	63.09	63.47	(コアの形状欠)Ⅴランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位2同様に割れ目が多いためコアと形状のランクをⅤランクに変更した
288	63.09	65.32	(割れ目状態欠)aランク	63.09	65.32	(割れ目状態欠)bランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れEに挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
269	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(巾5～10cm)、コアは柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。	63.47	64.15	上位と比べて割れ目間隔広く(幅5～10cm)、コアは短柱状を呈する。割れ目沿いに細片化が認められるが、コア自体は硬質である。												-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(幅) ・コアに合わせてコア形状を変更した
270	64.15	64.59	(岩級区分欠)CL	64.15	64.59	(岩級区分欠)CM												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れE状態のランク変更に伴い、岩級を変更した
271	64.15	64.82	∠40～50°の割れ目が1～10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する潜在(密着)割れ目が発達する。潜在割れ目は容易には分離しないが、コアはハンマーの打撃でやや鋭い音を発する。	-	-	-												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
272	64.26	64.51	上下位と比べて変質が進行する。上端∠45°、下端∠60°程度で傾される。	-	-	-												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
273	64.59	64.82	(コアの形状欠)Ⅳランク	64.59	64.82	(コアの形状欠)Ⅴランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位2同様に割れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
274	64.82	65.32	∠30～45°および∠70°の割れ目が1～3cm間隔で発達し、コアは片状(岩片は硬質)を呈する。しばしば低角割れ目沿いに変質、白雲母を挟在する。	64.82	65.32	∠30～45°および∠70°の割れ目が1～3cm間隔で発達し、コアは細片状(岩片は中硬質)を呈する。しばしば低角度割れ目沿いに変質、白雲母を挟在する。												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにあわせて硬軟を変更した ・表現の適正化(片状⇒細片状、低角⇒低角度)
275	65.32	65.32	フィルム状～巾5mm、∠45°、灰白砂混じり粘土。	65.32	65.32	フィルム状～幅5mm、∠45°、灰白色砂混じり粘土。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(幅) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
276	65.32	65.42	(割れ目状態欠)bランク (コアの形状欠)Ⅴランク (コアの硬さ欠)dランク (変質欠)2ランク	65.32	65.42	(割れ目状態欠)aランク (コアの形状欠)Ⅳランク (コアの硬さ欠)eランク (変質欠)3ランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目は認識できないため割れ目状態のランクをaランクに変更した。 ・周囲より割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した。 ・コアは非軟質であるためコアの硬さのランクをeランクに変更した。 ・上位に比べて変質の程度が強いため変質のランクを3ランクに変更した。
277	65.42	65.86	上下位と比べて風化・変質進行し、コアは脆弱化する。割れ目沿いに脱色、細粒化が認められ、あわせて、わずかに褐色化する。又、有色鉱物周縁部も褐色化している。	-	-	-												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
278	65.17	65.86	コアは岩芯まで変質(脱色)が進行し、灰白～淡黄色を呈する(2.5Y7/2～7/3)。	-	-	-												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
279	65.15	65.85	巾1mm、∠34°、灰白粘土挟在、マンガン漸薄を伴う。	65.85	65.85	幅1mm、∠34°、灰白色粘土挟在、マンガン漸薄を伴う。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(幅) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
280	65.16	66.06	不規則に潜在割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。	-	-	-												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
281	65.16	66.06	(コアの形状欠)Ⅴランク	65.86	66.06	(コアの形状欠)Ⅳランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と同様な割れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
282	65.16	65.35	(岩級区分欠)CL	65.86	65.35	(岩級区分欠)CM												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目状態及びコアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した
283	65.16	66.43	(割れ目状態欠)aランク	65.86	66.43	(割れ目状態欠)bランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した。
284	66.40	67.00	(RQD欠)22	66.00	67.00	(RQD欠)10												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最大コア長12cmとしたコアには潜在割れ目が見られるためRQDには計上しないことと、最大コア長10cmがみのRQDの値に変更した
285	66.46	67.38	∠30～50°の割れ目が2～15cm間隔でコアは見好であり、それと斜交するように∠65°以上の高角割れ目が発達する。	66.06	67.38	∠20～50°の割れ目が2～15cm間隔で分布し、コアは良好不良あり。それと斜交するように∠65°以上の高角度割れ目が発達する。												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が発達し、コアは良好ではないため削除した ・表現の適正化(高角⇒高角度)
286	66.46	66.81	66.06～66.81m間では、高角割れ目の多くは密着している。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。	66.06	66.81	66.06～66.81m間では、高角度割れ目の多くは密着しているも、割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(高角⇒高角度)
287	66.45	68.23	(岩級区分欠)CL	66.85	68.23	(岩級区分欠)CM												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
288	66.45	67.38	(割れ目状態欠)aランク	66.85	67.38	(割れ目状態欠)bランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
289	66.85	66.86	∠45°の割れ目間(巾15mm)、岩質劣化する。	66.86	66.86	∠40°の割れ目間(幅15mm)、軟質化し、脱色する。												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(幅) ・岩質劣化について具体的に記載した ・脱色について追記した
290	66.90	66.90	巾1mm、∠45°、淡黄褐砂混じりシルト挟在。	66.90	66.90	幅1mm、∠45°、淡黄褐色砂混じりシルト挟在。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(幅) ・脈記の修正(「色」の記載漏れ)
291	67.38	67.51	風化・変質を強く受け、コアは指圧でほぐれるほど軟質である。上端は∠35°、下端は∠20°で焼される。これ以深、上位と比べて風化の影響を強く受ける。	67.38	67.51	風化・変質を強く受け、コアは指圧でほぐれるほど軟質である。上端は∠35°、下端は∠20°で焼される。これ以深、上位と比べて風化の影響を強く受ける。												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化の影響を受けている深度が不明確であるため削除した
292	67.38	67.51	(割れ目状態欠)aランク	67.38	67.51	(割れ目状態欠)bランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをbランクに変更した
293	67.51	68.23	∠50～70°の割れ目が2～5cm間隔で交錯し、コアは片状を呈する。又、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細片化するが、岩片は硬質である。	67.51	68.23	∠50～70°の割れ目が2～5cm間隔で交錯し、コアは細片状を呈する。又、高角度の潜在割れ目も全体に発達する。割れ目沿いに細片化するが、岩片は中硬質である。												○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是正化(片状⇒細片状) ・コアにあわせて硬軟を変更した
294	67.51	68.23	(割れ目状態欠)aランク (風化欠)δランク	67.51	68.23	(割れ目状態欠)bランク (風化欠)γランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した。 ・上位になべて風化の程度が弱いため弱化のランクをγランクに変更した。
295	68.25	68.63	風化・変質著しく、岩組織、割れ目不明瞭となる。上端は∠50°で焼され、下端はコア異常により不明。カタクレーサイト様(?)の岩種。	68.23	68.63	風化・変質著しく、原岩組織、割れ目不明瞭となるが、割れ目跡は残る。含まれる硬に変向脈形は見られない。上端は∠50°で焼され、下端はコア異常により不明。カタクレーサイト様(ネコの鈴)。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目ひ隙間及び硬の変向脈形の有無について追記した ・通記した理由から破砕部ではないと判断してカタクレーサイト様(?)を削除した ・表現の是正化(原岩組織)
296	68.25	68.33	網状に変質脈二分布する(mm様)。	68.23	68.33	網目状に変質脈土分布する(mm様)。下端境界は不明確である。割れ目跡は残る。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是正化(網状⇒網目状) ・境界の生状及び割れ目の残留について追記した ・通記した理由から破砕部ではないと判断して(mm)を削除した
297	68.25	68.41	(割れ目状態欠)dランク	68.23	68.41	(割れ目状態欠)bランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをbランクに変更した
298	68.41	68.63	(コアの硬さ欠)Dランク	68.41	68.63	(コアの硬さ欠)Eランク												-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは非軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した
299	68.41	68.63	土砂～角礫状を呈する(mm様)。	68.42	68.63	土砂～角礫状を呈する(mm様)。マンガン汚染で褐状化しているが、硬に変向脈形は見られない。												なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染については周囲と異なる状況であるため追記した ・硬の変向脈形の有無について追記した。 ・通記した理由から破砕部ではないと判断して(mm)を削除した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-B14-2）

孔名 H24-B14-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と異様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（角礫質、貝殻など）を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫径、海況度、含水状態などを記載。	本種構造 層理、葉理、級化など	郷道作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・堆積及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載。	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	整理等の別れ目 ・周辺他の別れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・長終長の代表的な別れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な別れ目があれば、別れ目の間隔、間口幅、別れ目面の色調、別れ目面のすべり（スリックンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物測 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱種岩 ・岩種	破砕等 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hd） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の種別等 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統状構造、塊合亜構造、葉理構造、明且状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	郷道作業における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
300	68.48	68.57	コアはオリーブ灰色を帯びる。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
301	68.63	68.77	（別れ目状態欄）uランク （風化欄）Bランク	68.63	68.77	（別れ目状態欄）uランク （風化欄）tランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目に挟在物を伴わないことが多いため別れ目状態のランクをsランクに変更した ・上位にべて風化の程度が弱いため風化のランクをtランクに変更した
302	68.83	70.03	∠40～50°程度の別れ目および同様の潜在別れ目が1～3cm間隔で発達する。別れ目沿いに変質変化し、細粒化もしくは細片化する。また、潜在別れ目もハンマーの打撃で分離しやすい。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	
303	68.93	69.25	68.93～69.00m、69.19～69.25m間は、上下位と比べて強く風化・変質し、コアは軟質となる。一部は指圧で潰せる。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
304	69.18	69.22	巾30mm、上端∠50°、下端45°シルト混じり砂礫状を呈する。上下端は巾1mm程度砂混じりシルト状を呈する。	69.18	69.22	幅20mm、上端∠50°、下端45°、明青褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端は幅1mm程度灰白色の砂混じりシルト状を呈する。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（幅） ・砂礫状態及びシルト状態の色調を追記した
305	69.32	69.42	∠45°、別れ目に巾0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰）挟在。白雲母を伴う。	69.42	69.42	∠45°、別れ目に幅0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰色）挟在。白雲母を伴う。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（幅） ・脱記の修正（「色」の記載漏れ）
306	69.72	69.72	∠40°、別れ目に巾0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰）挟在。白雲母を伴う。	69.72	69.72	∠40°、別れ目に幅0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰色）挟在。白雲母を伴う。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（幅） ・脱記の修正（「色」の記載漏れ）
307	69.80	69.80	∠45°、別れ目に巾0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰）挟在。白雲母を伴う。	69.80	69.80	∠45°、別れ目に幅0.3～1mm変質粘土（細オリーブ灰色）挟在。白雲母を伴う。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（幅） ・脱記の修正（「色」の記載漏れ）
308	69.16	70.00	∠75°以上の高角変質部。指圧で容易に潰せる。全体にマンガンを伴う。	－	－	－									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	
309	70.10	71.00	（RQD欄）10 （最大コア長欄）10	70.00	71.00	（RQD欄）0 （最大コア長欄）3									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・最大コア長10cmとした箇所にも密着別れ目が存在するため最大コア長を変更した ・上記に伴い、RQDを変更した
310	70.13	70.33	（別れ目状態欄）uランク	70.03	70.33	（別れ目状態欄）sランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目が認識できるため別れ目状態のランクをsランクに変更した
311	70.13	70.33	別れ目が多く、それに沿って別れるため岩組織は不明瞭となる。全体に粘土細断が少有し、コアは軟質となる。一部は指圧で潰せる。（カタクレーサイ～Hi様を呈する）。	70.03	70.33	別れ目が多く、それに沿って別れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に粘土細断が少有し、コアはやや軟質となる。一部は指圧で潰せる。（カタクレーサイ～Hi様を呈する）。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（原岩組織） ・粘土細断の色調を追記した ・コアにまわせて硬軟を変更した ・別れ目の痕跡と残っているため破砕部ではないと判断して「カタクレーサ小～Hi様を呈する」を削除した	
312	70.13	70.14	マンガンが濃集する。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
313	70.16	70.16	∠70°、せん断性別れ目、縁が切れている。	70.16	70.16	∠70°、せん断性別れ目、縁が切れている。 （粘土別れ目を挟む）であり、別れ目には挟在物が認められない。別れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・縁が切れている根拠がないため削除した ・別れ目は環境の状況について追記した ・追記した理由からせん断性別れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	
314	70.33	70.88	∠40°程度の別れ目が卓越し、0.5～4cm間隔で発達する。別れ目の距離するところではやや変質が進行するが、コアは細ね片～短柱状で採取される。岩片は硬質である。	70.33	70.88	∠40°程度の別れ目が卓越し、0.5～4cm間隔で発達する。別れ目の距離するところではやや変質が進行するが、コアは細ね細片～短柱状で採取される。岩片はやや硬質である。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（片状⇒細片状） ・コアにまわせて硬軟を変更した	
315	70.18	71.05	（別れ目状態欄）uランク	70.88	71.05	（別れ目状態欄）sランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目が認識できるため別れ目状態のランクをsランクに変更した
316	70.18	71.05	上位と比べて風化・変質が進行し、コアは軟質化している。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
317	71.40	72.00	（RQD欄）11 （最大コア長欄）11	71.00	72.00	（RQD欄）0 （最大コア長欄）7									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・最大コア長11cmとした箇所にも密着別れ目が存在するため最大コア長を変更した ・上記に伴い、RQDを変更した
318	70.88	70.93	指圧で変形するほど軟質で、Hi様を呈する。上端はコア質隙により不明、下端は∠45°。	70.88	70.93	指圧で変形するほど軟質で、Hi様を呈する。上端はコア質隙により不明、下端は∠45°。変質で明目状態とが異なるが、原岩組織は認められる。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	・岩目状態とや原岩組織の有無について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「Hi様」を削除した
319	71.45	71.32	風化・変質の程度弱く、コアは硬質となる。	71.05	71.32	風化・変質の程度弱く、コアはやや硬質となる。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアにまわせて硬軟を変更した
320	71.45	71.66	（コアの形状欄）Ⅳランク	71.05	71.66	（コアの形状欄）Ⅴランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	下位と同様な別れ目頻度であるためコアD形状のランクをⅤランクに変更した
321	71.12	71.79	上下位に比べて変質が進行し、コアはやや軟質となる。コア表面暗い。	－	－	－									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
322	71.79	73.17	（別れ目状態欄）uランク	71.79	73.17	（別れ目状態欄）sランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目に挟在物を伴わないことが多いため別れ目状態のランクをsランクに変更した
323	71.79	72.14	（岩級区分欄）CL	71.79	72.14	（岩級区分欄）CM									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
324	71.79	72.14	∠40～60°の別れ目が交錯し、コアは片状をなすする。別れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン汚染もあわせて認められる。	71.79	72.14	∠40～60°の別れ目が交錯し、コアは一部細片状となる。別れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン汚染もあわせて認められる。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の適正化（片状⇒細片状） ・文章の整正化	
325	72.14	72.14	∠40°、巾1～3mm、灰～緑灰色砂混じりシルト挟在。白雲母が混入する。	72.14	72.14	∠40°、幅1～3mm、灰～緑灰色砂混じりシルト挟在。白雲母が混入する。									－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の整正化（幅） ・脱記の修正（「色」の記載漏れ）
326	72.14	72.90	∠20～30°の別れ目が1～10cm間隔で発達する。別れ目沿いに変質化するが、コアは硬質。メンマー打診で金属音を発する。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	
327	－	－	－	72.70	73.05	幅数10～90°で幅1～2mmの石英脈を挟む。									－	なし	○	－	－	－	－	－	－	－	・石英脈は階段と異なる状況であるため追記した
328	72.90	73.53	∠50°およびと70°以上の高角別れ目が5～10cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。	72.90	73.53	∠50°およびと70°以上の高角別れ目が5～10cm間隔で発達し、コアは短柱状を呈する。									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の整正化（高角⇒高角度） ・コアにまわせてコア形状を変更した
329	73.03	73.13	73.00～73.13mまで、やや変質（脱色）し、上下位と比べてやや軟質となっている。	73.00	73.13	73.00～73.13mは、やや変質（脱色）し、上下位と比べてやや軟質となっている。									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアにまわせて硬軟を修正した
330	73.13	73.13	73.13mの別れ目（∠40°）は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	
331	73.17	73.53	（コアの形状欄）Ⅲランク	73.17	73.53	（コアの形状欄）Ⅳランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上位と同様の別れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
332	73.53	73.74	∠40°の別れ目が1～3cm間隔で発達し、別れ目沿いに変質が進行する。別れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。	－	－	－									－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	
333	73.74	73.93	（コアの形状欄）Ⅴランク	73.74	73.93	（コアの形状欄）Ⅳランク									－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下位と同様の別れ目頻度であるためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
334	73.74	75.24	（別れ目状態欄）uランク	73.74	75.24	（別れ目状態欄）sランク						○			－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・別れ目に挟在物を伴わないことが多いため別れ目状態のランクをsランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-B14-2）

孔名 H24-B14-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、隣圏の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード																	
			記事	記事（変更箇所を赤書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）															破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・風化・変質・熱水変質・鉱化などを記事欄に記載	色調・淡色の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、間の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、隣圏と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水度、含水状態などを記載。	地質構造（層理、葉理、組化など）	都道作業における特記事項・コア欠如、コア接続など	地質名・岩種及びその岩区間深度を網羅的に記載。・隣圏と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載。	色調・淡色の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を まとめて記載。・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を網羅的に記載。・隣圏と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など・鉱種並・岩種	破砕度区分・記号（Hu,Hb,Hj）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・組成構造、複合面構造、葉等構造、剪断状態など	長新活動面（認定した場合）	空隙の状況・コア欠如、コア接続など	都道作業における特記事項・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
335	7362	73.63	巾10mm程度、∠40°、割れ目間変質により緑灰帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化している。	73.62	73.63	幅10mm程度、∠40°、割れ目間変質により緑灰色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（「色を」の記載漏れ）・表現の適正化（幅）
336	7374	74.95	73.74～74.95、∠40～50°の割れ目が2～15mm程度の間隔で発達する。割れ目面がやかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮。コアは片～柱状を呈し、堅質である。	73.74	74.95	7374～74.95m、∠40～50°の割れ目が2～15cm程度の間隔で発達する。割れ目面がやかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮。コアは細片～柱状を呈し、硬質である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（単位の記載漏れ）・表現の適正化（片状⇒岩片状）
337	7430	74.95	割れ目間隔広くなり、コアは柱状を主とする。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
338	7495	75.91	（岩級区分欄）CL	74.95	75.91	（岩級区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目状態のランクの変更に伴い、岩盤を変更した
339	7524	75.91	∠40°および75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する亜在割れ目が分布する。割れ目および潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
340	7535	75.35	75.35m付近、∠35°の割れ目に沿って巾6～25mm岩質劣化し、ご砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	75.35	75.35	7535m付近、∠35°の割れ目に沿って幅8～20mm岩質劣化し、土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（幅）
341	7550	76.27	（割れ目状態）bランク	75.50	76.27	（割れ目状態）hランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目＝挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをhランクに変更した
342	7531	77.91	∠40～60°の割れ目が5～20cm間隔で発達する。割れ目沿いに変質（軟色）し、割れ目面は白雲母を伴い、オリーブ灰色を呈する。わずかに黄鉄鉱が着する。コアは硬質で短柱～柱状を呈する。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
343	7627	-	76.27m以深、潜在割れ目は少なくなる。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
344	-	-	-	76.65	76.65	傾斜50°、幅3～5mmの石英脈を挟む。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈＝隣圏と異なる状況であるため追記した
345	7730	77.91	割れ目間隔広くなり、コアは長柱状を呈する。	-	-	-								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
346	7717	77.91	（コアの形状欄）Ⅱランク	77.17	77.91	（コアの形状欄）Ⅲランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目がほとんど分布しないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
347	7718	77.38	∠40°割れ目面に黄鉄鉱が濃集する。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
348	7711	79.32	（割れ目状態）eランク	77.91	79.32	（割れ目状態）hランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをhランクに変更した
349	7711	79.79	（風化欄）fランク	77.91	79.79	（風化欄）jランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・隣圏と同様に風化の程度が弱いため弱化のランクをjランクに変更した
350	7711	78.25	∠40～60°および不規則な高角割れ目が発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化や褐色が認められるが、岩片は硬質。	77.91	78.25	∠40～60°および不規則な高角度割れ目が発達し、コアは細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や褐色が認められるが、岩片は硬質。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（片状⇒細片状、高角⇒高角度）
351	7815	79.14	∠20～40の割れ目が2～10cm間隔で発達し、コアは片～短柱状を呈する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し（一部流失する）、割れ目のかみ合せ悪い。	78.25	79.14	∠20～40°の割れ目が2～10cm間隔で発達し、コアは細片～短柱状を呈する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し（一部流失する）、割れ目のかみ合せ悪い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（単位の記載漏れ）・表現の適正化（片状⇒細片状）
352	7844	78.61	割れ目交錯し、コアは片状を主とする。	78.44	78.61	割れ目交錯し、コアは細片状を主とする。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（片状⇒細片状）
353	79.4	79.79	∠40～50°の割れ目が1～3cm間隔で発達し、コアは片状を主とする。割れ目沿いに別色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。	79.14	79.79	∠40～50°の割れ目が1～3cm間隔で発達し、コアは細片状を主とする。割れ目沿いに別色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（片状⇒細片状）
354	79.2	79.42	巾5～10mm、∠20°、灰色帯、石英の粒からなる。	79.42	79.42	幅2～10mm、∠20°、灰色の石英脈を挟む。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（幅）・石英脈であるための表現を変更した
355	79.44	79.79	上下位に比べて変質を強く受け、コアは軟質となっている。又、割れ目沿いの褐色化が目立つ。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
356	79.7	79.77	巾8mm、∠40°、灰白～暗褐色を呈するシルト質砂状挟在。	79.77	79.77	幅8mm、∠40°、灰白～暗褐色を呈し、シルト質砂状に変質する。硬質。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（幅）・変質にもリシルト質砂状に見えるが、硬質であることを追記した
357	79.7	79.79	巾10mm、∠40°	~~79.77~~	~~79.79~~	~~巾40mm、∠40°~~								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記と同じものを記載しようとしたものなので削除した
358	79.9	82.03	（割れ目状態）hランク	79.79	82.03	（割れ目状態）hランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目＝挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをhランクに変更した
359	79.9	82.13	∠40～50°の割れ目が5～8cm間隔で発達し、コアは短柱状を主とする。割れ目面の一部はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに別色が認められるが、岩質は硬質である。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
360	80.03	82.03	（風化欄）fランク	80.00	82.03	（風化欄）jランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・隣圏と同様な風化の程度のため風化のランクをjランクに変更した
361	80.63	81.47	∠70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目盲目凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
362	81.25	81.25	∠40°、巾1～2mm、黄鉄鉱が割れ目に付着する。	81.25	81.25	∠40°、幅1～2mm、黄鉄鉱が割れ目に付着する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（幅）
363	81.40	81.76	∠30～50°の割れ目が交錯し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せ悪い。（コア質調による？）	81.40	81.76	∠30～50°の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せ悪い。（コア質調による？）								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（片状⇒細片状）・コア質調によるものであるかは不明であるため、記載を削除した
364	－	－	－	81.60	81.60	傾斜50°、幅2～5mmの石英脈を挟む								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈＝隣圏と異なる状況であるため追記した
365	－	－	－	81.99	81.99	傾斜45°、幅1mmの石英脈を挟む								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈＝隣圏と異なる状況であるため追記した
366	82.13	82.72	（コアの形状欄）Ⅱランク	82.13	82.72	（コアの形状欄）Ⅲランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目がほとんど存在しないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
367	82.13	83.59	上位と比べて割れ目（∠40～50°）間隔広くなり（10～20cm程度）、コアは柱状を主とする。割れ目面は緑灰～オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに別色が認められる。	82.13	83.59	上位と比べて割れ目（∠40～50°）間隔広くなり（10～20cm程度）、コアは柱状を主とする。割れ目面は緑灰～オリーブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに別色が認められる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアの形状を変更した・緑色という色名称は土色帖にないる時であるため色調名を変更した
368	－	－	－	82.33	82.33	傾斜40°、幅2mmの石英脈を挟む								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈＝隣圏と異なる状況であるため追記した
369	－	－	－	82.36	82.36	傾斜40°、幅1～2mmの石英脈を挟む								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈＝隣圏と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名 H24-B14-2

○：記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び粘土、含有物（有機質、見掛など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海成度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、風化の種類・度、風化の含有物などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	鉱理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統集合代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のマペリスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石系、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱構造 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号（H1,H2,H3） ・区分毎の区間深度	破砕支区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし高変化細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、葉構造 ・単目状粘土など	高新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
370	82.88	83.03	∠35～40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。又、白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
371	82.88	83.03	(割れ目状態)cランク	82.88	83.03	(割れ目状態)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
372	83.03	83.59	(コアの形状欠)Ⅲランク	83.03	83.59	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れEがほとんど存在しないためコアD形状のランクをⅡランクに変更した
373	83.59	83.88	(コアの形状欠)Ⅴランク (割れ目状態)bランク	83.59	83.88	(コアの形状欠)Ⅳランク (割れ目状態)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れEが局所的に少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した ・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
374	83.59	83.88	∠30～50°の割れ目が4～10cm間隔で発達し、不規則な高角度割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いに脱色が認められるが、より明瞭に認識できる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
375	83.88	84.54	∠45°程度の割れ目が10～20cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。コアは破質である。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
376	84.16	84.45	84.16～84.45mには、∠70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性悪く消失する。	84.16	84.45	84.16～84.45mには、∠70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性悪い。<u>4条ほどある。</u>									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化（高角⇒高角度） ・文章の適正化（「連続性が悪い」と「消失」は同義であるため削除した）
377	84.54	84.54	∠45°割れ目面に珪質鉱物（石英？）の脈晶が晶出する。	84.54	84.54	∠45°割れ目面に<u>柱状</u>の珪質鉱物（石英？）の脈晶が晶出する。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・鉱物が柱状を造起した ・石英であると判断して「？」を削除した
378	84.54	84.83	(風化欠)ｙランク (割れ目状態)cランク	84.54	84.83	(風化欠)jランク (割れ目状態)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・上位と同様な風化の程度のため風化欠ランクをjランクに変更した ・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
379	84.54	84.83	割れ目間隔狭くなり、割れ目沿いの珪質劣化細片、細粒化しが目立つ。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
380	82.83	82.83	∠40°割れ目にフィルム～巾1mm方解石細脈伴う。	84.83	84.83	∠10°割れ目にフィルム～幅1mm方解石細脈伴う。									○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・脈記の修正（82.83⇒84.83） ・表現の適正化（幅）
381	84.83	85.06	割れ目間隔1～2cm程度と密になり、上下位と比べて変質進行し、コアはやや軟質となる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
382	-	-	-	84.91	84.94	傾斜45°、幅25mm程度で変質がみ、灰白色粘土が割目状に分布する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割目状の灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
383	85.36	89.74	∠30～40°の割れ目が5～30cm間隔で発達し、コアは柱状を主とする。	85.06	89.74	∠10～40°の割れ目が5～30cm間隔で発達し、コアは長柱状を主とする。									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・コアの形状を変更した
384	85.14	85.82	(コアの形状欠)Ⅲランク	85.14	85.82	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目がほとんど存在しないためコアD形状のランクをⅡランクに変更した
385	85.14	85.64	割れ目面の変質は認められない。	-	-	-									なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
386	85.18	85.28	巾1.5mm、∠31°、石英脈	85.28	85.28	幅5mm、∠35°、石英脈を挟む									なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・表現の適正化（幅、挟む）
387	85.19	86.28	∠60～70°の密集割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口（分離）し、細片化を伴う。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
388	85.12	88.31	(岩級区分欠)CM	85.82	88.31	(岩級区分欠)CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・下記の変更に伴い、岩級を変更した
389	85.16	88.31	(割れ目状態)cランク	85.96	88.31	(割れ目状態)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
390	85.16	87.52	高角度（∠80°以上）で湾曲する割れ目が規則分布する。割れ目沿いに細片・細粒化し、86.58～87.00mは、細粒化部を伴う。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
391	86.27	87.61	(コアの形状欠)Ⅲランク	86.27	87.61	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目がほとんど存在しないためコアD形状のランクをⅡランクに変更した
392	86.10	86.58	また、86.50～86.58mでは、割れ目面に柱状の珪質鉱物（石英）が晶出する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
393	87.41	-	87.61m以深、∠40～60°の割れ目が多くなる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
394	87.41	88.31	∠40～60°の割れ目および潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
395	87.73	88.31	(コアの形状欠)Ⅳランク	87.73	88.31	(コアの形状欠)Ⅲランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した
396	87.73	87.73	∠40°割れ目に黄鉄鉱が認められる。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
397	88.22	88.22	∠43°割れ目は暗オリーブ灰色化し、柱状の石英を晶出する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
398	88.22	88.30	複雑な有色鉱物を多く含み、コアは暗色帯びる。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
399	88.31	88.75	(コアの形状欠)Ⅲランク	88.31	88.75	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目がほとんど存在しないためコアE形状のランクをⅡランクに変更した
400	88.80	89.09	∠45°程度の割れ目が0.5～3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められるが、岩質は破質である。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
401	88.80	89.74	(岩級区分欠)CM	88.90	89.74	(岩級区分欠)CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目Xなどのランクの変更に伴い、岩級を変更した
402	88.90	94.10	(割れ目状態)cランク	88.90	94.10	(割れ目状態)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクにて変更した
403	89.09	89.41	(コアの形状欠)Ⅲランク	89.09	89.41	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目がほとんど存在しないためコアE形状のランクをⅡランクに変更した
404	89.09	89.09	∠43°割れ目は暗灰色化し、石英粒（φ0.3～0.5mm）が晶出する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
405	89.42	89.42	∠50°、割れ目に石英晶出する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
406	89.55	89.55	∠46°、割れ目に石英晶出する。	-	-	-									○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
407	89.51	89.74	(コアの形状欠)Ⅲランク	89.55	89.74	(コアの形状欠)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		・割れ目がほとんど存在しないためコアE形状のランクをⅡランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-B14-2）

孔名 H24-B14-2

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるとの記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			直正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	単独構造 層理、薄層、級化など	堆積作業における特記事項 ・コア充如、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載。	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検出物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈 方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・挿構造 ・岩構	破砕帯							空隙の状況	堆積作業における特記事項 ・コア充如、コア破砕など	記事を削除・変更・追悪した理由
																	破砕度区分 ・記号（H1,H2,H3） ・区分幅の区間深度	破砕度区分の破断面	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・間粒 ・細粒部の連続性・連続性 ・間粒組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・節状構造、複合岩構造、茶筒構造、明瞭状粘土など	最新活動面（認定した場合）			
408	89.74	92.63	（コアの硬さ欄）Cランク	89.74	92.63	（コアの硬さ欄）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは主質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
409	89.74	92.63	（風化欄）アランク （岩級区分欄）CL	89.74	92.63	（風化欄）βランク （岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様な風化の程度のため風化のランクをβランクに変更した ・コアの巻き及び割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した
410	89.74	－	∠35～55°の割れ目が2～6cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。	89.74	90.56	∠35～55°の割れ目が2～6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が発達する下端深度を追記した ・表現の適正化（片状⇒細片状）
411	90.38	90.56	（コアの形状欄）Vランク	90.08	90.56	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様な割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した
412	90.38	90.56	中角度の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。	90.08	90.56	45°程度の中角度の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・具体的な数値を追記した ・棒状になっていないため削除した
413	－	－	－	90.44	90.44	傾斜45°、幅3～8mmの石英脈を挟む。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
414	91.38	91.13	細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細棒状で採取される。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
415	91.13	91.13	∠40°の割れ目に黄鉄鉱晶出。	－	－	－	－								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
416	91.18	91.83	（コアの形状欄）Vランク	91.48	91.83	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した
417	91.18	91.83	中角度の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。	91.48	91.83	10～50°の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した。
418	－	－	－	91.53	93.00	傾斜45～90°、幅5～10mmの石英脈が連続して分布する。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
419	92.13	92.13	∠40°の割れ目の一部に黄鉄鉱晶出。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
420	92.13	93.58	割れ目間隔が3cm以上となり、コアは柱状。	92.83	92.99	割れ目間隔が10cm以上となり、コアは柱状。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにまわせて下端深度を変更した
421	93.18	94.10	（コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）CL	93.58	94.10	（コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
422	93.14	93.64	∠40°の割れ目に黄鉄鉱晶出。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
423	94.40	94.10	（コアの形状欄）Vランク	94.00	94.10	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同様の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した
424	94.40	94.63	低～中角度の割れ目が多く、岩片状～棒状コアで採取される。	94.10	94.63	10～45°程度の割れ目が多く、岩片状～棒状コアで採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにまわせて割れ目が多くなる上端深度を変更した ・低～中角度を具体的な数値に変更した
425	94.34	94.24	∠45°の割れ目に厚さ1～2mmの灰白色砂質粘土を介在する。	94.24	94.24	∠40°の割れ目に厚さ1～2mmの灰白色砂質粘土を挟在する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟在）
426	94.34	94.34	∠40°の割れ目に黄鉄鉱晶出。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
427	94.37	94.37	∠40°の割れ目に黄鉄鉱晶出。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
428	94.43	95.07	（割れ目状態欄）cランク	94.63	95.07	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
429	94.43	95.44	（コアの硬さ欄）Cランク	94.63	96.44	（コアの硬さ欄）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
430	95.40	96.97	（風化欄）アランク	95.00	96.97	（風化欄）βランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲と同様な風化の程度のため風化のランクをβランクに変更した
431	95.47	96.03	中角度の割れ目が多く、岩片状～棒状で採取される。	95.07	96.03	10～50°の割れ目が多く、岩片状～棒状で採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した。
432	95.34	95.43	細かい割れ目が発達し、細棒状で採取される。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
433	95.36	95.36	ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土介在。	95.36	95.36	ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土挟在。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟在）
434	96.38	96.54	中角度の割れ目が発達し、主に棒状で採取される。	96.38	96.54	45°程度の割れ目が発達し、主に棒状で採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した。
435	96.44	96.64	変質が認められ、やや軟質である。	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
436	96.54	96.64	細かい割れ目が発達し、主に細棒状で採取される。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
437	96.80	96.97	変質が認められ、やや軟質である。	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
438	96.87	97.06	（割れ目状態欄）cランク	96.97	97.06	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
439	96.87	97.50	（岩級区分欄）CM	96.97	97.50	（岩級区分欄）CH									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
440	97.05	100.40	（割れ目状態欄）cランク	97.05	100.40	（割れ目状態欄）bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをbランクに変更した
441	97.50	98.09	中～高角度の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。	97.50	98.09	45～70°の割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・中～高角度を具体的な数値に変更した。
442	97.60	98.08	（コアの硬さ欄）Cランク	97.60	98.08	（コアの硬さ欄）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
443	97.83	97.86	細かい割れ目が発達し、細棒状で採取される。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
444	98.28	100.40	不規則な割れ目が多く、主に岩片状～棒状で採取される。	－	－	－									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
445	98.28	100.40	（コアの硬さ欄）Cランク	98.28	100.40	（コアの硬さ欄）Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
446	98.84	98.94	（コアの形状欄）Vランク	98.84	98.94	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲にて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-B14-2）

孔名 H24-B14-2

○：記載有り　　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																
			記事	記事（変更箇所を水墨ポで表示）（変更していないものは「-」で表示）													破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑			地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	地質構造（層理、薄層、褶化など）	概略作業における特記事項・コア欠如、コア喪失など	地質名・薄層及びその区間深度を網羅的に記載。・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、現品の種類・性、現品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	整理等の該れ目・現品統の該れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。・長統毎の代表的な該れ目の見かけの傾斜や該在物の種類を網羅的に記載。・周囲と異なる状況や特徴的な該れ目があれば、該れ目の間隔、開口幅、該れ目面の色調、該れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物晶・石英脈、薄石膏、方解石脈等の連続幅、色調、見かけの傾斜など・熱隆岩・岩種	破砕区分・記号（He,Hb,Hj）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・組成構造、複合面構造、素敵構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	概略作業における特記事項・コア欠如、コア喪失など	記事を削除・変更・追記した理由
447	99.61	99.66	細かい該れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
448	-	-	-	99.94	99.94	傾斜25°、幅5mmで橙色のカリ長石が該状に分布する。								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・該状のカリ長石は周囲と異なる状況であるため追記した
449	100.40	100.52	細かい該れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状～土砂状で採取される。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
450	100.52	100.75	（該れ目状態欄）Bランク（コアの硬さ欄）Cランク	100.52	100.75	・該れ目状態欄：Bランク・コアの硬さ欄：Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目に該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをBランクに変更した。・コアは変質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
451	100.75	101.03	変質が明瞭で、やや軟質である。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
452	100.90	101.03	細かい該れ目が発達し、土砂に近い状態で採取される。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
453	101.03	101.47	（該れ目状態欄）Bランク	101.03	101.47	・該れ目状態欄：Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目に該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをBランクに変更した。
454	101.47	101.52	破砕帯	101.47	101.52	破砕部　長軸活動面は101.50m								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）・長軸活動面深度を追記した
455	101.47	101.50	破砕を受け、変質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。∠25°（Hb）。	101.47	101.50	破砕を受け、変質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。∠25°で直線的に連続（Hb）。幅2～5mmの筋状を含む。やや硬質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅30mm。									-	-	-	-	-	-	○	-	-	・幅、硬さ、境界面及び細粒部の連続性・直線性、破砕部中の岩片、原岩組織が認められる岩片を主体と、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
456	-	-	-	101.50	101.50	灰白色のフィルム状粘土を伴う。直線性が強い。								-	-	-	○	○	○	○	-	○	-	-	・該在する粘土について追記した
457	101.50	101.52	粘土混じり砂礫状（Hj）	101.50	101.52	粘土混じり砂礫状（Hj）上端25°、下端30°で直線的に連続。硬質で、径20mm以下の岩片主体。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。灰白～明褐灰色を呈する。幅20mm。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	・破砕部内物質、上端下端境界、幅、色調、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体と、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
458	101.52	102.09	（該れ目状態欄）Bランク（コアの硬さ欄）Cランク	101.52	102.09	・該れ目状態欄：Bランク・コアの硬さ欄：Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目に該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをBランクに変更した。・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
459	-	-	-	102.11	103.92	径7～3cm程度のカリ長石の大型現品が目立つ。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・カリ長石の大型現品は周囲と異なる状況であるため追記した
460	102.55	102.94	中角度の該れ目が多く、岩片状～細礫状で採取される。	102.55	102.94	10～50°の該れ目が多く、岩片状～細礫状で採取される。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した
461	102.94	103.11	（該れ目状態欄）aランク（コアの形状欄）Vlランク	102.94	103.11	・該れ目状態欄：aランク・コアの形状欄：Vランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目が狭間できるため該れ目状態のランクをaランクに変更した。・周囲と同様の該れ目頻度であるためコアの形状のランクをVランクに変更した
462	102.94	103.11	細かい該れ目が発達し、変質も明瞭で、礫状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が該状に変色する。	102.94	103.11	細かい該れ目が発達し、褐色変質も明瞭で、礫状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が該状に混在する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の色調を追記した
463	-	-	-	103.11	103.53	径5～10mm程度の灰色の長石の見品が目立つ。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・長石の見品は周囲と異なる状況であるため追記した
464	103.11	103.93	（該れ目状態欄）aランク	103.11	103.93	・該れ目状態欄：aランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目に該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをaランクに変更した
465	103.11	103.93	中角度の該れ目が多く、低角度の潜在該れ目が発達する。全体に弱い変質を受けている。	103.11	103.93	30～60°の該れ目が多く、5～10°の潜在該れ目が発達する。全体に弱い変質を受けている。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度、低角度を具体的な数値に変更した
466	-	-	潜在該れ目もやく、柱状コアを主とする。	103.93	104.61	潜在該れ目も少なく、短柱状コアを主とする。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・柱状コアの区間深度を追記した・該状の表記（なし→少なく）・コアにあわせてコア形状を変更した
467	104.14	105.54	中角度の該れ目が多く、主に岩片状で採取される。	104.44	105.54	10～50°の該れ目が多く、主に岩片状で採取される。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した
468	104.14	104.61	（コアの形状欄）Vランク（破砕区分欄）VL	104.44	104.61	（コアの形状欄）IVランク（破砕区分欄）CM								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同様の該れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した。・上記の変更に伴い、岩級を変更した
469	104.14	105.54	（該れ目状態欄）aランク	104.44	105.54	・該れ目状態欄：aランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目に該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをaランクに変更した。
470	-	-	-	104.47	104.65	径3～10mmの橙色のカリ長石の見品が目立つ。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・橙色のリリ長石は周囲と異なる状況であるため、追記した。
471	105.10	105.54	（コアの硬さ欄）Cランク	105.00	105.54	・コアの硬さ欄：Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
472	105.14	105.61	破砕帯（主せん断面：105.61m）	105.54	105.61	破砕部（長軸活動面は上端105.54mから105.61mの可能性がある）								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一（破砕帯→破砕部）・長軸活動面という用語に統一・長軸活動面は肉眼で判断できないため削除した
473	105.14	105.61	∠45°の該れ目間は破砕を受け、変質が著しく、土砂状を呈する。灰白色粘土が該状に混在する。	105.54	105.61	∠40°の該れ目間は破砕を受け、変質が著しい。赤褐色～褐色の灰白色粘土が該状に混在する。シルト質じり砂礫状（Hj）を呈する。上端40°、下端45°でともに直線的に連続。径10mm以下の岩片主体、オリーブ灰色を呈し、硬質で、含まれる細粒部は点所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も見られる。									-	-	-	○	○	-	○	-	-	・破砕部内物質、色調、硬軟、破砕部中の岩片、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	
474	105.41	106.22	（該れ目状態欄）cランク	105.61	106.22	・該れ目状態欄：bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・該れ目ご該在物を伴わないことが多いため該れ目状態のランクをbランクに変更した。
475	105.41	107.12	（コアの硬さ欄）Cランク	105.61	107.12	・コアの硬さ欄：Bランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
476	105.41	107.12	中角度の該れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	105.61	107.12	30～50°の該れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・中角度を具体的な数値に変更した
477	106.12	106.34	∠50°の該れ目が卓越し、その該れ目には白色鉱物が晶出し、該れ目の周辺には変質が認められる。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
478	106.48	106.49	∠15°、∠50°の該れ目には、厚3～6mmの砂土質砂が介在。7.5GY3/1暗緑灰。	106.48	106.49	∠15°、∠50°の該れ目には、厚3～6mmの暗緑灰色の粘土質砂が該在する。白色鉱物を伴う。7.5GY3/1暗緑灰。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・色調を追記した・白色成分は周囲と異なる状況であるため、追記した。・表現の整正化（該在）
479	106.68	106.69	∠55°の該れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土が介在。	106.68	106.69	∠51°の該れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土を該在する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の整正化（該在）
480	106.78	106.83	黒色変質部、∠15°。	106.78	106.83	ドレライト部、∠15°、やや基質が細粒で方解石の細脈が見られる。アプライトの境界は明瞭である。アプライトよりは軟質である。高角度の該れ目にも貫入している。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・追記した所見から、アプライトの変質部マはなく、ドレライト脈であると判断して変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名：H24-B14-2

○ 記載有り　なし：該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であったため記載していないもの　－：該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード				適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード																	記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？		上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を赤書で表示） （変更していないものは「」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？	地質名 ・海陸や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海浜度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱造作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、見品の種類・性、見品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	割目等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・高頻角の代表的な割れ目の見かけの傾斜や該当物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がある方、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリックンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	流程構造	鉱物脈 ・石英脈、凝石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱種類 ・岩種	破砕等 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Ha） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・細状構造、複合面構造、葉構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鉱造作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
481	105.78	106.80	粘土質砂・細礫状、∠50°，7.5GY3/1(暗緑灰)。		106.78	106.80	トレライトの変質部で、粘土質砂・細礫状を呈する。∠50°，暗緑灰色(7.5GY3/1)を呈する。																								・トレライトの変質部であることを追記した ・文章の適正化
482	105.91	106.92	黒色変質部、不規則。106.83mの変質部と細状で連続。		106.91	106.92	トレライト脈、不規則。106.83mのトレライト脈と黒角埋割れ目の細状で連続する。																								・トレライト脈であるため変更した ・105.81mのトレライト脈との連続について追記・修正した
483	106.12	107.29	中～高角度の割れ目が多く、主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。		107.12	107.29	45～50°の高頻に割れ目が多く主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。										○														・中角度を具体的な数値に変更し、性状を追記した
484	106.29	107.45	細礫状～砂状を呈し、灰白色粘土が網目状にみられる。		－	－	－																								
485	107.30	107.31	暗灰色砂質粘土破砕(多少固結)，厚さ3～9mm，黄鉄鉱を伴う，∠55°。		107.30	107.31	幅1～3mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土が不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分断する。砂質粘土破砕(多少固結)，厚さ3～9mm，黄鉄鉱を伴う，∠55°。																								・変質部であることを追記した ・粘土に幅1mm以下で不連続に分布するのみで、主体は砂状を呈することを追記した ・岩片の定向配列の有無について追記した ・粘土の分布形態について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した
486	107.45	107.55	（コアの形状欄）Vランク		107.45	107.55	（コアの形状欄）VIランク																								・割れEが局所的に多いためコアの形状のランクをVIランクに変更した
487	107.45	108.11	中～高角度の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。		107.45	108.11	多方向の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。割れ目沿いに緑色変質している。										○														・多方向の割れ目が多いため修正した ・緑色変質は周囲と異なる状況であるため追記した
488	107.55	107.81	（コアの硬さ欄）Cランク		107.55	107.81	（コアの硬さ欄）Bランク										－														・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
489	107.81	108.11	高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。		－	－	－										○														
490	108.28	108.33	（変質欄）2ランク		108.28	108.33	（変質欄）3ランク										－														・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した
491	108.29	108.29	∠57°の割れ目に灰白色粘土1～2mm介在。		108.29	108.29	∠37°の割れ目に灰白色の方解石脈，幅1～2mm挟在。										○														・脈記の修正（「幅」の記載漏れ） ・方解石脈であるが「粘土」を変更した ・表現の適正化（挟在）
492	108.33	109.16	全体に変質を受け，緑灰～明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。		－	－	－										－														
493	108.33	108.55	（色調欄）10G8/1(明緑灰)		108.33	108.55	（色調欄）7.5YR7/2(明褐灰)										－														・上位と同様な色調であるため色名称を変更した
494	－	－	－		108.94	108.94	傾斜50°，幅0～8mmで方解石脈を挟む。										－														・方解石脈は周囲と異なる状況であるため追記した
495	109.00	110.00	（RQD欄）28 （最大コア長欄）15		109.00	110.00	（RQD欄）0 （最大コア長欄）9										なし		○												・最大コア長15cm及び11cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した ・上記に伴い、RQDを変更した
496	109.16	109.46	109.16～109.46，破砕帯(D-1破砕帯)（主せん断面：109.16）		109.16	109.46	105.16～109.46m，破砕部(d0-1破砕帯)（最新活動面：109.16m）										－														・脈記の修正（線位の記載漏れ） ・用語の統一（破砕帯→破砕部） ・最新活動面という用語に統一 ・破砕帯は評価であるため削除した
497	109.16	109.18	∠75°，細礫混り粘土状，幅2～10mm，(Hc-2)。		109.16	109.18	∠75°，細礫混り粘土状，幅2～10mm，(Hc-2)。破砕性が強く、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明緑灰色を呈する。										－														・色調、軟軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化（混じり）
498	109.18	109.30	∠75°の割れ目間の幅6cmは、変質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上盤の2～10mm，下盤の10～20mmに砂質粘土状(Hc-2程度)が不規則に分布する。		109.18	109.30	∠35°の直線的な割れ目間の幅6cmは、変質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上盤の2～10mm，下盤の10～20mmは砂質粘土状(Hc-2程度)が不規則に分布する。破質で、粒2～20mmの礫主体で、含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。明緑灰色を呈する。										－														・破砕部内物質、色調、硬軟、境界線及び細粒部の連続性・直線性、破砕幅中の礫、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した
499	109.30	109.32	砂質粘土状，∠80°，幅10～20mm，(Hc-2)。		109.30	109.32	傾混じり粘土状，下端∠80°でやや波打って連続，幅10～20mm，(Hc-2)。破質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明緑灰色を呈する。										－														・破砕部内物質、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・傾斜80°の境界面の位置を明記し、面り性状を追記した
500	109.12	109.46	∠80°の割れ目の上盤側は全体に変質を受け，明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの白色粘土が介在する。(Hb)。		109.32	109.46	∠80°の割れ目の上端側は全体に変質を受け，明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの白色粘土が挟在する。(Hb)。粘土混じり破砕部。 上端80°でやや波打って連続，下端80°で高曲する。破質で含まれる細粒部は明目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅5cm程度。										－														・上端下端境界、幅、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した ・表現の整正化（介在⇒挟在） ・上端側が必ずしも盤とは限らないため上端に変更した
501	109.46	109.70	∠80°の割れ目の下盤側は変質を受け，にぶい橙色を呈する。		109.46	109.70	破砕部の下端側は変質を受け，にぶい橙色を呈する。										○														・破砕部の下端側であるため その岩の記載に変更した ・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した
502	109.46	112.49	中角度の割れ目が多く、岩片状～細礫状で採取される。		109.46	112.49	30～50°の割れ目が多く、岩片状～細礫状で採取される。										○														・中角度を具体的な数値に変更した
503	109.84	109.84	∠70°の割れ目に厚さ1mmの白色粘土が介在する。		109.84	109.84	∠74°の割れ目に厚さ1mmの白色粘土が挟在する。										○														・表現の適正化（介在⇒挟在）
504	110.12	110.78	中角度の割れ目が密集し、細礫状で採取される。		110.12	110.78	30～50°の割れ目が密集し、細礫状で採取される。										○														・中角度を具体的な数値に変更した
505	－	－	－		110.80	110.85	110.80m，110.85m，傾斜50°，幅0～1mmの方解石脈を挟む。										なし		○												・方解石脈は周囲と異なる状況であるため追記した
506	110.85	111.16	変質が著しく 桃緑灰色を呈する、やや軟質で、礫状～細礫状で採取される。白色粘土フィルムが網目状に充填する。		－	－	－										なし		－												
507	111.16	111.55	（割れ目状態欄）cランク		111.16	111.55	（割れ目状態欄）bランク										－														・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
508	111.28	111.86	中角度の割れEが密集し、細礫状で採取される。一部白色粘土が網状に充填する。		111.78	111.86	45°程度の割れ目が密集し、細礫状で採取される。一部白色粘土が網状に充填する。										○														・中角度を具体的な数値に変更した
509	111.80	111.80	暗灰色砂混り粘土，厚さ4～6mm，∠45°。		111.80	111.80	暗灰色砂混り粘土，厚さ4～6mm，∠45°。										なし		－												・表現の適正化（混じり）
510	112.28	112.46	（コアの形状欄）Vランク		112.28	112.46	（コアの形状欄）VIランク										－														・周囲より割れ目が多いためコアの形状ランクをVIランクに変更した
511	112.28	112.46	中角度の割れEが数mm～2cm間隔で密集し、変質が認められる。		112.28	112.46	40～50°の割れ目が数mm～2cm間隔で密集し、変質が認められる。										○														・中角度を具体的な数値に変更した
512	112.46	112.50	（コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）Cl.		112.46	112.50	（コアの形状欄）IVランク （コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CM										－														・下位と同様な岩盤状況であるためコアの形状及びコアの硬さのランクを変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名 H24-B14-2

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

| | コア観察カード | | | 適正化すべき記事内容 | | | 第四系コア観察カード | | | | | | 基盤岩コア観察カード | | | | | |

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名 H24-B14-2

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であったため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正なすべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	上気深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	記事 上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤文字表示) [変更していないものは「-」で表示] 追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	都道府県における特記事項 ・コア欠如、コア優良など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩石の種類・硬、岩盤の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	節理等の割れ目 ・岩系毎の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や岩石毎の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	流理構造	鉱物脈 ・石英脈、漆石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・ 根腐帯 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Ha) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界値 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・級区構造、複合面構造、葉理構造、明白状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	都道府県における特記事項 ・コア欠如、コア優良など	記事を削除・変更・追記した理由
548	125.10	125.65	125.10m、35°～125.65m、30°の各割れ目面と割れ目間(2～5cm)が変質により緑褐色化、後半の割れ目の面には緑褐色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着する。また、若干の黄鉄鉱が晶出している。	125.30	125.65	125.10m、35°～125.65m、30°の各割れ目面と割れ目間(2～5cm)が変質により緑褐色化、後半の割れ目の面には緑褐色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着する。また、若干の黄鉄鉱が晶出している。																					
549	125.10	125.65	(コアの形状欄)Vランク (岩級区分欄)CL	125.10	125.65	(コアの形状欄)Dランク (岩級区分欄)CM																						・割れ目が少ないためコアの形状のランクをDランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
550	125.00	128.65	126～128.65mで色調は赤味おびる。特に、126.00～126.63m間では赤味が強い。	126.00	128.65	126.00～128.65mで色調は赤味を帯びる。特に、126.00～126.63m間では赤味が強い。																						・表現の統一(深度表示) ・表現の適正化(帯びる)
551	121.25	126.67	45°前後の割れ目や低密着割れ目ぞいを主に緑褐色化と緑褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土原油は分析しない。	126.25	126.67	41°前後の割れ目や低密着割れ目ぞいを主体に緑褐色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土原油は分析しない。																						・表現の適正化(沿い)
552	121.52	126.62	35°割れ目に緑色粘土付着し、微細な黄鉄鉱が晶出。	－	－	－																						
553	121.67	130.30	(割れ目状態欄)Sランク	126.67	130.30	(割れ目状態欄)Sランク																						・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをSランクに変更した
554	121.72	126.72	126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。	~~126.72~~	~~126.72~~	~~126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。~~																						・記載されている内容が認められないため削除
555	124.80	127.04	35°と60～70°割れ目のいずれもが約1cm間隔で分岐し交差するため、φ1cm前後の岩片に砕けている。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土のみが残るない。	－	－	－																						
556	127.73	127.90	石英が濃集し、全体として珪質となる。	127.73	127.90	硬1～3cm程度の石英、長石、カリ長石の斑晶が濃集する。全体として珪質となる。																						・粒径、斑晶の種類を追記した ・斑晶が結晶が明瞭であるため珪質していないと判断して「珪質」を削除した
557	127.63	127.63	45°割れ目に真幅0.5mmの緑褐色粘土が付着し、φ0.1～0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出。	－	－	－																						
558	127.80	123.50	30～40°と60～80°割れ目が交差し、φ1～2cmの硬質岩片を呈する。粘土付着はなく劣化は認められない。	127.80	128.15	30～40°と60～80°割れ目が交差し、φ1～3cmの硬質岩片を呈する。粘土付着はなく劣化は認められない。																						・割れ目の修正(123.50⇒128.15、(80°割れ目の下端深度に変更した))
559	121.58	128.58	40°割れ目に真幅1mmの緑褐色粘土が付着、真幅0.5mmの白色・方解石脈伴う。	－	－	－																						
560	121.60	128.90	概ね1～3cm間隔で低密着割れ目が多く分布、ハンマーの軽打で細岩片化する。	－	－	－																						
561	128.70	131.00	(コアの硬さ欄)Cランク	128.70	131.00	(コアの硬さ欄)Bランク																						・コアは珪質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
562	125.00	129.08	60～80°と20～30°割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い(「Cj」)。	129.00	129.08	60～80°と20～30°割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い(「Bj」)。																						・コアにきわせてコアの硬さを修正した
563	125.08	129.40	長さ3～6cmの短棒状コア中には低密着割れ目が1～2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃でφ1～2cmに細片化する。	129.08	129.40	長さ3～6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1～2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃でφ1～3cmに細片化する。																						・誤記の修正(棒⇒柱)
564	128.60	129.60	70°と80°割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲ではφ0.5～1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土原油は分析しない。	－	－	－																						
565	130.16	130.16	130.16、35°割れ目の一部が褐色風化する。劣化は伴なわない。	130.16	130.16	130.16m、35°割れ目の一部が褐色風化する。劣化は伴わない。																						・誤記の修正(単位の記載漏れ) ・表現の適正化(伴う)
566	130.16	－	130.16m以深では、長石(φ2～3mm)の一部が白濁化する。	－	－	－																						
567	129.79	131.00	35～45°と二こと直交ないし斜交する10～40°割れ目が交差し、φ1～3cmの岩片を呈する。割れ目には粘土付着や粘土原油は分析しない。	－	－	－																						
568	130.50	130.54	45°割れ目ぞいに細粒化する。粘土化はないが、真幅1～3mm石英脈を伴う。	130.50	130.54	45°割れ目沿いに細粒化する。粘土化はないが、真幅1～3mm石英脈を伴う。																						・表現の適正化(沿い)
569	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Sランク	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Sランク																						・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをSランクに変更した
570	131.00	132.00	ノンコア(コア欠如ですず)	131.00	132.00	コア欠如(コア採取できず)																					○	・表現の統一(コア欠如)
571	131.00	132.00	(地質名欄)空欄	131.00	132.00	(地質名欄)コア欠如																						・表現の統一(コア欠如)
572	132.30	133.46	上記同様、割れ目と低密着割れ目が1～3cm程度の間隔で密に分布し、φ1～3cm程度に岩片化した部分を多く含んでいる。 変質と風化による劣化はないが、133.46m付近の10°割れ目には緑褐色粘土が厚さ1mm程度で付着している。	－	－	－																						
573	132.30	134.00	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Sランク (コアの硬さ欄)Bランク																						・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをSランクに変更した ・コアは珪質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
574	132.30	133.30	132.00～132.61mと133.10～133.30mは、φ1～1cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さ「Cj」)。	132.00	133.30	132.00～132.65mと133.10～133.30mは、φ1～2cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さ「Bj」)。																						・コアにきわせてコアの硬さを修正した
575	133.37	134.00	割れ目ぞいに長さ5mm前後の概平な細縄に砕けている部分が多い。縄平被自身は珪質で劣化はない。また、縄には粘土は付着していない。	133.57	134.00	割れ目沿いに長さ5mm前後の細長い細縄に砕けている部分が多い。縄平被自身は珪質で劣化はない。また、縄には粘土は付着していない。																						・表現の適正化(沿い) ・表現の適正化(概平⇒細長い)
576	134.10	135.00	134.00～135.00、ノンコア(コア採取できず)	134.00	135.00	134.00～135.00m、コア欠如(コア採取できず)																					○	・誤記の修正(単位の記載漏れ) ・表現のき一(コア欠如)
577	134.10	135.00	(地質名欄)空欄	134.00	135.00	(地質名欄)コア欠如																						・表現のき一(コア欠如)
578	135.10	135.50	岩片は10～30°主体に1～2cm間隔で細かく割れ目が分布、岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土原油の挟在はない。石英の脈品は肉眼では確認できない。	135.00	135.50	岩片は10～30°主体に1～2cm間隔で細かく割れ目が分布、岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土原油の挟在はない。石英の脈品は肉眼では確認できない。																						・誤記の修正(密れ目⇒割れ目) ・石英の脈品は見られるため削除した
579	135.10	135.50	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	135.00	135.50	(割れ目状態欄)Sランク (コアの硬さ欄)Bランク																						・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをSランクに変更した ・コアは珪質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
580	135.10	136.00	ノンコア(採取ですず)	135.50	136.00	コア欠如(採取できず)																					○	・表現のき一(コア欠如)
581	135.10	136.00	(地質名欄)空欄	135.50	136.00	(地質名欄)コア欠如																						・表現のき一(コア欠如)
582	136.10	136.20	φ1～2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔(～2cmのクラッキー岩盤と評価)、解説分組合せを「sVC」と評価し、本区間をCLと判定した。	136.00	136.20	φ1～2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔1～2cmのクラッキー岩盤と評価し、解説分組合せを「sVM」と評価し、本区間をCLと判定した。																						・下記の5分組合せの変更に伴い、変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-B14-2）

孔名 H24-B14-2

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるとめ記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			直正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「－」で表示）										破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層の細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形態、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 層理、葉理、級化など	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・度、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	物理等の測れ目 ・同系統の測れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な測れ目の見かけの傾斜や現在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な測れ目があれば、測れ目の間隔、開口幅、測れ目面の色調、測れ目面のザベリ（スリケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物膜 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など 熱変岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hd） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、亜亜構造、網目状粘土など	長軸活動面 （設定した場合）	空隙の状況	概査作業における特記事項 ・コア欠如、コア破砕など	記事を削除・変更・追記した理由
583	13.600	136.30	（頻れ目状態標）Hランク （コアの硬さ欄）Cランク （岩級区分欄）D	136.00	136.30	（頻れ目状態標）Hランク （コアの硬さ欄）Bランク （岩級区分欄）CL							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目に挟在物を伴わないことが多いため頻れ目状態のランクをHランクに変更した。 ・コアは岩質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
584	136.30	136.50	（岩級区分欄）D	136.30	136.50	（岩級区分欄）CL								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
585	136.20	136.27	cVC組合せのCL。	136.20	136.30	bVE組合せのCL。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上記の組合せの変更に伴い、変更した。 ・同様な岩盤状況が見られるため下端深度を変更した
586	136.27	136.50	スライムも多く含むが、dVID δ2とし、D級と判定した。	136.30	136.50	スライムも多く含むが、dVID δ2とし、D級と判定した。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・評価が偏りのため、修正した
587	136.50	136.75	ノンコア（採取できず）、部分的に転土状のものを含む。	136.50	136.75	コア欠如（採取できず）。部分的に転土状のものを含む。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	・表現の統一［コア欠如］
588	136.50	136.75	（地質名欄）空欄	136.50	136.75	（地質名欄）コア欠如								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の統一［コア欠如］
589	136.75	137.08	φ1～2cmの縞状に砂け岩盤状況は不明であるが、136.00～136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。	136.75	137.08	φ1～2cmの縞状に砂け岩盤状況は不明であるが、136.00～136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。ただし、組合せはvVCである。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・各項目ランクの組合せを追記した
590	137.18	138.21	（変質欄）2ランク	137.08	138.21	（変質欄）3ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上位にとべて変質の程度が強いため変質のランクを3ランクに変更した
591	137.18	138.42	全体に緑色を呈しており（緑泥石化の変質作用？）、頻れ目間隔が幅約1～3cmの10～30°頻れ目とこれと斜交する40～50°頻れ目からなる。粗小の黄鉄鉱が晶出する。上記の高頻れ目系交差部の一部や、137.67～137.72mの45～50°頻れ目ずいでは、φ1cm程度の破砕帯状を呈し、細粒色粘土が付着する場合がある。石英の脈晶は肉眼では確認できない。	137.08	138.42	全体に緑色を帯びている（緑泥石化の変質作用？）。頻れ目間隔が幅約1～3cmの10～30°頻れ目とこれと斜交する40～50°頻れ目からなる。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の高頻れ目系交差部の一部や、137.67～137.72mの45～50°頻れ目ずいでは、φ1cm程度の破砕帯状を呈し、細粒色粘土が付着する場合がある。鉄の酸化や炭化は見られず、定向配列もしていない。石英の脈晶は肉眼では確認できない。							○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・表現の直正化（帯びる、沿い） ・鉄の酸化や移動、定向配列の有無について追記した ・追記した脈晶から破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した ・石英の見晶は見られるため削除した
592	138.11	138.42	（変質欄）3ランク	138.21	138.42	（変質欄）4ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した
593	138.11	138.42	変質作用による岩盤劣化部、頻れ目には褐鉄を鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。	138.21	138.42	変質作用による岩盤劣化部、頻れ目面及び原岩組織は認められる。頻れ目には褐鉄鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・岩盤劣化部の性状及び原岩組織の有無について追記した
594	138.16	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、（変質作用による）細粒化する。岩自体も軟質となる（硬さE）。	138.36	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、（変質作用による）細粒化する。岩自体も軟質となる（硬さE）。粘状の粘土は伴わない。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の来在について追記した
595	138.42	139.21	（頻れ目状態標）Hランク （コアの硬さ欄）Cランク	138.42	139.21	（頻れ目状態標）Hランク （コアの硬さ欄）Bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目に挟在物を伴わないことが多いため頻れ目状態のランクをHランクに変更した。 ・コアは石質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
596	138.42	140.04	岩自体は硬質（硬さC）であるが、傾斜50°～60°の頻れ目が発達し、それと交わる50°程度の頻れ目が発達する。	138.42	140.04	岩自体は硬質（硬さB）であるが、傾斜50°～60°の頻れ目が発達し、それと交わる50°程度の頻れ目が発達する。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせてにコアの硬さを変更した
597	138.63	138.66	上下位に比べて岩盤が劣化し、軟質となる（硬さE）、緑色を帯び細粒化する。	138.63	138.66	上下位に比べて岩盤が劣化し、軟質となる（硬さE）、緑色を帯び細粒化する。粘状の粘土は伴わない。								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・粘土の来在について追記した
598	139.21	139.50	軽微な変質を受け、頻れ目沿いに緑色を帯びる。岩自体は硬質（硬さC）。	139.21	139.50	軽微な変質を受け、頻れ目沿いに緑色を帯びる。岩自体はやや硬質（硬さC）。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて硬軟を変更した
599	139.50	140.04	（コアの硬さ欄）Cランク	139.50	140.04	（コアの硬さ欄）Bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは岩質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
600	139.50	150.00	（頻れ目状態標）Hランク	139.50	150.00	（頻れ目状態標）Hランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目に挟在物を伴わないことが多いため頻れ目状態のランクをHランクに変更した
601	140.04	140.33	頻れ目発達部、一部硬質部（硬さC）が残存するが、上下位に比べて軟質である。	140.04	140.33	頻れ目発達部。傾斜1～30°の微細な頻れ目からなる。一部硬質部（硬さB）が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目の性状について追記した ・コアに合わせてコアの硬軟を変更した
602	140.04	140.33	（コアの硬さ欄）Cランク	140.04	140.33	（コアの硬さ欄）Cランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
603	140.33	141.71	上位と比べて頻れ目頻度は小となるが、頻れ目沿いの細片化がられる。頻れ目は30～50°をなす。	－	－	－								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
604	140.33	141.71	（コアの硬さ欄）Cランク	140.33	141.71	（コアの硬さ欄）Bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは岩質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
605	141.71	142.00	（変質欄）2ランク	141.71	142.00	（変質欄）3ランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上下位に比べて変質の程度がやや強いため変質のランクを3ランクに変更した。
606	141.71	142.00	低角度（10～30°）の頻れ目が発達し、大半の頻れ目沿いが細片化、細粒化し、軟質となる。岩芯の一部は硬質（硬さC）である。	141.71	142.00	低角度（10～30°）の頻れ目が発達し、大半の頻れ目沿いが細片化、細粒化し、やや軟質となる。岩芯の一部はやや硬質（硬さC）である。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアに合わせて硬軟を変更した
607	142.00	149.30	（コアの硬さ欄）Cランク	142.00	149.30	（コアの硬さ欄）Bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは岩質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
608	142.00	142.30	上位に比べて頻れ目沿いの岩盤の劣化は軽微であるが、頻れ目沿いに細片化する。	－	－	－								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
609	142.30	142.48	上下位に比べ岩盤の劣化は軽微となる。頻れ目沿いに細片化する。	－	－	－								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
610	142.41	143.53	岩盤が劣化し、頻れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。特に、142.53～143.03m、143.33～143.51mは頻れ目が密集し、全ての頻れ目が細片化、細粒化する。粘土状部は挟まない。	142.48	143.53	岩盤が劣化し、頻れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。特に、142.53～143.03m、143.33～143.51mは頻れ目が密集し、全ての頻れ目が細片化、細粒化する。粘土状部は挟まない。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脈記の新正（挟まない⇒挟まない） ・表現の直正化（見る）
611	143.51	145.46	上位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、頻れ目頻度は小となる。頻れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。頻れ目は傾斜20°～30°のものが優勢である。	－	－	－								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
612	143.51	145.46	（岩級区分欄）C。	143.53	145.46	（岩級区分欄）CM								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目七短及びコアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した
613	145.41	146.17	上位に比べて頻れ目頻度が大となり、頻れ目沿いの細粒化がみられる。微細な頻れ目もみられるが、連続性に乏しい。	145.46	146.17	上位に比べて頻れ目頻度が大となり、頻れ目沿いの細粒化が見られる。 145.70～145.90mなど、微細な頻れ目も見られるが、連続性に乏しい。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・微細な頻れ目が見られる深度を追記した ・表現の直正化（見る）
614	146.1	146.71	上位に比べて頻れ目沿いの岩盤の劣化は軽微で、一部の頻れ目沿いに細片化がみられる。頻れ目頻度は小となる。	146.17	146.71	上位に比べて頻れ目沿いの岩盤の劣化は軽微で、一部の頻れ目沿いに細片化が見られる。頻れ目頻度は小となる。								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脈記の新正（頻度⇒頻度） ・表現の直正化（見る）
615	146.1	146.71	（岩級区分欄）C。	146.17	146.71	（岩級区分欄）CM								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・頻れ目七短及びコアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した
616	146.7	147.13	上位に比べ頻れ目頻度が大となり、微細な頻れ目が亀甲状をなす。	－	－	－								○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名 :H24-B14-2

○ :記載有り　　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは"－"で表示)											破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、礫数、角度、含水状態などを記載。	地積構造 ・層理、薄層、級化など	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる硬さや特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を纏めて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	基物質 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・ 熱変質 ・岩種	破砕度区分 ・記号(H0,H1,H2) ・区分毎の区間深度	破砕性区分の補足目 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、高度も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・節理構造、複合面構造、系等構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	変質の状況	都道作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	
617	146.90	146.90	146.30m付近、割れ目沿いに変質を受け、割れ目周縁が幅3cmにわたり、暗緑色を呈する。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
618	147.13	147.13	割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を帯びる。下盤側(147.20m付近まで)は熱色し、軟質(硬さD)となる。	147.13	147.13	割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を帯びる。下端側(147.20m付近まで)は熱色し、軟質(硬さD)となる。この間、幅細な割れ目が発達する。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した ・発達した割れ目について追記した
619	147.13	149.30	赤色を帯びる、傾斜50°～70°の割れ目が優勢であり、幅細な割れ目が発達し、亀甲状をなす。割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。	－	－	－								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
620	149.30	149.63	(コアの硬さ欄:Cランク	149.30	149.63	(コアの硬さ欄:Cランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアはかや軟質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した ・コアにさきわせて下端深度を変更した
621	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化がみられ、一部軟質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。	149.30	149.63	割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部(硬さC)が残存するが、上下位に比べて軟質である。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアにさきわせて硬軟を変更した ・表現の適正化(見る)
622	149.63	150.00	軽微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べ岩盤は硬質である。幅細な割れ目がみられる。	149.63	150.00	軽微な変質作用を受け、緑色を帯びる。上位に比べ岩盤は硬質である。幅細な割れ目が見られる。								－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・脈記の追正(149.62⇒149.63) ・表現の適正化(見る)
623	149.63	150.00	(コアの硬さ欄:Cランク	149.63	150.00	(コアの硬さ欄:Bランク								－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
624	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部、幅40mm、上下盤とも傾斜40°をなし、上下盤の堅岩部と明瞭に境される。緑緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。	149.80	149.85	変質作用による岩盤劣化部、幅40mm、上下端とも傾斜40°をなし、上下端の堅岩部と明瞭に境される。緑緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、緑緑色を帯びる。上下位に比べて軟質(硬さD)となる。								－	なし	－	－	－	－	－	－	－	－	－	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様。 ・表現の統一(堅岩⇒盤岩)

H24－D1－3

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、層圏の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を書きて表示) (変更していないのは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名、海陸や細かい区分などを記事欄に記載	色調・現数の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴・粒度構成、種の種類及び粒径、含有物(有機質、貝殻など)を明確的に記載。・その他、層圏と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿度、密度状態などを記載。	堆積構造・層理、層理、級化など	郷道作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	地質名・堆積及びその区間深度を明確的に記載。・層圏と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の岩相・級、現品の岩来度などを記載	色調・現数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流堆構造	思現等の調れ目・同系統の調れ目の特徴を持つ区間を束ねて記載。・系統毎の代表的な調れ目の見かけの傾斜や調査時の傾斜を明確的に記載。・層圏と異なる状況や特徴的な調れ目があれば、調れ目の間隔、開口幅、調れ目面の色調、調れ目面のナーバス リッケンサイド、条線、見かけの変位センス！等を記載	風物調・石英脈、清石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など 岩種岩・岩種	破砕等 破砕度区分・記号(Hb/Hb外)・区分毎の区間深度	破砕度区分の補足説・見かけの傾斜・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の素材性・連続性・原岩組織が空がたれる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・結状構造、現合面構造、貫等構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	郷道作業における特記事項・コア欠如、コア破損など	
1	0	3.57	埋戻し土	0.00	9.84	盛土			-																		・表現の統一(盛土 0.00) 人工堆積物を盛土として一括して下端深度を変更した
2	0.0	0.18	礫 φ5～20mm黒色砕石からなる	0.00	0.18	礫 φ5～20mm黒色砂岩からなる			○	-	-																・表現の統一(0.00) ・砕石を岩種名に変更した
3	0.18	3.57	礫混り粗砂 φ10～50mmのGr、Ag亜角礫を含む粗砂でルーズである。礫は泥んとが研質である。φ3～10mmの砕石片も多く含む。	0.18	3.57	礫混じり粗砂 φ10～50mmのGr、Ag亜角礫を含む粗砂でルーズである。礫は泥んとが研質である。φ3～10mmの黒色砂岩片も多く含む。			○	-	-																・表現の適正化(混じり) ・砕石を黒色砂岩に変更した
4	0.18	3.57	地質名欄(礫混り粗砂)(埋戻し土)	0.18	3.57	地質名欄(礫混じり粗砂)(盛土)			-	-	-																・表現の適正化(混じり) ・表現の統一(盛土)
5	3.57	4.00	中砂 ほぼ均質、ルーズである。底下部3.96以深では若干シルト分混入する。	3.57	4.00	コア欠如(スライム) ほぼ均質なゆ砂、ルーズである。底下部3.96m以深では若干シルト分を含む。			○	-	○															・スライムであるためのコア欠如(スライム)を追記した ・表現の適正化(ほぼ、混入する→含む) ・級認の修正(単位の記載漏れ)
6	3.57	4.00	地質名欄(中砂)(改良土)	3.57	4.00	地質名欄(コア欠如)			-	-	○																・記事欄の変更に合わせて変更した
7	4.00	4.49	礫・シルト混り中砂 φ2～5mm石英、長石粒、φ5～20mmGr、Ag砕石片を含む。若干のシルト分混入する。ルーズである。	4.00	4.49	礫・シルト混じり中砂 φ2～5mm石英、長石粒、φ5～20mmGr、Ag黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルーズである。 4.00m、4.15m、4.30m付近に木片を含む。			○	-	-																・砕石を黒色砂岩に変更した ・木片は層圏と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(混じり、混入する→含む)
8	4.00	4.49	地質名欄(礫・シルト混り中砂)(改良土)	4.00	4.49	地質名欄(礫・シルト混じり中砂)(盛土)			-	-	-																・表現の適正化(混じり) ・人工堆積物の表記を盛土に統一した
9	4.49	6.00	礫混り粗砂 φ3～5mm石英、長石粒、φ5～50mmGr、Ag亜角礫を含むルーズな粗砂、礫は泥んとが研質。	4.49	6.00	礫混じり粗砂 φ3～5mm石英、長石粒、φ5～100mmGr、Ag亜角礫を含むルーズな粗砂、礫は泥んとが研質。			○	-	-															・表現の適正化(混じり) ・当該区間の礫径の最大値に変更した
10	4.49	6.00	地質名欄(礫混り粗砂)(改良土)	4.49	6.00	地質名欄(礫混じり粗砂)(盛土)			-	-	-																・表現の適正化(混じり) ・人工堆積物の標記を盛土に統一した
11	4.36	4.50	φ5～10mm亜角礫を多く含み砂礫状。	~~4.36~~	~~4.50~~	φ3～10mm亜角礫を多く含み砂礫状。			-	-	-																上端の深度が同じ深度がないため削除した
12	-	-	-	4.49	4.65	4.49m、4.65m付近に径70～100mmのGr、Ag亜角礫を含む。			○	-	-																・径の大きな礫は層圏と異なる状況であるため追記した
13	5.00	5.10	礫は孔壁からの落下コア	-	-	-			-	-	○																
14	5.12	5.12	木片を含む	-	-				-	-	-																
15	5.30	5.30	付近に黒色の砂岩片を含む	5.25	5.25	付近に黒色の砂岩を含む			○	-	-																・コアに合わせて黒色砂岩の深度を変更した ・砕石を黒色砂岩に変更した
16	5.70	5.70	φ3～4mm黒色砂岩片散在する。	5.70	5.70	φ3～4mm黒色砂岩散在が点在する。			○	-	-																・砕石を黒色砂岩に変更した
17	6.00	6.39	中砂 粘土に粗砂が混入しやや不均質、ややルーズ	6.00	6.39	スライム 中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質。ややルーズ。			○	-	○																・スライムであるためのスライム)を追記した ・表現の適正化(所々、やや、混入する→含む)
18	6.00	6.39	地質名欄(中砂)(改良土)	6.00	6.39	地質名欄(コア欠如)			-	-	○																・記事欄の変更に合わせて変更した
19	6.25	6.27	φ2～3mmの黒色砂岩片を含む	6.25	6.27	φ2～3mmの黒色砂岩片を含む			○	-	○																・砕石を黒色砂岩に変更した ・表現の適正化(やや)
20	6.39	7.40	砂礫 φ2～5mm石英粒、φ5～120mmの硬質なGr亜角礫～亜円礫と、粗砂の基質からなり、締っている。礫含有率は20～40%	-	-	-			○	-	-																
21	6.39	7.40	地質名欄(砂礫)(改良土)	6.39	7.40	地質名欄(砂礫)(盛土)	○	○	-	-	○																・人工堆積物の表記を盛土に統一した
22	7.00	7.00	φ30mm(コア長)のGr等クサリ礫を含む	-	-	-			○	-	-																
23	7.29	7.29	礫は孔壁から落下したコアである。	-	-				-	-	○																
24	7.40	8.38	中砂 粘土に粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がややルーズである。	7.40	7.75	スライム 中砂からなる。 所々、粗砂や硬質礫を含み不均質 全体がややルーズである。			○	-	○																・スライムであるためのスライム)を追記した ・表現の適正化(所々、やや)
25	7.40	7.75	地質名欄(中砂)	7.40	7.75	地質名欄(コア欠如)			-	-	○																・記事欄の変更に合わせて変更した
26	-	-	-	7.75	8.38	礫混じり砂 φ2～10mmのGr、Ag礫を含む細～中砂からなる。			○	-	-																・該当区間の記載がなかったため追記した
27	7.75	8.38	地質名欄(中砂)(改良土)	7.75	8.38	地質名欄(礫混じり砂)(盛土)			-	-	-																・記事欄の変更に合わせて変更した
28	-	-	-	8.38	8.73	スライム 8.38～8.60m間は径10～30mmのGr硬質な亜角礫主体で8.55mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。 8.60～8.73m間は中砂からなる。																					・スライムであるためのスライム)を追記した。 ・スライムの構成物を追記した
29	8.38	8.60	礫 φ10～30mmのGr硬質な亜角礫主体で、一部に孔壁からの落下礫も含む。 8.5mにφ30mm黒色砂岩1つ含む	~~8.38~~	~~8.60~~	礫 ~~φ10～30mmのGr硬質な亜角礫主体で、一部に孔壁からの落下礫も含む。~~ ~~8.5mにφ30mm黒色砂岩1つ含む~~			○	-	○																・上記に含めて記載したため削除した。
30	8.38	8.60	地質名欄(礫)(改良土)	8.38	8.73	地質名欄(コア欠如)			-	-	○																・記事欄の変更に合わせて変更した
31	8.60	9.00	中砂 やや不均質である。上位側の8.60～8.13mには スライムが混入する。8.60m以深は若干のシルトと小礫が混入する。やゝルーズである。	8.73	9.00	中砂 やや不均質である。~~上位側の8.60～8.13mにはスライムが混入する。8.60m以深~~は若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。			○	-	-																・スライム区間と分けたため上端深度を変更した ・表現の適正化(やや、混入する→含む) ・スライムの記載は上記に含めたため削除した ・シルトと小礫が混入するのは該当区間全体であるため深度の記載は削除した ・コアに合わせて深度を変更した
32	8.60	9.00	地質名欄(中砂)(改良土)	8.73	9.00	地質名欄(中砂)(盛土)			-	-	-																・記事欄の変更に合わせて変更した ・人工堆積物の表記を盛土に統一した
33	9.00	9.66	中砂(多量のモルタルと落下礫、モルタル片含む) 多量のスライムと孔壁から落下したGr硬質レキを多く含む	9.00	9.75	スライム 中砂からなる。9.66～9.75mにはGr礫を含む。 ~~多量のスライムと孔壁から落下したGr硬質礫を多く含む~~			○	-	○																・コアに合わせて下端深度を変更した ・スライムであるためのスライム)を追記した ・表現にはスライムと記載したためその中のスライムの記載は削除した ・最下部の礫について追記した ・表現の適正化(礫)
34	9.00	9.66	地質名欄(中砂)(改良土)	9.00	9.75	地質名欄(コア欠如)			-	-	○																・記事欄の変更に合わせて変更した
35	9.35	9.35	付近に5～10mのモルタル片多く含む	-	-	-			○	-	-																

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　— 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			是正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)													破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	適切変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名<・薄層や細かい互層など記事欄に記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴<・粒度機成、礫の種類及び形態、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。<・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	流積構造<・層理、葉理、級化など	堆積作業における特記事項<・コア欠如、コア接転など	地質名<・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。<・周囲と状況が異なる場合の特徴的な情報が見られる場合は、岩盤の種類・種、岩盤の含有物などを記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流積構造 流積構造に記載	節理等の割れ目<・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。<・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や充填物の種類を網羅的に記載。<・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のザーリ(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈<・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など 堆積岩<・岩種	破砕度区分<・記号(Hc,Hb,Hj)<・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面<・見かけの傾斜<・性状	破砕幅(実測できる場合)	破砕部<・色調<・破砕部内物質<・硬軟<・細粒部の直線性・連続性<・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造<・破砕構造、現合面構造、葉理構造、頻目状粘土など	最新活動面(記述した場合)	変色の状況	堆積作業における特記事項<・コア欠如、コア接転など	記事を削除・変更・追記した理由
36	9.64	9.84	モルタル<砂状化を呈する礫質モルタル。基盤岩と55°で接している。	9.75	9.84	モルタル<砂状化を呈する礫質モルタル。基盤岩と55°で接している。			○	-	-																・コアに合わせて上端深度を変更した
37	9.61	9.84	(地質名欄)モルタル層(改良土) (色調欄)2.5G5/1 オリーブ灰	9.75	9.84	(地質名欄)モルタル(盛土) (色調欄)2.5GY5/1 オリーブ灰			-	-	-																・記事欄の変更に合わせて上端深度を変更した ・人工堆積物の表記を盛土に統一した
38	9.81	9.84	9.84mで着岩	-	-	-			-	-	-																
39	-	-	φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗閃岩	9.84	60.00	花崗閃岩<φ1~5mm石英、φ1~7mm長石斑晶からなる花崗閃岩								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名2区間深度を追記した ・地質名を追記した
40	9.84	10.77	著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅する。岩組織は残留している。φ 0mm前後と大型の長石斑晶を多く含む。粘土化基質は分離しない。消滅しかった40~60°割れ目が残存することがある。	9.84	10.77	著しく軟質化し、割れ目は**ほぼ**消滅する。原岩組織は残留している。φ10mm前後と大型の長石斑晶を多く含む。粘土化基質は分離しない。消滅しかった40~60°割れ目が残存することがある。								○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の変正化(軟質化、圧圧、原岩組織)
41	10.47	10.50	スライム	10.47	10.50	スライム< **硬質**シルトからなる。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・スライムの構成物を追記した
42	10.47	10.50	(地質名欄)Co (割れ目状態欄)ランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)ランク (風化欄)3ランク (変質欄)2ランク	10.47	10.50	(地質名欄)コア欠如 (割れ目状態欄)削除 (コアの形状欄)削除 (コアの硬さ欄)削除 (風化欄)削除 (変質欄)削除								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・コア欠如区間であるため地質名欄に「コア欠如」を追記した ・その他6欄は削除した	
43	10.71	12.00	著しく軟化し、容況が主体であるが、割れ目は半が残留している。また、岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する0~30°の2系の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染を示す黒褐色化する。粘土質は殆んどはさまない	10.77	12.00	著しく軟質化し、硬況が主体であるが、割れ目は大半が残留している。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は40~60°とこれに斜交~直交する0~70°の2系統の割れ目からなり、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分も含む。割れ目の一部はマンガン鉱染を示す黒褐色化する。粘土質は殆んど**挟まない**								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の変正化(軟質化、原岩組織、系⇒系統、受け、挟む)	
44	11.91	11.90	45°の消滅しかった割れ目でいに断片的に区録化する(緑泥石と推定される。)	11.90	11.90	45°の消滅しかった割れ目**沿いに**断片的に**緑灰色**化する(緑泥石と推定される。)								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・表現の変正化(沿い)
45	12.01	12.13	スライム	12.00	12.13	スライム<シルト質砂からなる。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・スライムの構成物を追記した
46	12.01	12.13	(地質名欄)スライム (岩級区分欄)C	12.00	12.13	(地質名欄)コア欠如 (岩級区分欄)空欄								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・記事欄に合わせて変更した
47	12.13	13.03	岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟質化する。30~40°の割れ目と低密着割れ目全体で、一部で60~70°割れ目と斜交する。各割れ目ぞれは状状化する。一部はマンガン鉱染を示す黒褐色化著しい。粘土化部はないが、12.13~12.17mは暗1~3mmの灰緑色粘土が網状に分有し、12.17mは深さ割れ目の一部に厚2mm前後の粘土脈がはさまれる。いずれも軟弱な粘土である。	12.13	13.03	原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟質化する。30~40°の割れ目と低密着割れ目全体で、一部で60~70°割れ目と斜交する。各割れ目**沿い**は状状化する。一部はマンガン鉱染を示す黒褐色化著しい。粘土化部はないが、12.13~12.17mは暗1~3mmの**緑灰**色粘土が網状に分有し、12.17mは深さ割れ目の一部に厚2mm前後の粘土脈が**挟まれる**。いずれも**軟質**な粘土である。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・表現の変正化(原岩組織、軟質化、沿い 挟む、受け、軟弱⇒軟質)	
48	12.57	12.61	上端45°、下端35°で区録色(緑泥石化)する。中央部に暗1~2mmの軟質な淡灰緑色粘土を伴う。	12.57	12.61	上端45°、下端35°で**暗灰**色(緑泥石化)する。中央部に暗1~2mmの軟質な淡**暗灰**色粘土を伴う。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・表現の変正化(軟質⇒軟質)
49	13.03	13.32	硬さ'G'と硬質で割れ目はマンガン鉱染受けるうける	13.03	13.32	硬さ'C'とやや硬質で割れ目はマンガン鉱染受けする								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の変正化(受ける)
50	13.32	13.47	風化で砂状化している。	-	-	-								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
51	13.47	13.94	50°割れ目が平行に複数分布する。岩片は硬さのとやや軟化するが、砂状化や粘土挟在はない。一部でマンガン鉱染うけ黒褐色化する。	13.47	13.94	50°割れ目が平行に複数分布する。岩片は硬さのとやや**軟質**化するが、砂状化や粘土挟在はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化する。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の変正化(やや、軟質化、受け)	
52	13.94	14.06	破砕帯(H-3)(破砕帯)	13.94	14.06	破砕部(H-3)(破砕帯)								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・破砕帯なは評価であるため削除した
53	13.94	13.98	Hj 上端60°、下端55°で、周者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主本)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土質以岩片状で、淡黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20~30mm。	13.94	13.98	Hj 上端60°、下端55°で、周者とも直線的でシャープに連続。φ5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の基質(砂主体)はマンガン鉱染で黒色化する。粘土質以岩片状で、淡黄色(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20~30mm。**硬質で、細粒部は明目状に分有する。原岩組織が認められる岩片主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。**								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の変正化(固い)	
54	13.98	14.00	Hc-1 上端55°、下端30°で、周者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟質な淡黄色粘土で厚さ10mm。	13.98	14.00	Hc-1 上端55°、下端60°で、周者とも直線的でシャープに連続。φ1mm前後の石英粒を含む軟質な淡黄色粘土からなる。厚さ10mm。 **原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。**								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の変正化(軟質⇒軟質)	
55	14.00	14.06	Hb(主せん断面 14.06m) 上端60°、下端30°で、上端は直線的でシャープ。下端は波打って連続。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGe岩片を多く含む礫質粘土で軟弱。明オリーブ灰(2.5GY 7/1)を呈し、厚さ20mm。	14.00	14.03	Hb(主せん断面 14.06m) 上端30°、下端55°で、上端は直線的でシャープ。下端は凹凸している。φ1mm石英粒とφ5mm前後のGe岩片を多く含む粘土質以**岩片**状で**硬質**。淡**黄色**(2.5Y 7/3)を呈する。厚さ20mm。 含まれる細粒部は明目状に分有し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・Hbを構主体の部分と粘土主体の部分に分けて記載した ・14.00~14.03m間は構主体であるため堵多部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・コアに合わせて下端深度の傾斜を変更した ・当該区間ではないため主せん断面は削除した。 ・硬、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	
56				14.03	14.06	Hc-1 最新活動面14.06m 上端15°、下端60°で、上端は凹凸あり。下端は直線的に連続。軟質な粘土、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。淡黄色を呈する。厚10~15mm。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の深度を追記した ・14.03~14.06m間は粘土主体であるため本体部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 ・コアに合わせて上端深度の傾斜を変更した。 ・コアに合わせて下端の直線性を変更した。該当のコア観察では振って14.08~14.09mの緑色変質部の下端の区録性を記載した。 ・硬、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	
57	14.00	14.06	(破砕度区分欄)Hb	14.00	14.03	(破砕度区分欄)Hj								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した
58				14.03	14.06	(破砕度区分欄)Hc-1								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した
59	14.06	14.41	岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.0m~60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように暗1~2mmの軟質な色を一明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分有する。	14.06	14.41	原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅している。残存する14.30m~60°割れ目をはじめ、岩片間を縫うように暗1~2mmの軟質な白を一明黄褐色(10YR 7/6)の粘土が分有する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の変正化(原岩組織、軟質⇒軟質)	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード																
			記事			記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	適切変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記載欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を明確かに記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	地層構造 ・層理、葉理、縞状など	堆積構造 ・ゴミ処理、コア採取など	地質名 ・薄層及びその区間深度を明確かに記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な情報が見られる場合は、岩品の種類・種、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を明確かに記載。 ・系統毎の代表的な試料目の形かけの結晶や鉱物の種類を明確かに記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な試料目があれば、試料目の問題、間口幅、試料目間の色調、試料目間のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物等の試料目 ・同系統の試料目の特徴を持つ区間を纏めて記載。 ・系統毎の代表的な試料目の形かけの結晶や鉱物の種類を明確かに記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な試料目があれば、試料目の問題、間口幅、試料目間の色調、試料目間のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	鉱物脈 ・層理	破砕帯区分 ・記号(Hc,Hb,Hd) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、素構構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	断面作業における特記事項 ・コア欠如、コア採取など	記事を削除・変更・追記した理由
60	14.41	14.52	破砕帯(H-4'破砕帯)	14.41	14.52	破砕部(~~H-4'破砕帯~~)									-	-	-					-		-	-		
61	14.41	14.47	Hj 上端40°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続、大半が粘土化した粘土質凝灰岩を呈する。色調は灰白色(7.5YR 8/2)～にぶい橙(7.5YR 7/4)で、厚さ20～30mm。	14.41	14.47	Hj 上端40°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続、中や軟質、大半が粘土化した粘土質凝灰岩片を呈する。色調は灰白色(5YR8/2)～にぶい橙色(7.5YR 7/4)で、厚さ20～30mm。 含まれる細粒部は明目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-							○		-	-	
62	14.47	14.48	Hc-2(主せん移動-14.47m) 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続、φ1～2mmの石英粒、φ2～3mmや長5～10mm程～3mmの扁平な弾性含む灰白色(5Y 7/2)の軟質粘土、厚さ15～18mm	14.47	14.48	Hc-2(~~最新活動面~~-14.47m) 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続、φ1～2mmの石英粒、φ2～3mmや長5～10mm程～2mmの扁平な弾性含む灰白色(5Y 7/2)の軟質~~弾質~~粘土、厚さ15～18mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-									-	-	
63	14.48	14.52	Hj 上端60°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続、約80°の割れ目をいくつか～2mmの軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土質粘土質化した岩片で、粘土質に岩片状を呈する。全体的に中の硬質で、色調は軟質褐色(10YR 7/6)を呈する。厚さは20mm。	14.48	14.52	Hj 上端60°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続、約80°の割れ目~~は~~いくつか~~～2mm~~の軟質な灰白色(5Y 7/2)粘土質粘土質化した岩片で、粘土質に岩片状を呈する。全体的に中の硬質で、色調は軟質褐色(10YR 7/6)を呈する。厚さは20mm。 含まれる細粒部の連続性・直線性は乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-							-		-	-	
64	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状区分からなる。区間中央部の16.48～20.08m と最下部の21.75～22.47m は一部硬さ8を超える硬さで、風化は弱い。これを除く(4.52～16.48m と20.08～22.47m)は中や風化が進み、硬さ7以上軟化する。全区間で粘土化や土質の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10～40°と緩傾斜から中程度傾斜まで。これら緩傾斜割れ目に60～80°割れ目～低密度割れ目が交差している。	14.52	22.47	比較的割れ目が少ないコア形状区分からなる。区間中央部の16.48～20.08m と最下部の21.75～22.47m は一部硬さ8を超える硬さで、風化は弱い。これを除く(4.52～16.48m と20.08～21.75m は中や風化が進み、硬さ7以上軟化する。全区間で粘土化や粘土質の分布は少なく、変質は弱い。割れ目は10～40°と緩傾斜から中程度傾斜まで。これら緩傾斜割れ目に60～80°割れ目～低密度割れ目が交差している。									-	-	-							-		-	-	
65	16.17	16.28	割れ目そいに風化・砂状化が進み、φ10～30mmの埋状コアに砕けている。	16.17	16.28	割れ目沿いに風化・砂状化が進み、φ10～30mmの埋状コアを呈する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
66	16.48	16.48	58°割れ目に厚さ2～4mmの軟弱な灰白色粘土膜をはさむ。	16.48	16.48	58°割れ目に厚さ2～4mmの軟質~~な~~灰白色粘土膜を~~挟む~~。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
67	16.48	17.68	間には硬さ7(J)硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものが多く、風化砂や変質粘土膜などの検査物も分布しない。	16.48	17.68	間には硬さ7(J)の硬質岩片も多く含む。割れ目は直線的でシャープなものが多く、風化砂や変質粘土膜などの検査物も分布しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
68	16.48	17.68	(割れ目状態欄)cランク (コアの硬さ欄)cランク (岩級区分欄)CL	16.48	17.68	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)bランク (岩級区分欄)CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
69	18.05	21.00	割れ目そいに薄くマンガン鉱染うける。	18.05	21.00	割れ目沿いに薄くマンガン鉱染~~受~~ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
70	19.10	19.22	割れ目そいに薄く砂状化する。	19.10	19.22	割れ目沿いに薄く砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
71	20.17	20.77	50°割れ目に幅1～2mmの明黄褐色(10YR 7/4)の軟質粘土膜をはさむ。粘土膜の上・下はマンガン鉱染で高規色化する。	20.77	20.77	50°割れ目に幅1～2mmの明黄褐色(10YR 7/6)の~~軟質~~粘土膜を~~挟む~~。粘土膜の上・下はマンガン鉱染で高規色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
72	21.00	22.30	40～60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土膜の顕在はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。	21.00	22.30	40～60°割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土膜の顕在はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
73	21.18	21.18	21.18m~60°、21.61m~48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は進次する~~「割れ目でない、変位している(変位先はコアの中には存在しない)」~~	21.18	21.18	21.18m~60°、21.61m~48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、このうち、後者の石英脈は進次する~~「割れ目でなく、まっすぐ~~~

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-3）

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			追記すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示） 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・海陸や細かい区種などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異物など）を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、高決度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠炸薬における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、現品の種類・位、現品の吉等等などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	物理等の訪れ目 ・同系統の訪れ目の特徴を博う区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な訪れ目の見かけの傾斜や断定物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な訪れ目があれば、訪れ目の間隔、傾斜幅、訪れ目面の色調、訪れ目面のすべりリス（リッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石等鉱の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱種岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の破度区 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕帯（実測できる場合） ・	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる破片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、葉理構造、明良状粘土など	最新活動面（設定した場合）	空隙の状況	鍵遠炸薬における特記事項 ・コア欠如、コア喪失など	
88	26.17	27.26	上端45°、下端50°の訪れ目に面末れ、風化で全体が軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
89	27.26	28.43	最上位側の27.16～27.64mは硬さで残留するが、27.64m以深は硬さのに軟化する。訪れ目は残留。40～60°が主体で同角の低密着訪れ目も多い。訪れ目や低密着訪れ目ぞいは薄く砂状化することが多いが、粘土並や粘土脈の分布は少ない。	27.26	28.43	最上位側の27.26～27.64mは硬さで残留するが、27.64m以深は硬さのに軟質化する。訪れ目は残留し、40～60°が主体で同角度の低密着訪れ目も多い、訪れ目や低密着訪れ目は薄く砂状化することが多いが、粘土並や粘土脈の分布は少ない。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
90	27.70	27.70	60°訪れ目ぞいの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石凝集部である。	27.70	27.70	60°訪れ目沿いの幅5mmは粘土化するが、これは粘土化した長石凝集部である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
91	28.43	28.43	60°訪れ目は幅1～2mmの軟質粘土脈をはさむが、マンガン鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明。	28.43	28.43	60°訪れ目は幅1～2mmの軟質粘土脈を挟むが、マンガン鉱染により褐灰色化し、粘土の色調は不明。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
92	28.43	29.31	風化のため訪れ目の一部は消滅しかかっている。訪れ目は上位と同様40～60°が主体であるが、一部でこれらと斜交～直交する40～50°訪れ目も分布する。また、これらの低密着訪れ目も多い。訪れ目ぞいに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在はみられない。	28.43	29.31	風化のため訪れ目の一部は消滅しかかっている。訪れ目は上位と同様40～60°が主体であるが、一部でこれらと斜交～直交する40～50°訪れ目も分布する。また、これらの低密着訪れ目も多い。訪れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟在はみられない。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
93	28.17	28.72	28.57m=45°、28.72m=55°訪れ目は幅2～3mmの軟質な灰白色粘土脈をはさむ。	28.57	28.72	28.57m=45°、28.72m=55°訪れ目は幅2～3mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
94	29.21	29.95	上位と硬さはほぼ同程度であるが訪れ目は少なくなる。風化で訪れ目が消滅していることが多い。	29.31	29.95	上位と硬さはほぼ同程度であるが訪れ目は少なくなる。風化で訪れ目が消滅していることが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
95	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さのと、下位側32.68m以深の硬さからなり、南者とも風化により軟化～著しく軟化している。訪れ目は32.63m以深では残留しているが、32.63m以浅では一部消滅し、一部残留している。訪れ目は20～40°とこれらに斜交～直交する50～70°訪れ目と同角度の低密着訪れ目が主体である。32.63m以浅では一部の訪れ目ぞいは薄く砂状化することが多い。32.63m以深では訪れ目や傾斜部で砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に訪れ目ぞいにマンガン鉱染をうけ、黒褐色化する。	29.95	33.30	上位側32.63m以浅の硬さのと、下位側32.63m以深の硬さからなり、南者とも風化により軟化～著しく軟質化している。訪れ目は32.63m以深では残留しているが、32.63m以浅では一部消滅し、一部残留している。訪れ目は20～40°とこれらに斜交～直交する50～70°訪れ目と同角度の低密着訪れ目が主体である。32.63m以浅では一部の訪れ目沿いは薄く砂状化することが多い。32.63m以深では訪れ目や傾斜部で砂状化が進むことが多い。粘土化部や粘土脈の分布はわずかである。また、部分的に訪れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
96	30.24	30.24	40°訪れ目に褐色の固結粘土、幅2mmで断片的にはさむ。	30.24	30.24	40°訪れ目に褐色の硬質な粘土を挟む、幅2mmで断片的に挟む。上端側45mmにマンガン凝集部を伴う。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
97	30.24	30.74	80～85°で清面した訪れ目と30.85m=35°訪れ目で囲まれた部分は周囲より風化が進み砂状化する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
98	30.85	30.85	55°訪れ目は風化でにぶい黄橙色の幅1～2mmの軟質粘土脈をはさむ。	30.85	30.85	55°訪れ目は風化でにぶい黄橙色の幅1～2mmの軟質粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
99	32.30	32.30	60°はせん断を訪れ目で、交差する30°訪れ目を切っている（変位量10mm、左ズレ）。訪れ目は幅1mmのにぶい黄橙色の軟質粘土脈をはさむ。	32.30	32.30	60°はせん断性訪れ目で、交差する30°訪れ目を止めている。切っている部位量10mm、左ズレ。訪れ目は幅1mmのにぶい黄橙色の軟質粘土脈を挟む。 訪れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な訪れ目も存在しない。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・左ズレを示す訪れ目が見られないため変位量の記載を削除し、「止めている」に変更した ・訪れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性訪れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）
100	32.63	32.63	53°はせん断を訪れ目で、直交する45°訪れ目を切っている（変位量10mm、左ズレ）。訪れ目は幅1～2mmの褐色軟質粘土脈をはさむ。	32.63	32.63	53°はせん断性訪れ目で、直交する45°訪れ目を止めている。切っている部位量10mm、左ズレ。訪れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。幅1～2mmの褐色軟質粘土脈を挟む。不連続である。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・左ズレを示す訪れ目が見られないため変位量の記載を削除し、「止めている」に変更した ・挟在する粘土の連続性について追記した ・訪れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性訪れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）
101	32.63	-	32.63m以深は3.30mまで訪れ目は残留するが、以深ではほぼ消滅するか、訪れ目の一部が残留するのみである。	32.63	33.00	32.63m～33.00m訪れ目は残留するが、以深ではほぼ消滅するか、訪れ目の一部が残留するのみである。										○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・訪れ目が残留する下端深度を明確にした ・表現の適正化（ほぼ） ・33.30m以深の訪れ目がほぼ消滅する記述は下記にあるため削除した
102	33.00	33.30	訪れ目、低密着訪れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
103	33.30	34.23	岩組織と訪れ目はほぼ消滅している。全体に40～50°、幅1～8mmで軟弱なにぶい黄橙（10YR 7/4）の粘土脈が分布する。	33.30	34.23	原岩組織と訪れ目はほぼ消滅している。全体に40～50°、幅1～8mmで軟質なにぶい黄橙色（10YR 7/4）の粘土脈が分布する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（原岩組織、ほぼ、軟質⇒軟質） ・脈記の修正（色）の記載漏れ
104	33.40	33.23	40～50°の訪れ目の一部、低密着訪れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1～2mmで軟質なにぶい黄橙（10YR7/4）の粘土脈をはさむことが多い。	33.40	34.23	40～50°の訪れ目の一部、低密着訪れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1～2mmで軟質なにぶい黄橙色（10YR7/4）の粘土脈を挟むことが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（33.23⇒34.23、「色」の記載漏れ） ・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）
105	33.91	33.91	32°、幅2～3mmで径1～2mm石英粒、径5mmの風化～粘土化した岩片を含むやや緩った灰黄色粘土脈が分布する。	33.91	33.91	32°、幅2～8mmで径1～2mm石英粒、径5mmの風化～粘土化した岩片を含むやや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（やや） ・表現の直一（緩まった⇒硬質）
106	34.17	34.23	マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名:H24-D1-3

○ 記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるとめ記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			直正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「/」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や縞から:芝層などを記事欄に記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、膨の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、音水状態などを記載。	堆積構造 層理、葉理、級化など	鉱産作業に伴う特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類・性、岩盤の含有等などを記載	色調 ・現数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や候在物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物測 ・石英質、凍石質、方解石断層の種類、幅、色調、見かけ傾斜など	岩種 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界域 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められた岩片を主体とし異質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・統状構造、斜合面構造、葉構造、節目状構造など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	関連作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
107	34.23	34.52	破砕帯(D-1破砕帯)	34.23	34.52	破砕部(D-1破砕帯)																					
108	34.13	34.39	H: 上端50°、下端55°で両者とも直線的でシャープに連続、φ5~10mの粘土化~硬さの岩片と岩片間を幅1~2mm灰黄色の軟弱粘土が網状に分布し、粘土質(砂片状)を呈する。 また、34.30m(±0.30°、幅1~2mmの軟記粘土系を伴うせん断面)ある。岩片はマンガン鉱床により黒褐色化し、全体の色調は灰黄(2.5Y 7/2)~灰黄褐(10YR 4/2)で、厚さ(160mm(コア長)である。	34.23	34.39	H: 上端50°、下端55°で両者とも直線的でシャープに連続、中や硬質で、φ5~10mの粘土化~硬さの岩片と岩片間を幅1~2mm灰黄色の軟質粘土が網状に分布し、粘土質(砂片状)を呈する。岩片はマンガン鉱床により黒褐色化する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。全体の色調は灰黄(2.5Y 7/2)~灰黄褐色(10YR 4/2)を呈する。厚さは140mm(コア長)である。 また、34.30m(±0.30°、幅1~2mmのやや軟質な灰黄色粘土系を伴うせん断面があるが、粘土の連続性ネバ連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・用語の変~(破砕帯~破砕部) ・破砕帯は評価であるため削除した
109	34.39	34.40	Hc-1(主せん断面-34.39m) 55°で直線的でシャープに連続する軟弱な白色~灰黄色粘土膜で φ1mmの石英粒を含む。厚さ15~7mmである。	34.39	34.40	Hc-1(最新活動面 34.40m) 55°で直線的でシャープに連続する軟質な白色~灰黄色粘土膜で φ1mmの石英粒を含む。厚さは1~7mmである。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・最新活動面という用語に統一 ・最も直新から最近34.40mであるため最新活動面の深度を変更した ・表現の重正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
110	34.40	34.52	H: 上端55°、下端55°で両者とも直線的でシャープに連続、φ5~10mの硬さのない粘土化した岩片がほぼ全て岩片状組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が分布し、粘土質(砂片状)を呈する。岩片はマンガン鉱床により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)で、厚さ(130mm(コア長))	34.40	34.52	H: 上端55°、下端55°で両者とも直線的でシャープに連続、φ5~10mの硬さのない粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が網状に分布し、粘土質(砂片状)を呈する。岩片はマンガン鉱床により黒褐色化する。全体の色調は灰黄褐色(10YR 4/2)、ただ厚さは(30mm(コア長)やや硬質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩片に岩組織は残っているため「岩組織が消えている」を削除した ・硬軟、粘粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さとしてコア長を記載したものは、異常ではないため削除した ・表現の重正化(軟弱⇒軟質、混じり)
111	34.52	35.81	30~60°の節れ目、低密着節れ目が多い。このうち35.14~35.27mでは40°前後の節れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱床を受け、黒褐色化している。上記各節れ目には幅1~3mmの軟弱な白色~灰黄色粘土膜をはさむことが多い。	34.52	35.81	30~60°の節れ目、低密着節れ目が多い。このうち35.14~35.27mで35.40°前後の節れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱床を受け、黒褐色化している。上記各節れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土膜を挟むことが多い。	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化(受け、軟弱⇒軟質、挟む)
112	－	－	－	34.60	34.60	60°の節れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟在する。																					
113	－	－	－	34.80	34.95	マンガン、灰白色粘土が網目状に分布する。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・網目状のマンガン、灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	
114	35.74	35.81	(変質欠)2ランク	35.71	35.81	(変質欠)3ランク						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・節目状のマンガン、灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	
115	35.81	36.53	一部、硬さ目もみ、全体が硬質である。40~60°節れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土膜はほとんどない。	35.81	36.53	一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。40~60°節れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土膜は挟まない。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同様の変質の程度であるため変質のランクを3ランクに変更した	
116	36.56	36.82	60~70°節れ目、低密着節れ目が1~3cm間隔で分布しクラッキーとなる。	36.53	36.82	60~70°節れ目、低密着節れ目が1~3cm間隔で分布し岩片状を呈する。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の重正化(挟む) ・文章の重正化(硬さ「B」⇒硬質部(やや軟質に対する用語に変更))	
117	36.64	36.67	50°節れ目、上盤側5~10mmは淡灰緑色化(粘泥粒化)、粘土はきなりない。φ0.5mm以下と微小な雲母あるいは金属鉱物が散出している。	36.67	36.67	50°節れ目、上盤側5~10mmは淡灰緑色化(粘泥粒化)、粘土はきなりない。φ0.5mm以下と微小な白雲母あるいは金属鉱物が散出している。						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化(クラッキー⇒岩片状)	
118	36.81	44.01	40~60°節れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する40~60°節れ目が分布する。38.34~38.74mでは薄い目すじに風化で褐色化が進むが、軟性は伴なわない。硬さは硬わおで、一部で硬さ8を伴う。粘土化や粘土膜は幅1~2mmの軟質ないし固結状の白色~黄色~黒色~明黄褐色(10YR 8/6~6)を伴うが、分布はかない。	36.82	44.01	40~60°節れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する40~60°節れ目が分布する。38.34~38.74mでは節れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。硬さは中~硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土膜は幅1~2mmの軟質ないし固結状の白色~黄色~黒色~明黄褐色(10YR 8/6~6)を伴うが、分布は少ない。	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化(沿い、軟質化、伴う、軟弱⇒軟質) ・表現の変~(固結⇒硬質) ・文章の重正化(硬さは母台⇒全体にやや硬質、硬さは⇒硬質部)	
119	37.61	37.69	60°はせん断性節れ目で、37.77m付近で幅1mm、45°の石英脈を切っている(変位量3mm左ズレ)。節れ目には幅1mm以下の固結、風化した黄褐色粘土をはさむ。	37.69	37.69	60°はせん断性節れ目で、37.77m付近で幅1mm、45°の石英脈をよかている。切っている変位量3mm左ズレ。節れ目には幅1mm以下の固結・風化した黄褐色粘土を挟む。節れ目間隔の状態は褐色化している。原岩組織が認められ、系統的な節れ目も存在しない。	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・左ズレ示す石英脈が見られないため変位量の記載を削除し「止めている」に変更した ・挟在する粘土の連続性について追記し「固結・風化した」は本当した表現でもたため削除した ・節れ目まげ節れ目間隔の状況について追記した ・追加した理由からせん断性節れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した ・表現の重正化(挟む)	
120	38.34	38.41	45°節れ目が5~30mm間隔で平行に入りクラッキー。下端付近の38.36~下端部の38.41mでは40°節れ目すじに幅1~2mmの軟弱な灰白色粘土膜をはさみ、粘土膜周辺数mmは淡灰緑化する。	38.34	38.41	45°節れ目が5~30mm間隔で平行に入り岩片化している。下端付近の38.36~下端部の38.41mでは40°節れ目沿いに幅1~2mmの軟質な白色粘土膜を含み、粘土膜周辺数mmは淡緑灰色化する。	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・深度の影響があるため「下端付近」「下端部」を削除した ・表現の重正化(挟む、沿い、軟弱⇒軟質、クラッキー⇒岩片化) ・脱記の修正(「色」の記載漏れ)	
121	38.4	38.72	40°節れ目周辺が風化~褐色化する。	－	－	－																					
122	39.00	40.09	(コアの形状欠)Vランク	39.00	40.09	(コアの形状欠)Vランク						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
123	39.5	39.53	40°幅1~2mm石英脈が直前に密集して連続	－	－	－						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より割れ目が多いためコアの形状ランクをVランクに変更した	
124	39.62	39.82	45°節れ目に幅5mmの軟弱な灰白色(7.5YR 8/2)粘土膜をはさむ	39.82	39.82	45°節れ目に幅5mmの軟質な灰白色(7.5YR 8/2)粘土膜を挟む。周辺幅数mmは褐色化が顕著である。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
125	40.36	40.60	(コアの形状欠)Vランク	40.38	40.60	(コアの形状欠)Vランク						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化(軟弱⇒軟質、挟む)	
126	40.87	44.01	40~50°節れ目がほぼ平行に2~10cm間隔で規則的に分布する。節れ目の面は薄く褐色化するのみで、形状化は伴なわない。また、一部で幅1mm以下の軟弱粘土膜をはさむが分布は少ない。	40.87	44.01	40~50°節れ目が(ほぼ)平行に2~10cm間隔で規則的に分布する。節れ目の面は薄く褐色化するのみで、形状化は伴なわない。また、一部で幅1mm以下の軟質粘土膜を挟むが分布は少ない。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より割れ目が多いためコアの形状ランクをVランクに変更した	
127	40.61	40.61	45°節れ目、下端側の一部は幅5mmで淡緑灰色化(粘泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。	40.61	40.61	45°節れ目、下端側の一部は幅5mmで淡緑灰色化(粘泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化((ほぼ、伴う、軟弱⇒軟質、挟む)	
128	40.92	40.95	40.92m~55°～0.95m~60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質な白色粘土をはさむ。	40.92	40.95	40.92m~55°～40.95m~60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下端側が必ずしも下盤とは限らないため下端に変更した。	
129	41.40	41.57	41.40m~45°、41.57m~50°は、いずれもほぼ直交する55°節れ目を切っているが、変位量は不明。	41.40	41.57	41.40m~45°、41.57m~50°の節れ目は、いずれも斜交量をすべる55°節れ目を止めている。切っている点~変位量は不明。いずれの節れ目とも挟在物は見られず、節れ目間隔の状態には原岩組織が認められ、系統的な節れ目も存在しない。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の重正化(軟弱⇒軟質、挟む)	
												-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・切られていると「止めている」とは言い切れないことから「止めている」に変更した ・節れ目は挟在物について追記した ・節れ目間隔の状況について追記した ・表現の重正化((ほぼ)	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-3）

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、簡略の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード								基盤岩コア観察カード															
			記事			記事（変更箇所を朱書きで表示）（変更していないものは「-」で表示）														破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴・粒度構成（礫の種類及び転径、含有物（有機質、貝殻など）を網羅的に記載。・その他、階層と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、無決度、含水状態などを記載。	堆積構造・層理、葉理、細化など	鍵遠作業における特記事項・コア欠如、コア接乱など	地質名・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。・層面と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・位、岩品の含有率などを記載	色調・複数の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	節理等の跡孔目・所長級の跡孔目の特徴を持つ区間を定まとめて記載。・未統集の代表的な跡孔目の見かけの傾斜や性在物の種類を網羅的に記載。・階層と異なる状況や特徴的な跡孔目があれば、跡孔目の間隔、間口幅、跡孔目面の色調、跡孔目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	熱隆岩・脈種	破砕区分・記号（Hc,Hs,Hj）・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面・見かけの傾斜・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部・色調・破砕部内物質・硬軟・細粒部の連続性・連続性・原岩組織が認められる鉱片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造・線状構造、複合構造、葉構造、剪断目状組立など	長断法動画（設定した場合）	空隙の状況	鍵遠作業における特記事項・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記、した理由
130	41.30	44.30	一部の跡孔目ないし跡孔目ぞいにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴なわない。	41.50	44.30	一部の跡孔目ないし跡孔目沿いにマンガン鉱染、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い、伴う）
131	42.04	42.04	56°幅2mm石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）・表現の統一（固結⇒硬質）
132	42.03	42.12	42.08m~50°、42.12m~40°の各跡孔目に各々、幅2mm灰白色の固結粘土脈、幅2mmにぶい黄橙色の軟質粘土脈をそれぞれはさむ。	42.08	42.12	42.08m~50°、42.12m~40°の各跡孔目に各々、幅2mm灰白色の硬質な粘土脈、幅2mmにぶい黄橙色の軟質粘土脈をそれぞれ挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈に跡孔目を積断しており、38°の跡孔目とは関係しないためf 38°は跡孔目で切られて」及び変位量の記載は削除した
133	42.19	42.19	20°幅1~2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38°跡孔目で切られて不連続となる（変位量はない）。	42.19	42.19	20°幅1~2mm石英脈が母岩に密着して分布するが、38°跡孔目で切られて不連続となる（変位量は伴はない）。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（伴う）
134	43.08	43.08	45°幅3~10mで淡緑灰色化（緑泥石化）粘土化などの劣化は伴なわない。	43.08	43.08	45°幅3~10mで淡緑灰色化（緑泥石化）粘土化などの劣化は伴わない。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）
135	43.14	43.14	50°跡孔目に幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土脈をはさむ。	43.14	43.14	50°跡孔目に幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（固結⇒硬質）
136	43.03	43.61	43.60m~60°と43.61m~60°の跡孔目に囲まれ、0.2~5mmに細粒化~砂化する。43.60m~60°跡孔目の一部に、灰黄色の幅1mmの固結粘土が付着する。	43.60	43.61	43.60m~60°と43.61m~60°の跡孔目に囲まれ、0.2~5mmに細粒化~砂化する。43.60m~60°跡孔目の一部に、灰黄色の幅1mmの硬質な粘土が付着する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質化、挟む）・文章の適正化（一部・・・すること）が多い。ことが多い を削除）・44.14mに、粘土脈が見られるものの深度を追記した
137	44.01	44.29	硬質0に軟質化。跡孔目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m及び44.14m~50°跡孔目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈をはさむ。	44.01	44.29	硬質0に軟質化。跡孔目の一部は薄く砂状化することが多い。44.12m及び44.14m~50°跡孔目に幅2mm風化、黄褐色粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む、ただし、軟質⇒軟質）
138	44.29	47.37	40~60°跡孔目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する40~80°跡孔目も分布する。上記跡孔目と同系の角度で、低密度跡孔目も多く分布する。跡孔目の一部はこく薄く砂状化したり、粘土脈をはさむが、いずれも分布はすくない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土化部で軟質である。	44.29	47.37	40~60°跡孔目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する40~80°跡孔目も分布する。上記跡孔目と同系の角度で、低密度跡孔目も多く分布する。跡孔目の一部はこく薄く砂状化したり、粘土脈を挟むが、いずれも分布はすくない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土化部で軟質である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟質⇒軟質）・文章の適正化（一部・・・すること）が多い。ことが多い を削除）・44.14mに、粘土脈が見られるものの深度を追記した
139	44.49	44.49	50°跡孔目は一部緑化と淡緑灰色（緑泥石化）を伴う。また、幅約2~5mm以下の雲母が晶出している。	44.49	44.49	50°跡孔目は一部緑化と淡緑灰色（緑泥石化）を伴う。また、幅約2~5mm以下の雲母が晶出している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母）
140	44.51	44.91	52°跡孔目は幅2~3mmの軟質な明黄褐色（10YR 6/6）粘土を挟む。	44.91	44.91	52°跡孔目は幅2~3mmの軟質な明黄褐色（10YR 6/6）粘土を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（「粘土」の記載漏れ）・表現の適正化（軟質⇒軟質、挟む）
141	45.32	45.32	53°跡孔目ぞいの幅約5mm前後が淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5mm以下の微細な雲母が晶出している。	45.32	45.32	53°跡孔目沿いの幅約5mm前後が淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5mm以下の微細な雲母が晶出している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母）・表現の適正化（沿い）
142	45.57	45.57	53°はせん断有跡孔目で、交差する60°と80°跡孔目をふさいでいる（変位量約10mm）。	45.57	45.57	53°のせん断有跡孔目は、交差する60°と80°跡孔目をふさいでいる。切っているも変位量約10mm。跡孔目には鉱物が見られない。跡孔目間沿の部位には原岩組織が認められ、系統的な跡孔目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・60°の跡孔目はズレて見えるが、80°原孔目の対になる跡孔目が見られず、ズレに系統性がないため「切っている」を「ふさいでいる」に変更し、変位量の記載を削除した・跡孔目及び間沿の状況について適記した・適記した理由からせん断有跡孔目ではないと判断して「せん断性」を削除した
143	45.80	45.87	70°低密度跡孔目ぞいに軽微にマンガン鉱染受ける。	45.80	45.87	70°低密度跡孔目沿いに軽微にマンガン鉱染受ける。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
144	46.23	46.23	57°跡孔目に幅5mmの固結粘土脈はさむ。	46.23	46.23	57°跡孔目に幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一（固結⇒硬質）・表現の適正化（挟む）・粘土から脈を追記した
145	46.28	46.28	50°跡孔目ぞいに幅10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5~1mmの雲母が晶出している。	46.28	46.28	50°跡孔目沿いに幅10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）。φ0.5~1mmの白雲母が晶出している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を適正化した（雲母⇒白雲母）・表現の適正化（沿い）
146	46.53	46.60	上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに連続するが下端側は不明瞭である。φ1~10mの粘土化~砂の岩片や長3.0mm、幅5mm前後の粘土化した細粒岩片を多く含む薄質粘土で挟在を呈する。一部マンガン鉱染を汁黒褐色化する。全体の色調は、明褐灰（7.5YR 7/2）~黒褐色（7.5YR 3/1）で厚さは79mm（コア長）。	46.53	46.60	上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに連続するが下端側は不明瞭である。φ1~10mの粘土化~砂の岩片や長3.0mm、幅5mm前後の粘土化した細粒岩片を多く含むマンガン鉱染薄質粘土で挟在を呈する。一部マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟在は見られない。原岩組織が認められる。岩片の定向配列は見られない。全体の色調は、明褐灰（7.5YR 7/2）~黒褐色（7.5YR 3/1）で厚さは40mm以上。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・細粒部の挟在や原岩組織や定向配列が有無について追加した・マンガン薄質部であることを追記した・欠けていない岩片も見られたため「欠ケ」を削除した・異端を追加して厚さを変更した・適記した状況から破砕部ではないと判断して「破質粘土」「Hc様」を削除した・表現の適正化（受け）
147	46.87	46.92	40~60°跡孔目ぞいにマンガン鉱染が著しい、黒褐色化する。	46.87	46.92	40~60°跡孔目沿いにマンガン鉱染が著しい、黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（沿い）
148	47.20	47.20	50°跡孔目に0.5mm以下とごく薄い軟弱な灰白色粘土が断片的に付着している。	47.20	47.20	50°跡孔目に幅0.5mm以下とごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（軟弱⇒軟質）
149	47.37	47.66	50°跡孔目は左が平行に分布し、これに斜交一直交する30~80°の不規則状に連続する跡孔目と低密度跡孔目が分布する。前者は直線的でシャープに連続するせん断性跡孔目、後者はせん断性跡孔目から生じたと思せん断面の可能性がある。	47.37	47.66	50°跡孔目は左が平行に分布し、これに斜交一直交する30~80°の不規則状に連続する跡孔目と低密度跡孔目が分布する。前者は直線的でシャープに連続する。せん断性跡孔目と後者はせん断性跡孔目から生じたと思せん断面の可能性がある。これらの跡孔目は互いに交差しており、跡孔目に接在物は認められない。跡孔目間沿の部位には原岩組織が認められ、系統的な跡孔目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・せん断を跡孔目とした跡孔目と積重する跡孔目が見られる。また、不規則状の跡孔目は系統的ではないためせん断性跡孔目ではない・跡孔目間沿の状況について適記した・上記を追記した理由からせん断性跡孔目ではないと判断して「せん断性」「せん断面」を削除した
150	47.52	47.52	50°幅5~5mmの石英脈で母岩に密着するが、脈中央部から跡孔目化している。	-	-	-									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
151	47.65	48.35	50°前後の跡孔目が主体で、上位から連続する70~80°跡孔目がこれらに交差する。	-	-	-									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
152	48.11	-	48.11m以深は浸さB と堅固になる。	48.11	48.48	48.11~48.48mは浸さB と堅固になる。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・浸さBランクの下端深度を追記した
153	48.11	48.11	75°と40°跡孔目が交差し、両跡孔目に囲まれた部分は0.5mm前後の破砕角礫状を呈し、軟質もする。粘土化は伴なわない。	48.11	48.11	75°と40°跡孔目が交差し、両跡孔目に囲まれた部分は0.5mm前後の破砕角礫状を呈で占不連続なマンガン薄集部で、軟質である。粘土化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・不連続マンガン薄集部であることを追記した・不連続で細粒部を伴わないため破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した・表現の適正化（伴う）
154	48.15	49.35	30~60°跡孔目が主体で、これらに60~80°跡孔目が斜交する。一部の跡孔目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈をはさむ跡孔目はあるが、分布は少ない。	48.35	49.35	30~60°跡孔目が主体で、これらに60~80°跡孔目が斜交する。一部の跡孔目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む跡孔目はあるが、分布は少ない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化（挟む）
155	48.49	48.56	48.49m~50°、48.56m~55°の各跡孔目に幅2~5mmの砂状~5.5mm前後の細片をはさむ。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	48.39	48.56	48.39m~50°、48.56m~55°の各跡孔目に幅2~5mmの砂状~0.5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈記の修正（48.49→48.39）・表現の適正化（挟む）
156	48.71	48.71	55°跡孔目は軟弱な明黄褐色（10YR 7/6）粘土脈をはさむ。	48.71	48.71	55°跡孔目は幅1~2mmの軟質な明黄褐色（10YR 7/6）粘土脈を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土の幅を追記した・表現の適正化（軟弱⇒軟質、挟む）

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 :H24-D1-3

○ :記載有り　　なし :該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ :該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード														
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-")で表示)													破砕帯								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・液層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調がみられる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、徴の種類及び形状、含有物(有機質、鉄分など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・条理、葉理、縞状など	鍵層構造 ・コア欠如、コア接続など		地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載		熱現等の割れ目 ・間系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や走向を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目がみられば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスジ(リッケンサイド)条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉱物種 ・鉱種	破砕度区分 ・記号(Hc1/Hc2/Hc3) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の表面粘性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・続状構造、複合面構造、葉理構造、明瞭状粒土など	長断法勾配 (設定した場合)	空隙の状況	鍵盤岩における特記事項 ・コア欠如、コア接続など	記事を削除・変更・追記した理由
157	49.2	49.21	75°はせん断を跡れ目で、ほぼ直交する40°跡れ目を切っている(変位量10mm右ズレ)。	49.21	49.21	75°のせん断性跡れ目は、ほぼ直交する40°跡れ目や粘化した面に類似される。もしくは、40°の跡れ目を止めている。切っている変位量を10mm右ズレ。 跡れ目には挟在物が見られない。跡れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。																							-49.10mが記の幅10mm程度の粘化帯及び49.12mの粘化跡れ目は75°のせん断性跡れ目としているものを明確するものが切っている」は「観察する、もしくはとめている」に変更、変位量の記載を削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。 ・表現の適正化(ほぼ)
158	49.3	49.93	硬さBと堅硬で、一部を除き、跡れ目は少なくなり、跡れ目も砂や粘土などの挟在物は殆んど分布しない。50~70°とされに斜交~直交する60~80°跡れ目が主体である。	-	-	-							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
159	49.3	49.93	「跡れ目状態:aランク	49.35	49.93	「跡れ目状態:bランク							-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・跡れ目に挟在物を伴わないため跡れ目状態のランクをbランクに変更した
160	49.7	49.71	50°跡れ目が1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟在物はを形しない。	49.71	49.71	50°跡れ目が幅1~2mm砂状化する以外には粘土も含め挟在物は分布しない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正「幅」の記載漏れ ・文章の適正化(49.71mの跡れ目の記事であるため、それ以外の箇所の記事を不要)
161	49.6	49.61	75°跡れ目はせん断性跡れ目で、その下端側で7本の0~30°跡れ目を切っている(変位量不明。本跡れ目の浅部側は浅盆して連続する。	49.61	49.61	75°跡れ目はせん断性跡れ目で、その下端側で7本の0~30°跡れ目を止めている。切っている変位量不明)。本跡れ目の浅部側は浅盆して連続する。 跡れ目には挟在物が見られない。跡れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・49.60mに75°の跡れ目と反対向きに斜交する70°の跡れ目が見られるが「切っている」は「とめている」に変更、変位量の記載は削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。 ・下端側が必ずしも下盤とは限らないため「下端」に変更した。
162	49.9	50.76	50~60°跡れ目、低密着跡れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。跡れ目の一部は薄く砂状化した。幅1mm以下の白色炭酸粘土が付着する。粘土は旅としてコア全体に連続するものは殆んどない。	49.93	50.76	50~60°跡れ目、低密着跡れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。跡れ目の一部は薄く砂状化した。幅1mm以下の白色炭酸粘土が付着する。粘土は旅としてコア全体に連続するものは殆んどない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(ほぼ、軟弱⇒軟質)
163	-	-	-	50.09	50.47	50~55°の跡れ目に幅1~3mm褐色砂状化が見られる。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色砂状化を伴う跡れ目は周囲と異なる太況であるため追記した
164	50.7i	51.24	硬さBで堅硬である。50~60°跡れ目主体で、50.84m~55°幅1mm風化砂状化する以外は跡れ目の挟在物はない	50.76	51.24	硬さBで堅硬である。50~60°跡れ目主体で、50.8 m~55°幅2mm風化砂状化する以外は跡れ目の挟在物はない							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正(50.84⇒50.91)
165	-	-	-	50.87	50.87	傾斜45°幅2~3mmの石英脈を挟む。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した
166	51.2i	52.13	硬さBの岩片を主体が、全体的には硬さ「C」主体・互いに直交する40~60°の跡れ目、低密着跡れ目からなり、一部でこれら両者と交差する70~80°も分布する。跡れ目の一部は風化で砂状化した。幅1~2mmの軟弱な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土層が数ケ所分布する。	51.24	52.13	硬質な岩片も含むが、全体的には中硬質主体、互いに直交する40~60°の跡れ目、低密着跡れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する70~80°も分布する。跡れ目の一部は風化で砂状化した。幅1~2mmの軟質な明黄褐色(10YR 7/6)の粘土層が数箇所分布する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、箇所) ・文章の適正化(跡れ目からなる分布する、硬さB⇒硬質な、硬さC⇒やや硬質)
167	51.7i	51.74	40°幅5mmの軟質な橙色(7.5YR 6/8)が直線的に連続する。下盤側5~8mmに淡灰緑色化(緑泥石化)する。	51.74	51.74	40°幅5mmの軟質な橙色(7.5YR 6/8)粘土が直線的に連続する。下端側幅5~8mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・指記の修正(「粘土」の記載漏れ、「幅」の記載漏れ) ・下端側が必ずしも下盤とは限らないため「下端」に変更した。 ・コアに合わせて色調を変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質、に⇒は)
168	51.9i	52.13	硬さ「C」ないし「フ」が≦10m間隔に細片化し、岩片間の一部に厚≦0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	51.93	52.13	やや硬質~やや軟質で≦10m間隔に細片化し、岩片間の一部に厚≦0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化(硬さCないしCが⇒やや硬質~やや軟質で)
169	52.1i	52.28	破砕帯	52.13	52.28	破砕部							-	-	-			-		-			-	-	-	-	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部)
170	52.1i	52.13	Hc-1 50°幅4~5mmの軟質なにぶい橙色(7.5YR 7/3)の粘土で、≦1mm間隔の石英粒を含む。せん断面である。	52.13	52.13	Hc-1(鏡面法勾面) 50°幅4~5mmの軟質なにぶい橙色(7.5YR 7/3)の粘土で、≦1mm間隔の石英粒を含む。鏡面的なせん断面である。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。								-	-	-			-		-			-	-	-	-	・長断法勾面であることを追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
171	52.1i	52.16	Hb 上端46°、下端46°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。≦1~2mm石英粒、≦3~5mmGa岩質を含む単質粘土で、粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~10mm間隔している。	52.13	52.16	Hb 上端46°、下端46°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭で波打ちながら連続する。≦1~2mm石英粒、≦3~5mmGa岩質を含む粘土質頁岩状態で粘土は灰白色(7.5YR 8/2)を呈する。全体の色調は灰褐色(7.5YR 6/2)で厚さ5~10mmと間隔している。 やや軟質。薄まれる細粒部は単目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	・被主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・上端境界の傾斜を上記のHc-1に合わせて変更した。 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・指記の修正(岩質⇒岩片) ・厚さの最大値をコアに合わせて変更した
172	52.1i	52.28	Hc 上端46°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。≦5~10mmの粘土化~≦30ないしの岩片が主体で、岩片間を軟弱な灰白色粘土層が明状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱金で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐灰~黒褐色で厚さ120mm(コア長)	52.16	52.28	Hc 上端46°、下端60°で、両者とも一部不明瞭で波打って連続する。≦5~10mmの粘土化~≦30ないしの岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土層が明状に分布する。ただし、52.20m以深では、マンガン鉱金で黒褐色化部が多いため粘土の存在が不明な区間がある。色調は明褐灰~黒褐色、 厚さ120mm(コア長) やや硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。								-	-	-			-		○			-	-	-	-	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟質⇒軟質、ただし) ・厚さとしコア長を記載したものは、真値ではないため削除した
173	52.2i	52.51	≦5~20mmの≦3ないしの角礫と縁った砂層状の基質からなる(角礫構造部(カクレーサイト)、基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずか。	52.28	52.51	≦5~30mmの≦3ないしの角礫と縁った砂層状の基質からなる跡れ目密集部で岩州化している。角礫構造部(カクレーサイト)、跡れ目にマンガンが沈殿している。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずか。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。								なし					-		-			-	-	-	-	・角礫に移動や回転は見られないため「角礫構造部(カクレーサイト)」を削除し、「跡れ目密集部」に変更した ・跡れ目(マンガン)が充填していることを追記した ・原岩組織が明瞭に認められることを追記した ・表現の適正化(縁ったや⇒縁質、砂層状⇒砂状、軟弱⇒軟質)
174	52.5	52.51	48°跡れ目の上盤側15~20mmは淡灰緑色化(緑泥石化)	52.51	52.51	48°跡れ目の上端側15~20mmは淡緑灰色化(緑泥石化)							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を修正した ・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・指記の修正(「幅」の記載漏れ)
175	52.5	52.60	上端48°、下端58°の跡れ目で囲まれ、全体が軟質化著しい。粘土とは殆んど伴なわない。	52.51	52.60	上端48°、下端58°の跡れ目で囲まれ、全体が軟質化著しい。粘土とは殆んど伴わない。							-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化、伴う)
176	52.6i	52.85	≦10~30mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる角礫構造部であるが上位に比べ、砂質土の基質は殆んどが無しない。粘土ではないが、岩片部の一部は軟化する。	52.60	52.85	≦1~20mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる跡れ目密集部、岩片をしている。角礫構造部であるが上位に比べ、砂状の基質は殆んど分無しない。粘土ではないが、岩片部の一部は軟化する。原岩組織が明瞭に認められ、角礫の移動や回転は見られない。								なし					-		-			-	-	-	-	・角礫に移動や回転は見られないため「角礫構造部」を削除し、「跡れ目密集部」に変更した ・原岩組織が明瞭に認められることを追記した ・表現の適正化(砂質土⇒砂状)
177	52.7i	52.72	45°の跡れ目は多数の交差する跡れ目を切っている。 幅2~3mmの軟質な明黄褐色(10YR 7/6)粘土が直線的に連続する。下盤側に厚≦0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。	52.72	52.72	45°の跡れ目は多数の交差する跡れ目を止めている。幅2~3mmの軟質な明黄褐色(10YR 7/6)粘土が直線的に連続する。下盤側に厚≦0.5~1mmの軟弱粘土が付着する。 跡れ目には挟在物が認められない。跡れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・45°の跡れ目は連続性・直線性に乏しく一部横断する跡れ目が見られるとめて切る」を削除し「止めている」に変更し、変位量の記載を削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡れ目ではないと判断して「せん断性跡れ目」を削除した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード																
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カード から正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・海陸や細かい区層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬・軟の程度及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湧水量、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵盤直下における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など		地質名 ・岩種及びその区間深度を明瞭的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、既存の種類・位、既存の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	熱理等の跡れ目 ・同系統の跡れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な跡れ目の見かけの傾斜や傾在物の種類を明瞭的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な跡れ目があれば、跡れ目の間隔、開口幅、跡れ目面の色調、跡れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物測 ・石英斑、沸石斑、方解石斑等の種類、幅、色調、見かけは傾斜など	堆積岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号 (Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、葉構造、明目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鍵盤直下における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	記事を削除・変更・追記した理由
178	52.85	52.93	上下端45°の跡れ目で囲まれ、全体が著しく軟化する。一部は硬さが残留する。45～60°の連続性がとぼしく短い低密着跡れ目の一部に幅1～4mmの白色～にぶい橙(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。	52.85	52.93	上下端45°の跡れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さが残留する。45～60°の連続性がとぼしく短い低密着跡れ目の一部に幅1～4mmの白色～にぶい橙色(5YR 7/4)の軟質粘土が付着している。																							・表現の適正化(軟質化、乏しく、軟質⇒軟質) ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
179	52.93	53.29	40～50°と70～75°の跡れ目と低密着跡れ目からなる。跡れ目せいの一部は薄く砂状化する。	52.93	53.29	40～50°と70～75°の跡れ目と低密着跡れ目が分岐する。跡れ目せいの一部は薄く砂状化する。																							・表現の適正化(沿い) ・文章の適正化(跡れ目からなる⇒分布する)
180	53.29	53.50	互いに交差する50～70°跡れ目、低密着跡れ目からなる。跡れ目の一部には幅1mm程度の灰白～風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。岩片は硬さ(C)～(D)である。	53.29	53.50	互いに交差する50～70°跡れ目、低密着跡れ目が分岐する。跡れ目の一部には幅1mm程度の灰白～風化による黄褐色の軟質粘土が付着している。岩片は硬さ(C)～(D)である。																							・文章の適正化(跡れ目からなる⇒分布する) ・表現の適正化(軟質⇒軟質)
181	53.50	53.62	著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土状が幅1～3mmで網状に分布する。	－	－	－									なし														
182	53.62	54.20	硬さ(C)ないし(D)で、40～50°の跡れ目がほぼ平行に分布する。跡れ目は粘土部はほとさまないが、一部で薄く砂状化～さ2～3mmの破砕硬状化部をほさむ。	53.62	54.20	硬さ(C)ないし(D)で、40～50°の跡れ目がほぼ平行に分布する。跡れ目に粘土部はほとさないが、一部で薄く砂状化～さ2～3mmの破砕硬状化部をほさむ。著に定向配列は見られない。																							・含まれる硬の定向配列の有無について追記した ・跡れ目し細粒部を伴わず 含まれる硬に定向配列が見られないため「破砕」を削除した ・表現の適正化(ほぼ、挟む)
183	54.20	54.20	45°跡れ目は幅3～6mmで砂状～破砕硬をほさむが、マンガン鉱あにより黒褐色化する。	54.20	54.20	45°跡れ目は幅3～6mmの粘土質～シルト質砂状～破砕硬を挟む。が、マンガン鉱あにより黒褐色化する。																							・挟まれる砂は粘土～シルト質で開口部を充填した流入物と判断して「破砕」を削除した ・マンガン鉱あによる黒褐色化が見られないため削除した ・表現の適正化(挟む)
184	54.20	55.18	互いにほぼ直交する50～80°跡れ目が主体で54.83m×50°跡れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は跡れ目と砂状化部や粘土質はほとさない。岩片は硬さは比較的跡れ目は少ない。	54.20	55.18	互いに概ね直交する50～80°跡れ目が主体で54.83m×50°跡れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は跡れ目と砂状化部や粘土質は挟まない。岩片は硬さは比較的跡れ目は少ない。																							・表現の適正化(概ね⇒跡れ目に)
185	55.18	56.71	40～60°跡れ目とこれらに斜交～直交する40～50°が主体で、55.53mは深では風化で跡れ目沿いが砂状化することが多いが、以深では分布はほとんどなく、粘土部は分布しない。	55.18	56.71	40～60°跡れ目とこれらに斜交～直交する40～50°が主体で、55.53m以深では風化で跡れ目沿いが砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土部は分布しない。																							・表現の適正化(沿い) ・文章の適正化(分布⇒砂状化)
186	55.49	55.53	55.49m×55°と55.53m×48°の面跡れ目に囲まれた部分は淡灰黒色化(検泥石化)し、各跡れ目せい1mmが風化で褐色の砂をはさむ。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。	55.49	55.53	55.49m×55°と55.53m×48°の面跡れ目に囲まれた部分は淡緑灰色化(検泥石化)し、各跡れ目沿いに幅1mmが風化で褐色の砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着している。																							・コアに合わせて色調を変更した ・転記の修正(「色」「幅」の記載漏れ) ・表現の適正化(沿い、挟む、軟質⇒軟質)
187	56.49	56.49	15°はせん断生跡れ目で、交差する跡れ目を切っている(変位量1～10mm右ズレ)	56.49	56.49	15°のせん断性跡れ目は、交差する跡れ目を止めている。切っている(変位量1～10mm右ズレ)。跡れ目には検査物が認められない。跡れ目間沿の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。																							・「15°の跡れ目を確に対となる跡れ目に系統性なズレが見られないためT切っている」を「止めている」に変更。変位量の記載は削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡も目ではないと判断して「せん断性」を削除した
188	56.58	56.58	55°はせん断生跡れ目で、交差する跡れ目を切っている(変位量1～3mm右ズレ)。	56.58	56.58	55°のせん断性跡れ目は、交差する跡れ目を止めている。切っている(変位量1～3mm右ズレ)。跡れ目には検査物が認められない。跡れ目間沿の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な跡れ目も存在しない。																							・55°の跡れ目と類似する跡れ目も見られるため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量の記載は削除した ・跡れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性跡も目ではないと判断して「せん断性」を削除した
189	56.71	56.88	40～60°跡れ目、低密着跡れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。跡れ目には幅1～2mmの軟質な灰白色粘土をはさむことが多い。	56.71	56.88	40～60°跡れ目、低密着跡れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。跡れ目には幅1～2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。																							・表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む)
190	56.71	56.71	45°跡れ目は幅1～2mmの軟質な灰白色粘土状をはさみ、緑褐色化(検泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出している。	56.71	56.71	45°跡れ目は幅1～2mmの軟質な灰白色粘土状を挟み、緑褐色化(検泥石化)を伴う。また、φ0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出している。																							・表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む)
191	56.88	57.24	破砕帯	56.88	57.24	破砕部																							・用語の統一(破砕帯⇒破砕部)
192	56.88	57.15	Hi 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質な灰白色粘土状が網状に分布し、粘土質な岩片状を呈する。色調は明褐灰(5YR 7/1)～白色で、厚さ270mm(コア長)	56.88	57.15	Hi 上端40°、下端58°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続。φ5～20mmの粘土化～硬さDの岩片からなり、岩片間を幅1～2mmの軟質な灰白色粘土状が網状に分布し、粘土質な岩片状を呈する。色調は明褐灰(5YR 7/1)～白色、厚さ270mm(コア長)。 やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・表現の適正化(概ね⇒軟質、混じり) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さもレコア長を記載したものは、真値ではないため削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質、混じり)
193	57.11	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒、φ5～30mmの粘土化した硬さ多く含む軟質な礫質砂土で色調は明褐灰(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰色(2.5GY 8/1)が頻状に分布、厚さ20～28mm。	57.15	57.20	Hb 上端58°、下端60°で、上端は波打って、下端もやや波打って連続する。φ1～2mm石英粒、φ5～30mmの粘土化した硬さ多く含むやや軟質な礫質砂土で色調は明褐灰(7.5YR 7/1)～オリーブ灰(2.5GY 6/1)～灰色(2.5GY 8/1)が頻状に分布、厚さ20～28mm。 細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) ・転記の修正(「色」の記載漏れ) ・上位と同様な硬さであるため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
194	57.20	57.20	(主せん断面)Hc-1 60°、厚さ2～5mmの軟質な薄い黄橙色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側に直線的でシャープに連続する。	57.20	57.20	(最新活動面)Hc-1 60°、厚さ2～5mmの軟質な薄い黄橙色(10YR 7/4)粘土で、粘土の上端側は波打ち、下端側は直線的でシャープに連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																							・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
195	57.20	57.24	Hi 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さDのな岩片からなり、岩片間を幅3～1mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質が網状に分布し、粘土質な岩片状を呈する。色調は明褐灰(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。	57.20	57.24	Hi 上端60°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部不明瞭に連続。φ5mm前後の粘土化～硬さDのな岩片からなり、岩片間を幅3～1mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)の粘土質が網状に分布し、粘土質な岩片状を呈する。色調は明褐灰色(7.5YR 7/2)で厚さ25mm。 やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																							・表現の適正化(概ね⇒軟質、混じり) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・転記の修正(「色」の記載漏れ)
196	57.23	58.03	40～60°跡れ目、低密着跡れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。跡れ目は一部砂状化し、幅0.1～1mmの軟質な灰白粘土質も一部にはさまれる。	57.24	58.03	40～60°跡れ目、低密着跡れ目が1～3cm間隔で平行に分布する。跡れ目は一部砂状化し、幅0.5～1mmの軟質な灰白粘土質も一部に挟まれる。																							・表現の適正化(軟質、挟む)
197	57.90	57.94	40°跡れ目沿いに砂状化が進み、57.90m×40°跡れ目せいはマンガン鉱あで黒褐色化する。	57.90	57.94	40°跡れ目沿いに砂状化が進み、57.90m×40°跡れ目沿いはマンガン鉱あで黒褐色化する。																							・表現の適正化(沿い)
198	－	－	－	58.00	58.00	緑色60°、幅2～10mmでマンガン濃集部を伴う。跡れ目に沿って間段状に分布する。																							・マンガン濃集部は周囲と異なる状況であるため追記した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-3)

孔名 H24-D1-3

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)											破砕等										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び粒径、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩種が見られる場合に、岩品の種類・位、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の詳れ目 ・同系統の詳れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な詳れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な詳れ目があれば、詳れ目の間隔、間口幅、詳れ目面の色調、詳れ目面のすべり(大リソウンサイズ、条線、見かけの変位センス)等を記載。	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	風化岩 ・岩種	破砕区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の流動性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・帯状構造、複合葉構造、葉構構造、明瞭状粒土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鉱産作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	
199	58.口	58.29	互いに交差する50～60°からなる。一部で同角の低密着詳れ目も分布する。詳れ目の一部はごく薄く砂状化する。	58.03	58.29	互いに交差する50～60°の詳れ目が分布する。一部で同角度の低密着詳れ目も分布する。詳れ目の一部はごく薄く砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(角⇒角度) ・文章の適正化(からなる⇒詳れ目が分布する)
200	58.29	58.53	(岩級区分欄)D	58.29	58.53	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
201	58.29	58.53	φ5～30mmの硬さ(C)岩片と砂状の基質からなる角礫状構造部(カタクレーサイト)で、58.33m～40°詳れ目に厚さ0.5～3mmの軟質な区赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴う。	58.29	58.53	φ5～30mmの硬さ(C)岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状構造部(カタクレーサイト)で、58.33m～40°詳れ目に厚さ0.5～3mmの半固結で軟質な区赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる礫に移動や回転は見られない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・含まれる礫に移動や回転は見られないため(カタクレーサイト)を削除した。 ・58.33mの詳れ目の傾斜をコアに合わせて変更した ・挟在する粘土の連続性について追記した ・原岩組織が認められたため追記した ・表現の適正化(修正した⇒硬質、角礫構造部⇒角礫状、軟弱⇒軟質)
202	58.40	58.46	一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
203	58.口	60.00	互いに交差する30～70°詳れ目、低密着詳れ目が主体で上端側の58.53～58.91mと、下端側の59.30～60.00mはいずれも硬さで、その他は硬さはである。また、59.66～59.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟化した硬さEである。 硬さDの58.91～59.30mでは詳れ目は多いが、詳れ目には挟在物は殆んどない。	58.53	60.00	互いに交差する30～70°詳れ目、低密着詳れ目が主体で上端側の58.53～58.91mと、下端側の59.30～60.00mはいずれも硬さで、その他は硬さはである。また、59.66～59.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟質化した硬さEである。 硬さDの58.91～59.30mでは詳れ目は多いが、詳れ目には挟在物は殆んどない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
204	59.口	60.00	詳れ目そいにかい風化が進み、薄く砂状化するものがある。	59.90	60.00	詳れ目沿いにやや風化が進み、薄く砂状化するものがある。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、やや)
205	59.46	59.46	45°詳れ目そい幅5～10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な雲母を伴う。粘土鉱部や粘土層はほぼ含まれない。	59.46	59.46	45°詳れ目沿い幅5～10mm淡緑灰色化(緑泥石化)し、φ0.5mm以下と微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土層は挟まない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、挟む) ・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母)
206	60.口	60.00	60mで検尺	~~60.00~~	~~60.00~~	60mで検尺									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コア観察の情報ではないため削除した

H24－D1－2

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが 層面の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示)											破砕帯									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名<・薄層や細かく互層なども記事事項に記載	色調<・現象の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴<粒度組成、礫の種類及び形状、含有物、表現度、固結など(土研資料に記載。<・その他 層面と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて 硬度、支持度、含水状態などを記載。	堆積構造<・層理、葉理、級化など	都道府県における特記事項<・コア欠如、コア破乱など	地質名<・風化及びその区間深度を明確的に記載。<・層面と状況が異なる場合や特徴的な留意点が見られる場合は、岩盤の種類・性・岩盤の含有率などを記載。	色調<・現象の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目<・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。<・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や開口幅等の情報を明確的に記載。<・層面と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス等を記載。	鉱物脈<・石英脈、方解石脈、炭石脈 方解石脈等の種類<幅、色調、見かけの傾斜など><・鉱物脈<・変質	破砕度区分<・記号(H1,H2,H3)<・区分毎の区間深度	破砕度区分の根拠<・見かけの傾斜<・性状	破砕幅<実測できる場合>	破砕部<・色調<・破砕部内物質<・硬軟<・細粒部の直線性・連続性<・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造<・組成構造、複合面構造、葉理構造、級化粒土など	最新変動面<認定した場合>	試験の状況	都道府県における特記事項<・コア欠如、コア破乱など	
1	-	-		0.00	6.81	盛土			-																	・地質名に合わせて盛土の区間を追記した
2	0.00	0.31		0.00	0.31	表<φ最大3cm 黒色の細粒砂質・泥質片からなる。			○																	・地質名及び区間深度を追記した ・表現の適正化(max⇒最大) ・コアに合わせて層種名を変更した
3	0.31	2.84	砂礫 φmax3×6cmの角礫だが、大半は10mm以下の細礫～粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗閃緑岩あるいはアプライト起源であるが稀に黒色の貫岩片(?)を含む。	0.31	2.84	砂礫 φ最大3×6cmの角礫だが、大半は径10mm以下の細礫～粗砂からなる。粒度不均一だが、細粒分はごく少量であり、ルーズである。大半は花崗閃緑岩あるいはアプライト起源であるが稀に黒色の貫岩片(?)を含む。			○																	・区間深度を追記した ・表現の適正化(max⇒最大、φ:mm⇒mm、不均一⇒不均質) ・粒径の修正(粗)の記載漏れ ・コアに合わせて層種名を変更した
4	2.84	6.81	シルト質砂質 φmax16cm、大半が花崗閃緑岩だが、アプライト硬もみられる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	2.84	6.81	シルト質砂質 φ最大16cm、大半が花崗閃緑岩だが、アプライト硬も見られる。シルト分を含み、上位層よりやや締りが良い。	○	○	○																	・区間深度を追記した。 ・表現の適正化(max⇒最大、見る、やや)
5	2.3	3.45	粘性土	3.30	3.45	応力が低下する。			○																	・表現の誤一(1.30) ・コアに合わせて層種を変更した
6	-	-	-	3.82	3.82	径4cmのモルタル片を含む			○																	・モルタル片は岩盤と異なる状況であるため追記した
7	4.00	6.81	色調欄:記載なし	4.00	6.81	色調欄:2.5Y6/4 に近い黄			-																	・コアに合わせて色調を追記した
8	4.35	4.35	4.35m付近に炭質物片あり。	4.35	4.35	4.35m付近に径50mmの炭質物片あり。			○																	・炭質物の大きさを追記した
9	6.81	6.81	6.81mで確認	-	-	-			-																	
10			φ2～10mmの石英と長石の岩盤からなる花崗閃緑岩(Gp)で、長石は白濁化している。	6.81	11.00	6.81～11.00m 花崗閃緑 φ2～10mmの石英と長石の岩盤からなる花崗閃緑岩(Gp)で、深度10.58m以浅の長石は白濁化している。φ:10mm⇒mm、アプライト⇒岩盤 ※ 6.81～11.00m 深度10.58m以浅の長石は白濁化している。												なし。	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名及び区間深度を追記した ・長石の白濁化が見られる深度を追記した ・アプライト(岩)は確認されなかったことから、その深度を追記した
11	6.81	10.58	40～60°の割れ目と密度高割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目が伴う。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土をはさむものもある。	6.81	10.58	40～60°の割れ目と密度高割れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～60°割れ目が伴う。割れ目の一部は風化で薄く砂状化する部分や、軟質な白色粘土を挟むものもある。											○										・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
12	7.05	7.63	コアの形状欄:Vランク	7.05	7.63	コアの形状欄:Dランク											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
13	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土脈をはさむ。	7.10	7.10	60°割れ目に幅0.5mm白色軟質粘土脈を挟む。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
14	8.11	8.11	45°割れ目に 幅1～2mm白色軟質粘土脈はさむ。	8.11	8.11	45°割れ目に 幅1～2mm白色軟質粘土脈を挟む。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
15	8.11	8.32	コアの形状欄:Vランク	8.11	8.32	コアの形状欄:Dランク											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
16	8.47	9.49	コアの形状欄:Vランク	8.47	9.49	コアの形状欄:Dランク											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風面より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
17	-			8.55	8.66	径8.55°の割れ目に沿って幅2～3mmが淡緑色化し、軟質な白雲母が認められる。											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・緑色化や鉱物の晶出は風面と異なる状況であるため追記した
18	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mm白色軟質粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化	8.89	8.89	55°のせん断性割れ目は幅1mm以下の不連続な白色軟質粘土を伴う。また、粘土上盤の幅2mmの砂はマンガン鉱染で黒色化する。割れ目面近の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・粘土の連続性及び層面盤部の状況について追記した ・せん断を示唆する状況は見られない ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性(?)を削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質)
19	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。表石を切断。	9.06	9.06	幅1mm石英脈が52°で母岩に密着して分布。石英脈が複雑するが表石は石英脈を挟んでズレていない。表石を切断。粘土の挟在は見られない。石英脈の盤面近傍には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。											なし。	○	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈が複雑するが表石は石英脈を挟んでズレていないことを追記し、「表石を切断」を削除した。 ・粘土の挟在の有無及び石英脈の盤面近傍の状況について追記した
20	-	-	-	9.54	9.61	径9.40°～50°の割れ目に挟まれた区間にマンガン汚染が顕著に見られる。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は風面と異なる状況であるため追記した
21	-	-	-	9.77	9.77	径9.50°の割れ目に酸化汚染が見られる。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色化の著しい酸化汚染は風面と異なる状況であるため追記した
22	9.80	10.00	コアの形状欄:Vランク	9.80	10.00	コアの形状欄:Dランク											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位より割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
23	10.21	10.21	45°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。φ3mm石英脈表を切断している。	10.21	10.21	45°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。石英脈が複雑するが表石は石英脈を挟んでズレていない。φ3mm石英脈表を切断している。粘土の挟在は見られない。石英脈の盤面近傍には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。											なし。	○	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈が複雑するが表石は石英脈を挟んでズレていないことを追記し、「石英脈を切断」を削除した。 ・粘土の挟在の有無及び石英脈の盤面近傍の状況について追記した
24	10.58	11.53	50～55°割れ目が10～30mm間隔では平行に分布。上位側の10.58～10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも連続的でシャープな割れ目のせん断割れ目群を形成している。	10.58	11.53	50～55°割れ目が10～30mm間隔で概ね平行に分布。上位側の10.58～10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも連続的でシャープな割れ目のせん断割れ目群を形成している。一部、割れ目が石英脈表を挟んでいるが、石英にズレは認められない。割れ目には挟在物が認められず割れ目盤面の盤部には原岩組織が認められる。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(概ね、伴う、割れ目群⇒割れ目密集部) ・文章の適正化(形成している⇒である) ・深度の記載があるため、「上位側」は削除した ・割れ目及びその盤面の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断」を削除した
25	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟化するが、せん断面は分布しない。	11.53	11.67	全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。											-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
26	11.67	11.95	10°と40°割れ目が細かく分布し、φ20～30mmに細片化。	11.67	11.95	径約10°と40°の割れ目が細かく分布し、φ20～30mmに細片化する。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(概ね) ・文章の適正化(「の」の追加)
27	11.95	12.13	割れ目そいに幅1mmの軟質な白色粘土脈が多くなり、全体に軟化著しい	11.95	12.13	割れ目沿いに幅1mmの軟質な白色粘土脈が多くなり、全体に軟質化著しい											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い、軟質⇒軟質、軟質化) ・コアに合わせて色調を変更した
28	12.13	12.38	12.20m付近で割れ目が発達するが、これ以外は風化で割れ目は満足している。	~~12.13~~	~~12.38~~	12.20m付近で割れ目が発達するが、これ以外は風化で割れ目は満足している。											○	-	-	-	-	-	-	-	-	・該当区間の割れ目は認在化しているため記載を削除した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を本書字で表示) (変更していないものは「-」と表示)													破砕等									
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ✓	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ✓	地質名 ・薄層や細かい層などを柱状図に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、異質など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状態、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・性、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	岩理等の該れ目 ・同系統の該れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な該れ目の見かけの傾斜や岩在物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な該れ目があれば、該れ目の間隔、開口幅、該れ目面の色調、該れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	岩種 ・岩種	破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hi) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・性状 ・傾斜	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、柔剪構造、網目状粘土など	最新活動面(設定した場合)	空隙の状況	鑑定作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	記事を削除・変更・追記した理由
29	12.38	12.97	破砕等(D-1断層)	12.38	12.97	破砕部(D-1断層)									-	-	-			-				-	-	-	・視認の前一(破砕等→破砕部) ・断層名は評価であるため削除した	
30	12.18	12.86	Hi 上端60°、下端5°で、両者とも直線的でシャープに連続。岩組織は残留するが、該れ目は殆んど消滅した著しく軟化した2~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な区自~灰黄色(2.5Y 7/2)粘土質が分布する構造(粘土、全体的な色調は白っぽい色(7.5YR 6/3)を呈する。厚さ480mm(コア長)で、12.65mに交差する該れ目を切る(変位量2mm右ズレ)せん断面が分布する。	12.38	12.86	Hi 粘土混じり硬状破砕部 上端60°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。破質、岩組織は残留するが、該れ目は殆んど消滅した著しく軟質化した2~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°、幅0.5~1mmの軟質な区自~灰黄色(2.5Y 7/2)粘土質が分布する粘土混じり硬状態。全体的な色調は白っぽい褐色(7.5YR 6/3)を呈する。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。厚さ480mmコア長に12.65mに交差する該れ目を切る(変位量2mm右ズレ)せん断面が分布する。																											・破砕部(あるため破砕部内物質の名称を変更した ・岩組織は残留しないため削除した ・該れ目の表記「(色)の記載漏れ」 ・表現の適正化(軟質化、軟弱→軟質) ・硬軟、単粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さとしてコア長を記載したものは、異端ではないため削除した ・12.65mを近にある該れ目にズレは認められないため記載を削除した	
31	12.86	12.87	Hc-1(主せん番面-12.86m) 上端・下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。δ1mm前後の石英粒を少量含むやや硬質な区自~灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm	12.86	12.87	Hc-1 粘土状硬破砕部 (最新活動面-12.86m) (最も直線的な面) 上端・下端とも45°で、直線的でシャープに連続する。δ1mm前後の石英粒を少量含むやや硬質な区自~灰黄色(2.5Y 6/2)粘土で、厚さ5mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																											・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の性状を追記した ・表現の適正化(やや、緩まった→硬質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
32	12.87	12.91	Hb 上端45°、下端45°で上端は直線的でシャープに、下端は不明瞭に連続。厚さ1~20mmの粘土(~砂状化岩片を、岩片間は粘土質からなりやや緩ったにぶい黄褐(10YR 7/3)の複質粘土である。厚さ35mm	12.87	-	Hb 粘土混じり硬状部 上端45°で直線的でシャープに連続。下端45°で不明瞭に連続。破質で、厚さ1~20mmの岩片主体で、岩片間は幅0.5~1mmの粘土質(少量狭む)、にぶい黄褐色を呈する。幅7.5cm 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																											・どちらも粘土主体であるため粘土混じり硬々部として一括した ・画像の特徴をまとめて記載した ・硬、破軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・変更した ・新しく軟質化した岩片や軟弱な粘土層は少有だが少量であるため、多くを占める性状を記載した	
33	12.11	12.97	Hi 上端45°、下端45°で両者とも不明瞭に連続。著しく軟化した硬状の岩片と、45°幅0.5~1mm前後の粘土質を少量含み粘土混じり岩片状を呈する。にぶい黄褐色(10YR 7/4)で厚さ40mm。	-	12.97																									
34	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hb	12.87	12.91	(破砕度区分欄)Hi									-	-	-			-				-	-	-	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	
35	12.97	15.24	上位に比べ該れ目が少なく硬さ「D」からなる。該れ目そいに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土質の分布は少ない。該れ目は40~60°が主体である。	12.97	16.24	上位に比べ該れ目が少なく硬さ「D」からなる。該れ目沿いに風化が進み砂状化を呈する部分を含む。粘土質の分布は少ない。該れ目は40~60°が主体である。									-	○	-			-				-	-	-	・掘起の修正(15.24→16.24) ・表現の整正化(沿い)	
36	13.15	13.46	10~20°の該れ目が多く、該れ目そいは風化で砂状化～小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。	13.15	13.46	10~20°の該れ目が多く、該れ目沿いは風化で砂状化～小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。									-	○	-			-				-	-	-	・表現の整正化(沿い)	
37	13.73	13.77	55~65°の該れ目が2~10mm間隔で平行に連続、かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟化する。	13.73	13.77	55~65°の該れ目が2~10mm間隔で平行に連続、かつシャープに分布。粘土化はないが、全体的に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。									-	○	-			-				-	-	-	・検査する粘土について追記した ・表現の整正化(軟質化)	
38	-	-	-	13.82	13.89	不規則な形状で褐色化している。									-	なし	-			-				-	-	-	・褐色化の不規則な形状は周囲と異なる状況であるため追記した	
39	14.20	14.20	50°幅1mmで引英除が母岩に密着して連続する。	-	-	-									-	なし	○			-				-	-	-		
40	14.30	14.30	45°該れ目を中心に、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。	14.32	14.32	45°該れ目に沿って、幅5~10mmが緑色化するが粘土化などの劣化は伴わない。									○	-	-			-				-	-	-	・コアにあわせて深度を変更した ・表現の整正化(伴う) ・文章の整正化(中心に→沿って)	
41	14.47	14.97	14.97m~60°と14.97m~62°はせん断性該れ目で、前者は交差する60°該れ目を切り、後者は長石岩品を切断している。	14.87	14.97	14.87m~60°と14.97m~62°のせん断性該れ目は、前者は交差する60°該れ目を止めている。切り、後者は長石岩品を切断しており、切断しているが、両者ともズレは認められない。該れ目には鉄在物が認められず、該れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な該れ目も存在しない。										○	-			-				-	-	-	・14.87mの該れ目と交差する60°の該れ目は、この該れ目でとまっているが、対になる該れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切る」を「止めている」に変更した。 ・14.97mの該れ目が長石岩品を切断するとしているが、該れ目は長石を検査していないがズレではいないため問題)を削除した ・該れ目をU字型の状況について追記した ・上記の理由からせん断性該れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	
42	15.10	15.28	15.10m~65°と15.28m~55°はせん断性該れ目で前者は交差する該れ目を切り、後者は石英岩を切っている。	15.10	15.28	15.10m~65°と15.28m~55°のせん断性該れ目は前者は長石岩品を検断しており、ズレではいない。切り、後者は石英岩品を検断しており、切っているが、ズレではいない。また、検断する該れ目が見られる。切っているが、両者とも該在物は認められず、該れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な該れ目も存在しない。										○	-			-				-	-	-	・15.10mの該れ目は検断する長石岩品をずらしていないため「切る」を削除した ・15.28mの該れ目は検断する石英岩品をずらしておらず、検断する該れ目が見られるため「切る」を削除した ・該れ目をU字型の状況について追記した ・上記の理由からせん断性該れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	
43	15.47	-	15.47m以深では、該れ目そいに幅1~2mmで風化により褐色化する。	15.47	-	15.47m以深では、該れ目沿いに幅1~2mmで風化により褐色化する。									-	○	-			-				-	-	-	・表現の適正化(沿い)	
44	16.12	16.12	60°該れ目そいに微小な金属鉱物が晶出している。	16.12	16.12	60°該れ目沿いに微小な金属鉱物が晶出している。									-	○	-			-				-	-	-	・表現の適正化(沿い)	
45	16.14	17.66	コアは全体に亜し軟化する「E」であるが、17.41m以浅では岩組織と該れ目は残留している。該れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	16.24	17.66	コアは全体に亜し軟質化する「E」であるが、17.41m以浅では原岩組織と該れ目は残留している。該れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。									-	○	-			-				-	-	-	・表現の適正化(軟質化、原岩組織) ・マンガンは周囲と異なる状況であるため追記した	
46	16.14	16.54	50°のせん断性該れ目で、交差する該れ目を切っている。該れ目は挟在物はないが、1mm程度風化で褐色に彩状化。	16.54	16.54	50°のせん断性該れ目と交差する該れ目は止まっている。切っている。該れ目は挟在物はないが、幅1mm程度風化で褐色に彩状化。該れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な該れ目も存在しない。									○	-			-				-	-	-	・50°の該れ目は交差する該れ目を止めているが、対になる該れ目が分布せず、切っているかの判断ができないため「切っている」を「止まっている」に変更した。 ・該れ目および該れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性該れ目ではないと判断して「せん断性」「切っている」を削除した ・掘起の修正(「幅」の記載漏れ)	
47	16.2	17.46	(コアの形状欄)Dランク	16.12	17.46	(コアの形状欄)Vランク									-	-	-			-				-	-	-	・周囲より該れ目が多いためコアの形状ランクをVランクに変更した	
48	17.45	17.30	δ50~100mmと従来より天盛化した長石岩品が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。	17.05	17.30	δ1~10mmのδ従来より天盛化した長石岩品が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。									-	なし	-			-				-	-	-	・掘起の修正(50~100mm→5~10mm) ・比較方法が曖昧であるため、「従来より」を削除した	
49	17.16	17.66	δ10~20mm前後の細片化、該れ目状況は不明	17.46	17.66	δ10~20mm前後に細片化。該れ目状況は不明									-	なし	-			-				-	-	-	・表現の適正化(「δ」→「に」) ・該れ目のどのような状況を指しているの不明であるため削除した	
50	17.16	19.78	該れ目は少なく、30~60°の該れ目が主体で、該れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土質を挟むものがある。	17.66	19.78	該れ目は少なく、30~60°の該れ目が主体で、該れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土質を挟むものがある。									-	○	-			-				-	-	-	・表現の適正化(挟む)	
51	-	-	-	18.10	18.10	傾斜40°の該れ目に幅1~2mmのマンガンを挟む。									-	○	-			-				-	-	-	・マンガンは周囲と異なる状況であるため追記した	
52	18.11	18.21	58°該れ目は、該れ目そいに2mm風化で褐色化し砂状を呈する。該れ目周辺に微細な雲母が晶出している。	18.21	18.21	58°該れ目は、該れ目沿いに幅1~2mm風化で褐色化し砂状を呈する。該れ目周辺に微細な白雲母が晶出している。									-	○	-			-				-	-	-	・鉱物名を適正化した(雲母→白雲母) ・表現の適正化(沿い) ・掘起の修正(「幅」の記載漏れ)	
53	-	-	-	18.41	18.41	傾斜50°、幅1mmの白色粘土を挟む。									-	なし	-			-				-	-	-	・白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 :H24-D1-2

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															記事を削除・変更・追記した理由
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは"-"と表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・海棲や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬度、湿状況、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア接長など		地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合を特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・程、岩品の含有率などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	岩現等の詳れ目 ・同系統の詳れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な詳れ目の見かけの傾斜や接在物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な詳れ目があれば、詳れ目の間隔、間口幅、詳れ目面の色調、詳れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	捕獲岩 ・岩種	破砕等 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hb) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・結晶構造、複合構造、岩種構造、網目状結合など	長断面動態(設定した場合)	変隙の有無	掘進作業における特記事項 ・コア欠如、コア接長など	
54	18.71	18.77	55°はせん断性詳れ目で、幅2mmの軟弱な灰黄色粘土膜をはさむ。	18.77	18.77	55°のせん断性詳れ目は、幅2mmで連続性に乏しい軟質な灰黄色粘土膜を挟む。55°詳れ目で止まっている詳れ目と類似する詳れ目が見られる。詳れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な詳れ目も存在しない。																						・表現の適正化(挟む、軟弱→軟質) ・粘土の連続性について追記した。 ・詳れ目及び周辺の状況を追記した。 ・追記した岩由からせん断性詳れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。
55	18.91	18.97	58°詳れ目ぞいマンガン鉱染で黒褐色をする。	18.97	18.97	59°詳れ目沿いマンガン鉱染で黒褐色をする。																						・表現の適正化(沿い) ・粘記の修正(「化」の記載漏れ)
56	－	－	－	19.01	19.21	風化残留部でやや硬質。																						・風化残留部は周囲と異なる状況であるため追記した
57	19.0	19.21	(コアの硬さ欄)Dランク	19.01	19.21	(コアの硬さ欄)Cランク																						・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
58	19.34	19.30	62°詳れ目ぞい幅5～15mmは砂状化～細片状化する。数千の粘土を含む。	19.23	19.30	19.23m及び19.30m の62°詳れ目沿い幅2～15mmは砂状化～細片状化する。数千の粘土を含む。この間「マンガン汚染により黒色化している。																						・19.23m式詳れ目も含めた幅の最小値を変更した。 ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した。 ・表現の適正化(沿い)
59	19.51	19.78	(コアの形状欄)Ⅳランク	19.57	19.78	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より詳れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した
60	－	－	－	19.57	19.61	傾斜60°、幅2.5mm程度で軟質化。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著。																						・幅広のマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
61	19.71	19.87	破砕層Hb(主せん断面=19.87m) 上端33°、下端33°で周青とも直線的でシャープに連続する。δ＝3mmの石英粒とφ5mm程度の粘土化したGa岩片を含む粘土でやゝ締っている。淡黄橙色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mmと場所により局相する。	19.78	19.87	破砕部Hb(最新活動面=19.87m) 上端33°、下端33°で周青とも直線的でシャープに連続する。δ＝3mmの石英粒とφ5mm程度の粘土化したGa岩片を含む粘土混じり凝状部でやや硬質。淡黄橙色(10YR 8/4)を呈し、厚さは10～50mm(局相)。19.87m式は幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。 含まれる細粒部は詳目状に分布、原岩組織が認められ岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。																						・用語の統一(破砕層→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・長さ直線的であるため最新活動面の深度を変更した ・標主体であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・19.87m式粘土について追記した。 ・表現の適正化(やや、締って→硬質) ・「場所により」は不要な表現であるため削除した ・細粒部の直線性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
62	19.71	19.87	(詳れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク (変質欄)2ランク (破砕度区分欄)Hb	19.78	19.87	(詳れ目状態欄)uランク (コアの形状欄)Ⅵランク (コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク (破砕度区分欄)Hb						○		○														・コアは極めて軟質で、変質を強く受けており、詳れ目が表面に多く詳れ目ごとで認識できないものが存在するため、詳れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、変質のランクを変更した。 ・上記の変更に合わせて破砕度区分を変更した
63	19.87	19.96	(コアの形状欄)Ⅳランク	19.87	19.96	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より詳れ目が多いためコアの形状のランクをⅤランクに変更した。
64	19.87	20.56	60°詳れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟弱粘土膜をはさむ。	19.87	20.59	60°詳れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1～2mmの軟質白色粘土膜を挟む。																						・コアに合わせて下端深度を変更した(20.18mは硬軟のランクの境界)。 ・粘土の色調を追記した。 ・表現の適正化(ほぼ、挟む、軟弱→軟質
65	20.51	21.50	直上位と同様、40°詳れ目からなるが、直上位よりも硬質で、硬さ「L」となる。	20.59	21.50	直上位と同様、60°の詳れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質で、硬さ「L」となる。																						・コアに合わせて下端深度を変更した(20.18mは硬軟のランクの境界)。 ・コアに合わせて硬軟を変更した ・文章の適正化(詳れ目からなる→詳れ目が分布する)
66	20.51	21.50	(崩落区分欄)CM	20.59	21.50	(崩落区分欄)CL																						・コアの形状のランクの変更に伴い、崩落を変更した ・20.59～21.01mはCM級であるが、上記の変更で、区間長が50cm未満になるためCL級に含めた
67	20.51	20.56	コアの硬さ欄:D／Cランク境界 コアの形状欄:Ⅳ／Ⅲランク境界 (風化欄):δ／ｉランク境界	20.59	20.59	(コアの硬さ欄)D／Cランク境界 (コアの形状欄)Ⅳ／Ⅲランク境界 (風化欄)δ／ｉランク境界																						・コアに合わせて各ランクの境界を変更した
68	20.71	20.77	30°幅30mmで泥晶のない粒晶質部が分布、上下端はよく密着している。このすぐ上隣側には φ10mmの大型のかり長石R晶が分布する。	20.74	20.77	30°幅30mmで泥晶のない粒晶質部が分布、上下端はよく密着している。このすぐ上隣側には10mmの大型のかり長石の晶品が分布する。																						・上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した ・大型のかり長石はかり長石であるため変更した ・粘記の修正(の)
69	20.91	20.90	63°詳れ目ぞいに微細な雲母が晶出している。粘土膜は伴なわない。	20.90	20.90	63°詳れ目沿いに微細な白雲母が晶出している。粘土膜は伴わない。周囲はわずかに緑色化している。																						・鉱物名を適正化した(雲母→白雲母) ・緑色化に周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(沿い、伴う)
70	21.0	21.36	(コアの形状欄)Ⅲランク	21.01	21.36	(コアの形状欄)Ⅳランク																						・周囲より詳れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した
71	21.01	21.30	60～90°の低密着詳れ目2～3本が分布し、詳れ目ぞいにマンガン鉱染うける。	21.05	21.30	60～90°の低密着詳れ目2～3本が分布し、詳れ目沿いでマンガン鉱染受ける。																						・表現の適正化(沿い、受ける)
72	－	－	－	21.12	－	21.11m以深は斑晶が少ないアプライト移を呈する。																						・21.12m以深の地質について追記した
73	21.54	23.18	上位よりもやゝ詳れ目多くなるが(コア形状Ⅳ)、硬さ「C」と硬質。 詳れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で詳れ目ぞいに軟化するものもある。	21.50	23.18	上位よりもやゝ詳れ目多くなるが(コア形状Ⅳ)、硬さ「C」とやゝ硬質。 詳れ目は特定方向のものは分布しないが、一部で詳れ目沿いに軟質化するものもある。マンガン鉱染を伴う詳れ目が多い。																						・コアに合わせて硬軟を変更した ・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(上位、やゝ、沿い、軟質化)
74	21.54	21.50	50°詳れ目に幅2～3mm軟弱粘土膜はさむ。	21.50	21.50	50°詳れ目に幅2～3mm軟質黄褐色粘土膜を挟む。																						・粘土の色調を追記した ・表現の適正化(挟む、軟弱→軟質)
75	21.81	22.10	21.89m=15°～22.10m=50°で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。	21.89	22.10	21.89m=15°～22.10m=50°の詳れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化している。																						・詳れ目であることを追記した
76	－	－	－	21.50	21.55	21.50～21.55m間は局所的に粘土化。区黄色粘土が網目状に分布する。一部でマンガンを伴う。																						・網目状の粘土化やマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
77	－	－	－	22.10	22.39	アプライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗岩との境界は明瞭。																						・アプラ中の挟在について追記した
78	22.11	22.17	60°詳れ目に幅1～2mmの灰黄色軟弱粘土膜はさむ。	22.17	22.17	60°詳れ目に幅1～2mmの灰黄色軟質粘土膜を挟む。																						・表現の適正化(挟む、軟弱→軟質)
79	22.11	22.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	22.10	22.20	(コアの形状欄)Ⅴランク																						・周囲より詳れ目が多いためコアの形状はランクをⅤランクに変更した。
80	22.11	22.39	(地質名欄)Gp	22.10	22.39	(地質名欄)Ap																						・コアにまわせて地質名欄を変更した
81	22.21	22.65	(詳れ目状態欄)cランク	22.20	22.65	(詳れ目状態欄)uランク																						・挟在物を伴う詳れ目が少ないため詳れ目状態のランクをuランクに変更した
82	22.2	22.21	50°のせん断性詳れ目で、交差する詳れ目を切っている(変位量:5mm左ズレ)	22.21	22.21	50°のせん断性詳れ目で、交差する詳れ目を止めている。切っている。変位量5mm左ズレ。 詳れ目には挟在物が認められず、詳れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な詳れ目も存在しない。																						・変位のある事とした詳れ目は対になるものではないため変位量を削除した。 ・詳れ目および周辺の状況について追記した。 ・追記した岩由や上記の理由からせん断を詳れ目ではないと判断してせん断性、切っている」を削除した
83	22.31	22.32	40°幅20mmの長石漸集部が母岩に密着して分布。	22.32	22.32	20°幅20mmのかり長石漸集部が母岩に密着して分布。																						・コアにまわせて傾斜を変更した ・かり長をであるため追記した。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カード から正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間の種類及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海況度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など		地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合に、岩品の種類・度、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	岩理等の詳れ目 ・同系統の詳れ目の特徴を伴う区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な詳れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な詳れ目があれば、詳れ目の間隔、開口幅、詳れ目面の色調、詳れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・鉄錆脈 ・岩錆	破砕等 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hd) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・線状構造、現在進構造、葉理構造、細粒状粘土など	最新活動面(認定した場合)	変除の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア破乱など	記事を削除・変更・追記した理由
84	22.89	22.89	85°はせん断性詳れ目で、交差する詳れ目を切っている(変位量 5mm左ズレ)	22.89	22.89	85°のせん断性詳れ目で、交差する詳れ目を止めている。切っているから変位量5mm左ズレ。 詳れ目には挟在物が認められず、詳れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な詳れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変位の基準とした詳れ目は対になるものではないため変位量を削除した。 ・詳れ目及び層面の状況について追記した。 ・追記した理由や上記の理由からせん断性詳れ目ではないと判断してせん断性「切っている」を削除した
85	22.90	23.00	(コアの形状欄 Ⅳランク (コアの硬さ欄)Cランク	22.90	23.00	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアはやや軟質で周囲より詳れ目が多いため、コアの硬さ、コアの形状の各ランクを変更した
86	23.16	24.04	詳れ目の少なく硬質。 40～60°、詳れ目主体で、詳れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色～灰黄色粘土層をはさむ。	23.18	24.04	詳れ目が少なくやや硬質。 40～60°、詳れ目主体で、詳れ目の一部に幅1～2mmの軟質な白色～灰黄色粘土層を挟む。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(の⇒が) ・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
87	23.18	23.72	23.68m、23.72m、50°で各々、幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布。	-	-	-									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
88	23.80	24.04	(コアの形状欄 Ⅱランク (岩級区分欄)CM	23.80	24.04	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状ランクをⅣランクに変更した。 ・上記の変更に伴い、岩級を変更した
89	23.88	23.88	73°、幅4～5mmの長石質母岩に密着して分布。	23.88	23.88	73°、幅4～5mmのカリ長石と石英の凝集部が脈状に分布。母岩している。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・脈状の鉱物について種類を追記した ・鉱物脈は母岩と仲薄していることを追記した
90	24.04	25.22	上位よりもやや変化し、硬さ(D)で、20～60°詳れ目が主体、軟化するため、詳れ目の一部は細片化する。	24.04	25.22	上位よりもやや軟質化し、硬さ(D)で、20～60°詳れ目が主体、軟化するため、詳れ目の一部は細片化する。 詳れ目に白色粘土やマンガンを挟むことが多い。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(やや、軟質化) ・白色粘こやマンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した
91	24.04	24.30	(コアの形状欄 Ⅳランク	24.04	24.30	(コアの形状欄)Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状ランクをⅤランクに変更した。
92	-	-	-	24.04	24.04	傾き15°の詳れ目に沿って幅5～10mmが緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
93	-	-	-	24.57	24.60	傾き60°の詳れ目に沿ってマンガン汚染が顕著に見られる。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・顕著なマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した
94	24.80	24.82	60°、幅15mmは粘土でやや軟化。	24.80	24.82	60°、幅15mmは白色粘土でやや軟質化。 下端側は緑色化が見られる。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・粘土化の色調を追記した ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の適正化(やや、軟質化)
95	24.80	25.22	(コアの形状欄 Ⅳランク	24.80	25.22	(コアの形状欄)Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状ランクをⅤランクに変更した
96	25.22	26.84	一部の詳れ目では、詳れ目そのに薄く軟化するが、概ねは硬質で詳れ目はかない。 一部の詳れ目には、幅0.5～1mmの白色・軟質粘土層をはさむが粘土層の分布は少ない。	25.22	26.84	一部の詳れ目では、詳れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で詳れ目はかない。 一部の詳れ目には、幅0.5～1mmの白色・軟質粘土層を挟むが粘土層の分布は少ない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(沿い、軟質化、挟む、軟質⇒軟質) ・文章の適正化(一部の詳れ目と粘土層は分布が少ないは同じ意味のため削除した)
97	26.67	26.67	55°のせん断性詳れ目で、交差する詳れ目を切っている(変位量 2mm左ズレ)。幅1mmの白色・軟質粘土層をはさむ。	26.67	26.67	55°のせん断性詳れ目は、交差する詳れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っているから変位量2mm左ズレ。幅1mmの連続性に乏しい白色・軟質粘土層を挟む。詳れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な詳れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・55°の詳れ目で止まっているものと横断するものがあるため「変位量」を削除した。 ・詳れ目及び層面の状況について追記しk ・追記した理由や上記の理由からせん断性詳れ目ではないと判断してせん断性「切っている」を削除した。 ・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質)
98	26.84	26.94	(岩級区分欄)CM	26.84	26.94	(岩級区分欄)CL									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアの硬軟、コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した
99	26.84	27.38	(コアの形状欄 Ⅳランク (コアの硬さ欄)Cランク	26.84	27.38	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多く、やや軟質であるためコアの形状、コアの硬さの各ランクを変更した
100	26.84	28.73	互いに交差する40～60°詳れ目が主体。上位に比べ詳れ目が多くなる。詳れ目の面は薄く変化するが、硬質(硬さ(C))。	26.84	28.73	互いに交差する40～60°詳れ目が主体。上位に比べ詳れ目が多くなる。詳れ目の面は薄く変化する。やや硬質(硬さ(C))⇒やや軟質(硬さ(D))									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて硬軟を変更した ・表現の適正化(薄く⇒弱く)
101	27.30	27.32	上下端60°の詳れ目に幅0.5～1mmの軟質な淡黄色粘土を伴い、全体が粘土化進む。	27.30	27.32	上下端60°の詳れ目に幅0.5～1mmの軟質な淡黄色粘土を伴い、全体が粘土化進む。									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(伴う、軟弱⇒軟質)
102	27.38	27.80	(詳れ目状態欄)cランク	27.38	27.80	(詳れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う詳れ目が少ないため詳れ目状態のランクをbランクに変更した
103	27.85	28.00	(コアの形状欄 Ⅳランク	27.85	28.00	(コアの形状欄)Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状aランクをⅤランクに変更した
104	28.42	28.46	上端65°、下端55°詳れ目に囲まれて0.5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの黒化で褐色化した軟質な粘土層を伴っている。また、下端側の詳れ目は幅5mm前後で淡緑色化し極細な雲母片が晶出する。	28.42	28.46	上端65°、下端55°詳れ目に囲まれて0.5mm前後に細片化する。下端には幅2mmの黒化で褐色化した軟質な粘土層を伴っている。また、下端側の詳れ目には幅5mm前後で淡緑色化し極細な白雲母片が晶出する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を修正化した(黒母⇒白雲母) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)
105	28.50	28.73	(コアの形状欄 Ⅳランク	28.50	28.73	(コアの形状欄)Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状aランクをⅤランクに変更した
106	28.73	30.20	詳れ目が少なくやや硬質。40～60°詳れ目が主体で風化は弱く、詳れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.95m～60°詳れ目に限25mmで分布するのみ。 粘土層や粘土化部は分布しない。	28.73	30.20	詳れ目が少なくやや硬質。40～60°詳れ目が主体で、風化は弱く、詳れ目の面がごく薄く褐色化する程度で砂状部は29.95m～60°詳れ目に限25mmで分布するのみ。 緑色化が見られる。粘土層や粘土化部は分布しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う詳れ目が少ないため詳れ目状態のランクをbランクに変更した
107	28.98	29.21	(コアの形状欄 Ⅱランク	28.98	29.21	(コアの形状欄)Ⅳランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が多いためコアの形状aランクをⅣランクに変更した
108	29.20	30.20	(詳れ目状態欄)cランク	29.21	30.20	(詳れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う詳れ目が少ないため詳れ目状態のランクをbランクに変更した
109	-	-	-	29.32	29.33	傾き2～5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。傾き24°、幅10～12mm。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・カリ長石、石英の脈状部は周囲と異なる状況であるため追記した
110	29.13	29.50	付近の55°と61°詳れ目そいはマンガン鉱染で2mm～3mm程度の既点状に黒色化する。	29.45	29.45	付近の55°と60°詳れ目沿いはマンガン鉱染で2mm～3mm程度の既点状に黒色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて深度を変更した ・表現の適正化(沿い)
111	30.23	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、詳れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30～60°詳れ目からなる。粘土化部は分散せず、粘土層は少ない。詳れ目の一部は砂状化する。	30.20	31.44	上位と同じ硬さであり(硬さC)、詳れ目は多くなる(Ⅳ)。互いに交差する30～60°詳れ目が分布する。粘土化部は分散せず、粘土層は少ない。詳れ目の一部は砂状化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の適正化(詳れ目からなる⇒詳れ目が分布する)
112	30.23	33.00	(風化欄)aランク	30.20	33.00	(風化欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位と同様の風化の程度のため風化のランクをbランクに変更した。
113	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質なにぶい黄色粘土を伴う詳れ目に囲まれて、詳れ目に幅1mmの軟質な白色粘こをはさんでいる。	30.68	30.75	上端・下端とも60°、幅2mmの軟質なにぶい黄橙色粘土を伴う詳れ目に囲まれて、詳れ目に幅1mmの軟質な白色粘土を挟んでいる。 30.68mの詳れ目沿いに緑色化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(挟む、軟質⇒軟質) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した
114	30.76	31.00	(コアの形状欄 Ⅳランク	30.76	31.00	(コアの形状欄)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が少ないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した
115	31.22	31.40	(コアの形状欄 Ⅳランク	31.22	31.40	(コアの形状欄)Ⅱランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲より詳れ目が少ないためコアの形状のランクをⅡランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-2)

孔名 H24-D1-2

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													記事を削除・変更・追記した理由
			記事			記事 (変更箇所を本書赤で表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕等							
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	通知変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物(有機質、貝殻など)を明確的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、陶汰度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、薄理、級化など	鄙進作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を明確的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、風化の種類・程、風化の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や鉱物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凝灰脈、方解石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・熱変岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号(H2,H3,H1) ・区分幅の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の表緑性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、草根構造、細目状粘土など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鄙進作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	
116	30.76	31.40	(岩級区分欄)CL	30.76	31.40	(岩級区分欄)CM									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
117	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅳランク	31.40	31.44	(コアの形状欄)Ⅴランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位より割れ目が多いためコアの形状ランクをⅤランクに変更した
118	31.41	31.44	軟化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等は分布せず、炭化は認められない。	31.41	31.44	軟質化し、マンガン鉱染も受けるが粘土化・粘土脈等に分布せず、炭化は認められない。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質化)
119	31.44	31.46	破砕帯Hc-1(ません断面-31.46m) 上端・下端35°で、周囲とも連続的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。	31.44	31.46	破砕部 Hc-1 (最新活動面-31.46m) 上端・下端35°で、周囲とも連続的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒を含む軟質な粘土で、灰白色～にぶい黄橙(10YR 7/3)～灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する。厚さ10～12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																					・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(軟質→軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
120	31.46	33.00	割れ目は少ないが、低密着割れ目が幅約10～30mm程度で分布するため、コア形状をⅤと評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、割れ目や低密着割れ目には幅3～2mmの軟質な白色～灰赤(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。	31.46	33.00	割れ目が多くなり、低密着割れ目が幅約10～30mm程度で分布するためコア形状をⅥと評価した。低密着割れ目は30～60°が主体で、最新面の低密着割れ目には幅3～2mmの軟質な白色～灰赤色(2.5YR 6/2)粘土脈を伴うものがある。																					・割れの表記(少ない⇒多くなる「色」の記載消去) ・粘土を付随するのは低密着割れ目であったため「割れ目」を削除した ・表現の適正化(軟質⇒軟質) ・文章の適正化(コア形状Ⅴは記事欄はわかり読み取れるため削除した)
121	31.70	31.80	幅10mm程度・30°のマンガン鉱染による黒褐色頑状部が分布する。	-	-	-									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	
122	-	-	-	32.05	32.11	32.05～32.11m間はマンガン汚染が顕著に見られる。									-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	・マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した

H24－D1－4

[redacted]

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○:記載有り　なし:該当区間に対象物はあるが、層面の状況と同様であるために記載していないもの　－:該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは"-"で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・様数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、礫の種類及び形状、含有物(有機質、異質など)を網羅的に記載。 ・その他、層面と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、変質、生木状態などを記載。	堆積構造 ・薄層、薄層、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠損、コア破砕など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・層面に状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩盤の種類、岩質の変年度などを記載。	色調 ・様数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・岩石単位の割れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・高結集の代表的な割れ目の見かけの傾斜や技術的な種類を網羅的に記載。 ・層面と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物測 ・石英脈、凝石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・特種鉱 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hf) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる部分を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、変質構造、鉱物吹転など	最新活動面(認定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠損、コア破砕など	記事を削除・変更・追記した理由
1	0	2.94	埋戻し土	0.00	7.62	盛土	○	○	-	-	-														・表現の統一(盛土 0.00) ・人工埋積物を盛土として一括して地深度を変更した
2	0	0.32	礫 φ5～30mmの黒色砂岩からなる。	0.00	0.32	礫 φ5～30mmの黒色砂岩からなる。			○	-	-														・砕石の盛種名に変更した ・表現の統一(0.00)
3	0.00	0.32	(地質名欄)礫(埋戻し土)	0.00	0.32	(地質名欄)礫(盛土)			-																・表現の統一(盛土)
4	0.32	2.94	礫混じり粗砂 φ3～40mmのCa As亜角～亜円礫を含む粗砂でルーズである。φ3～10mmの砂石片を多く含む。	0.32	2.94	礫混じり粗砂 φ3～40mmのCa As亜角～亜円礫を含む粗砂でルーズである。φ3～10mmの砂岩を多く含む。			○																・表現の適正化(混じり) ・砕石の盛種名に変更した
5	0.32	2.94	(地質名欄)礫混じり粗砂(埋戻し土)	0.32	2.94	(地質名欄)礫混じり粗砂(盛土)			-	-	-														・表現の適正化(混じり) ・表現の統一(盛土)
6	2.94	5.60	(地質名欄)砂礫(改良土)	2.94	5.60	(地質名欄)砂礫(盛土)			-	-	-														・表現の統一(盛土)
7	2.94	5.60	砂礫 φ5～130mmのCa As亜角～亜円礫で硬質なものが主体。一部サブアルコーズ(硬質)を含む。基質は中砂～粗砂でゆる締っている。礫含有率は40～50%であるが、5.15m以深ではφ10m前後の小型の礫が主体。	2.94	5.60	砂礫 φ5～130mmのCa As亜角～亜円礫で硬質なものが多く、一部サブアルコーズ(硬質)を含む。基質は中砂～粗砂でゆる締っている。礫含有率は40～50%であるが、5.15m以深ではφ10m前後の小型の礫が主体。			○																・表現の適正化(やや)
8	4.96	5.12	φ10～60mmのコンクリート片を含む。	-	-	-			-	-	○														
9	5.90	7.62	礫混じり粗砂 上位深度よりも礫量が減少したもの。上位よりルーズとなる。礫はφ5～10mm小型で半クサリ礫のCa主体で、一部クサリ化する。	5.90	7.62	礫混じり粗砂 上位深度よりも礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫はφ5～10mmの小型で半クサリ礫のCa主体で、一部クサリ化する。			○																・表現の適正化(混じり、する、クサリ化する⇒クサリ礫となる) ・コアに合わせて深度を変更した ・文章の適正化(礫径の数値の記載がるため、「小型」を削除した)
10	6.45	7.62	(地質名欄)礫混じり粗砂(改良土)	6.45	7.62	(地質名欄)礫混じり粗砂(盛土)			-		-														・表現の適正化(混じり) ・表現の統一(盛土)
11	6.00	6.45	φ10mm前後主体に礫量が多い。礫含有率は50%程度で上下に比べ緩っている。礫はφ10mm以下の小型で硬いものが多い。	6.00	6.45	φ10mm前後主体になり、礫量が多い。礫含有率は50%程度で上下に比べ緩っている。礫はφ10mm以下の小型で硬いものが多い。			○																・脱記の修正(主体に礫量⇒主体になり、礫量) ・文章の適正化(径10mm前後と記載しているため、径10mm以下の記載を削除した。礫径の数値の記載があるため「小型」を削除した)
12	6.26	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟弱な粘土が不規則なアメーバ状に分布する。浅部ないし深部への連続性はない。	6.36	6.42	明赤灰色(2.5YR 7/1)の軟質な粘土が不規則な形でアメーバ状に分布する。浅部ないし深部への連続性はない。			○		-														・表現の適正化(アメーバ状⇒形、軟弱⇒軟質)
13	7.00	-	7.00m以深では風化したキクサリ礫が多くなる。	-	-	-			○																-
14	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂の基盤岩	7.40	-	7.40m以深は礫量少ないルーズな花崗岩質の粗砂の基盤岩			○																・7.62m以深が基盤岩であるため削除した
15	7.62	7.62	7.62mで基盤	-	-	-					-														
16	-	-	φ7～8mm片状と長石を特徴とする芦崎層岩(Ca)	7.62	17.89	芦崎層岩 φ2～10mm石英と長石の割合が5～15%程度含む。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・地質名及び区間深度を追記した ・岩片の特徴が従来の特徴の会有率とよりに合わせて追記・修正した
17	7.62	9.26	原岩組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や粘土脈は殆んどは残らない。割れ目は45～60°が主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。風化により、割れ目ずれに数mm程度砂状化～小礫片化することもある。	7.62	9.26	原岩組織と割れ目は残留している。変質粘土化部や粘土脈は殆んどは残らない。割れ目は45～60°が主体で、一部でこれらに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。風化により、割れ目ずれに数mm程度砂状化～小礫片化することもある。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(原岩組織、残い)
18	8.78	8.91	60°割れ目、8.91m~65°割れ目に軟弱な白色粘土が幅0.5mmで断続的に付着している。	8.78	8.91	60°割れ目、8.91m~65°割れ目に軟質な白色粘土が幅0.5mmで断続的に付着している。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脱記の修正(軟弱⇒軟質、断続⇒断続)
19	-	-	-	9.05	9.20	褐色化は周囲と異なる状況であるため。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した
20	9.17	9.20	50°の清風しかかった割れ目ずいに風化により褐色化する(7.5YR 5/4明褐色)が、砂状～粘土状などの名化はない。	9.17	9.20	50°の清風しかかった割れ目沿いに風化により褐色化する(7.5YR 5/4明褐色)が、砂状～粘土状などの名化はない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(沿い)
21	-	-	-	9.21	9.43	褐色変質が顕著である。								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色変質は周囲と異なる状況であるため追記した
22	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟化著しくなる。このうち、試間の上端側8.34～9.22mと下端側9.36～9.38mでは、φ5～10mmの緑図色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な上端側にこぶい褐色、下端側は灰白色の粘土質が分布し、粘土質ひ岩片状を呈する。試間中央部の9.22～9.34mでは、更に粘土化が進み、φ5～10mmの緑図色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。	9.26	9.38	全体に風化と変質で軟質化著しくなる。このうち、試間の上端側8.34～9.22mと下端側9.36～9.38mでは、φ5～10mmの緑図色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な上端側にこぶい褐色、下端側は灰白色の粘土質が分布し、粘土質ひ岩片状を呈する。試間中央部の9.22～9.34mでは、更に粘土化が進み、φ5～10mmの緑図色化した粘土化岩片状を多く含む。上・下端45°、幅30mmの硬質粘土である。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一(軟質⇒軟質)
23	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5～15mmの軟質なにぶい赤褐色を呈する粘土状である。	9.34	9.36	上端45°、下端50°で直線的に連続する幅5～15mmの軟質なにぶい赤褐色を呈する粘土状である。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した
24	-	-	-	9.43	9.50	褐色化が顕著に見られる。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25	9.38	10.76	硬さ(J)主体で、一部で風化で著しく軟化した硬さ(E)も混む。一部で清風しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30～70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する20～40°割れ目も分布するが、此者の割れ目は鉄青の酸化目で切られることが多い。10.0m～は深部は、鉄青の割れ目(30～70°)に幅1～2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)～淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として挟まれることがある。一部にはマンガンを挟む。いずれの割れ目間隔の箇所には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	9.38	10.76	主体にクサリ礫で、一部に風化で著しく軟質化している。一部で清風しかかっている割れ目が分布するが、大半は割れ目として残留する。30～70°割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する20～40°割れ目も分布するが、此者の割れ目は鉄青の酸化目で切られることが多い。10.0m～は深部では、鉄青の割れ目(30～70°)に幅1～2mmの軟質な灰白色(10YR 8/1)～淡黄色(2.5Y 7/3)の粘土脈として挟まれることがある。一部にはマンガンを挟む。いずれの割れ目間隔の箇所には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・30～70°の割れ目が20～40°の割れ目で止まっている部分もあり、鉄青ガーラの二次色を切っているわけではないにわが切られる」が正しまっていることに変更した ・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、挟む) ・マンガンの挟在は深部に異なる状況であるため追記した ・割れ目間隔の状況について追記した ・文章の適正化(硬さ(J)と硬さ(E)⇒主体にやや軟質、硬さ(E)は著しく軟質化と同義であるため削除した)
26	10.00	11.22	(変質欄)3ランク	10.00	11.22	(変質欄)2ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・下位と同様な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した
27	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20～35°割れ目の一部に幅0.5～1mmの軟質～一部固結粘の灰黄色(2.5Y 7/2)粘土質を挟む粘土質り岩片状で、色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。	10.76	10.88	上端35°、下端30°で、上端は直線的でシャープに、下端は波打って連続する。20～35°割れ目の一部に幅0.5～1mmの軟質～一部固結粘の灰黄色(2.5Y 7/2)粘土質を挟む粘土質り岩片状で、色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)を呈する。厚さ110mm。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の適正化(軟質⇒軟質、挟む、混じり) ・表現の統一(固結⇒硬質)
28	10.76	10.91	(割れ目状態欄)はランク	10.76	10.91	(割れ目状態欄)はランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が延長できるため割れ目状態のランクをCランクに変更した
29	10.76	11.22	(岩盤区分欄)D	10.76	11.22	(岩盤区分欄)CL								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・区間長が50cm未満のため、層面の岩組に含めた

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、断面の状況と同様であるとめ記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			是正せべき記事内容			第四系コア観察カード						基盤岩コア観察カード															
			記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)												破砕帯										
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名<・薄層や細かい泥層などを記事欄に記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴<粒度構成、微の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。<・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、海法度、含水状態などを記載。	考構構造<層理、葉理、級化など	既成作業におけるM材記事項<コア欠如、コア接乱など	地質名<・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。<・隣接し状況が異なる場合や特徴的な状態が見られる場合は、岩盤の種類・径、岩盤の含有等などを記載	色調<・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	断理等の割れ目<・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を示すために記載。<・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や検出物の種類を網羅的に記載。<・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり(リスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物<・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	破砕度区分<・記号(Hc,Hb,Hf)<・区分毎の区間深度	破砕強区分の境界<・見かけの傾斜<・性状	破砕帯(実測できる場合)	破砕部<・色調<・破砕部内物質<・硬軟<・細粒部の直線性・連続性<・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造<・規状構造、複合脈構造、葉理構造、細目状結土など	最新活動面(認定した場合)	空隙状況	既成作業における M材記事項<・コア欠如、コア接乱など	記事を削除・変更・追記した理由
30	10.8	10.91	上端35°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5～10mmの風化軟化～粘土化岩片を含む被質粘土であるが、従来のHcに比べ、粘土量はすくない。基下位部の幅5mmは粘化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、にぶい橙(7.5YR 7/3)～黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20～30mm。	10.88	10.91	上端35°、下端35°で、両者とも連続的でシャープに連続する。φ5～10mmの風化軟化～粘土化岩片を含む粘土質被状部である。被覆粘土であるが、従来のHcに比べ、粘土量はすくない。基平位部下端の幅5mmは粘化で硬化している。また、マンガン鉱染により、一部は黒褐色化する。全体の色調は、にぶい橙(7.5YR 7/3)～黒褐色(10YR 3/1)である。厚さ20～30mm。																										・破砕部:設定しておらず、Hbに比べ硬度が高いためHf被質粘土であるが 従来のHcに比べ、粘土量は少ない。上の記載を削除した ・表現の集正化(軟質化、硬質化、基下位部⇒下端側) ・粘土量が少ないため粘土質被状部に変更した。
31	10.11	10.93	破砕帯 Hc-2 D-1破砕帯(主せん断面・10.93m) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1～2mmの石英粒と粘土化したφ3～5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄橙色(10YR 8/4)の粘土で、基下位には石英粒、岩片を含むない暗1～2mmの明るい赤白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄橙色(10YR 8/4)で厚さ15～18mm。	10.91	10.93	破砕部 Hc-2(D-1破砕帯(基断活動面・10.93m)) 上端35°、下端38°で、両者とも直線的でシャープに連続する。φ1～2mmの石英粒と粘土化したφ3～5mmの岩片を若干含む軟質な淡黄橙色(10YR 8/4の構成比)粘土で、基下位には石英粒、岩片を含まない暗1～2mmの明るい赤白色(10YR 7/1)粘土が連続する。全体の色調は、淡黄橙色(10YR 8/4)で厚さ15～18mm。原岩組織が認められる岩片をまず主とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。																										・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・破砕帯とは詳細であるため削除した。 ・現在見たため破砕部内物質の各用を検討じり粘土に変更した ・表現の集正化(軟質⇒軟質) ・やや明るい赤白色粘土は、上位の構況じり粘土と同等の硬さであるため軟質に変更した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。
32	10.13	11.22	粘土化部や粘土質は知んど分布しないが、全体が軟化している。	10.93	11.22	粘土化部や粘土質は知んど分布しないが、全体が軟質化している。																						・表現の集正化(軟質化)
33	11.2	11.65	50～70°断れ目主体で、これに斜交～直交するφ0～60°断れ目が一部に分布する。粘土質は知んどはさまないが、断れ目そいに砂状化する。	11.22	11.65	50～70°断れ目主体で、これに斜交～直交するφ0～60°断れ目が一部に分布する。粘土質は知んど挟まないが、断れ目沿いに砂状化する。																						・表現の集正化(挟む、沿い)
34	11.45	17.89	上位より断れ目が少なくなる。コア形状状である。硬さDの岩片が主体であるが、断れ目そいの一部に風化で軟化した硬さEが分布している。	11.65	17.89	上位より断れ目が少なくなる。コア形状状である。 硬さDの岩片が主体であるが、断れ目沿いの一部に風化で軟質化した硬さEが分布している。																						・コア形状状も分布するため「主体」を追加した ・表現の集正化(沿い、軟質化)
35	11.93	12.16	(コアの形状欄 Iランク	11.90	12.16	(コアの形状欄)Vランク																						・現断に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
36	12.03	13.00	(最大コア長欄 9	12.00	13.00	(最大コア長欄)7																						・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した
37	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目間隙の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目にはさまれる粘土膜の水色も少ない。割れ目そいの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。	15.27	-	15.27m以深では、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目間隙の砂状化は認められなくなる。粘土化部は分布せず、割れ目には挟まれる粘土膜の水色も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。																						・表現の集正化(挟む、沿い、受ける)
38	12.60	12.60	45°幅1～2mmの石英脈、境界そいに割れ目もし、割れ目も含む厚20～20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	12.60	12.60	45°幅1～2mmの石英脈、境界沿いに割れ目もし、割れ目とその厚近幅10～20mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。																						・表現の集正化(沿い) ・文章の集正化 ・脚記の修正(「幅」の記載漏れ)
39	13.0	13.38	風化で砂状化が進む部分が多い。	-	-	-																						
40	13.0	14.00	(最大コア長欄 4	13.00	14.00	(最大コア長欄)6																						・最大コア長が6cmのところが認められるため修正した
41	13.46	16.80	φ5～10mmの粘土化し白濁化した長石斑晶をふく含む。	-	-	-																						
42	14.0	15.00	(最大コア長欄 9	14.00	15.00	(最大コア長欄)7																						・最大コア長9cmとした箇所にも密着割れ目が存在するため最大コア長を変更した
43	15.0	15.21	(コアの形状欄 Iランク	15.00	15.21	(コアの形状欄)Vランク																						・下位にたべて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
44	15.21	17.89	(風化欄) γランク	15.27	17.89	(風化欄) δランク																						・風化の程度がやや強いため風化のランクをδランクに変更した
45	15.10	15.50	55°割れ目に幅1～10mmと脆弱する軟弱な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土膜がはさまれる。	15.50	15.50	55°割れ目に幅1～10mmと脆弱する軟質な灰黄色(2.5Y 7/2)粘土膜が挟まれる。																						・表現の集正化(軟弱⇒軟質、挟む)
46	16.00	17.10	複数の75～85°で流曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土をはさむ。	16.00	17.10	複数の75～85°で流曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。																						・表現の集正化(軟弱⇒軟質、挟む)
47	16.88	17.10	(コアの形状欄 IVランク	16.84	17.10	(コアの形状欄)Vランク						○		○														・現断に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
48	17.06	17.03	45°幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-																						
49	17.31	17.32	60°幅2mm軟質～半固結状の明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土膜が分布。微細な葉理を伴う。	17.32	17.32	60°幅2mm軟質～やや硬質な明灰オリーブ色(2.5GY 7/1)の粘土膜が分布。微細な葉理を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著にまられる。																						・鉱物名を直正化した(黄鉄⇒白雲母) ・岩種名は色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の集正化(軟弱⇒軟質) ・表現の統一(半固結状⇒やや硬質な)
50	17.81	17.82	40°幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-																						
51	17.81	18.44	花崗岩(Gr) 上端50°で幅1～4mm石英脈とφ2～5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3～5mmの石英、長石、φ1～3mmの黒雲母の各粒晶をもつ亜質母花崗岩が分布する。長石斑晶は≥10mm程度と大型化するものも多み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はGc(に海)している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や岩組織は検査するが、風化で著しく軟化している。	17.89	18.44	黒雲母花崗岩(Gr) 上端50°で幅1～4mm石英脈とφ2～5mmの淡緑色鉱物(緑泥石?)を伴って、平均φ3～5mmの石英、長石、φ1～3mmの黒雲母の各粒晶をもつ亜質母花崗岩が分布する。長石斑晶は≥10mm程度と大型化するものも多み、全体が等粒状組織をなす。下端境界はGc(に海)している。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。ただし、割れ目や岩組織は検査するが、風化で著しく軟質化している。																										・地質名呼に合わせて地質名を変更した ・粘変化であるため「γ」を削除した ・表現の集正化(連移⇒無移、ただし、原岩組織、軟質化)
52	17.81	18.44	(割れ目状態欄 αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)ランク (岩級区分欄)C	17.89	18.44	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)Gランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL																						・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状 コアの硬さ、岩級区分のランクを変更した
53	-	-	-	18.44	70.00	花崗閃岩 19.1 ～19.33m, 28.43～30.40m付近, 53.34～57.06m付近など粒晶の量が少なく、アプライト様を呈する部分を挟む。																						・花崗閃岩の分布について区間深度を追記した ・アプライト様の部分を挟むことを追記した
54	18.4	21.00	30～50°割れ目が主体で、一部で、これらに60～70°割れ目が斜交～直交する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な灰色粘土膜を挟む。構造は低い。	18.44	21.00	30～50°割れ目が主体で、一部で、これらに60～70°割れ目が斜交～直交する。割れ目の一部に幅1～2mmの軟質な灰色粘土膜を挟む。構造は極めて。																						・粘土の色調を追記した ・表現の集正化(軟質⇒軟質、挟む) ・文章の集正化(一部と記載していたため程度は低いを削除した)
55	18.94	19.10	(コアの形状欄)Vランク	18.90	19.10	(コアの形状欄)Vランク																						・現断に比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
56	19.04	19.08	50°割れ目は幅2～3mmの固結粘土膜をはさみ、上盤側約50mmがマンガン鉱染ろける。	19.08	19.08	50°割れ目は幅2～3mmの硬質な褐色粘土膜を挟み、上盤側幅約50mmがマンガン鉱染受ける。																						・粘土膜の色調を追記した ・表現の集正化(挟む、受ける) ・表現の統一(固結⇒硬質) ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないためと端に変更した ・脚記の修正(「幅」の記載漏れ)
57	18.94	19.75	幅1～5mm、30～50°で母岩に密着して石英脈が複数分布。断面は粘土化は伴なわない。	18.90	19.75	幅1～5mm、30～50°で母岩に密着して石英脈が複数分布。断面は粘土化は伴なう。																						・表現の追記化(伴う)
58	20.60	20.60	70°割れ目そいに風化褐色化が進む。砂状化などの化は伴なわない。割れ目そいはマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.60	20.60	70°割れ目沿いに風化褐色化が進む。砂状化などの化は伴なう。割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。																						・表現の追記化(沿い、伴う)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-4）

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													
			記事			記事 （変更箇所を朱書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）											破砕等								
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい支層など記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形態、含有物（有機質、異質など）を詳細的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿潤度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア撹乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を概算的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な層相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	物理等の割れ目 ・岩系統の割れ目の特徴を伴う区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の先かけの傾斜や表皮物の種類を明確的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など ・ 挿圧岩 ・岩種	破砕度区分 ・記号（Hc,Hb,Hj） ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅（実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・鏡状構造、複合面構造、葉理構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の支況	鍵遠作業における特記事項 ・コア欠如、コア撹乱など	記事を削除・変更・追記した理由
59	20.00	21.66	（風化傾）ｂランク	20.90	21.66	（風化傾）δランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・風化の程度がやや低いため風化のランクをδランクに変更した
60	21.00	21.66	割れ目は少ないが、一部で60°前後の低密着割れ目を含み、打撃で分離し易い。	-	-	- -								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
61	21.19	21.44	21.19m~35°，21.44m~50°のいずれも幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-	-	-								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
62	21.44	21.66	（コアの形状傾）Ｂランク	21.44	21.66	（コアの形状傾）Ｂ'ランク								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位に比べて割れ目がやや多いためコアの形状のランクをB'ランクに変更した
63	21.00	21.50	60°はせん断化割れ目で、上記の21.44m~50°石英脈を切っている（変位量不明）	21.50	21.50	60°のせん断性割れ目は、上記の21.44m~50°石英脈で模断され、ゆるめられるに変位量不明）割れ目には不連続な無区色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には頁岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。								-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈にせん断性割れ目を模断しており、せん断割れ目が模断する表なるしていないものが切っている。脈と変位量の記載を削除した ・割れ目さが増加の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した
64	21.00	26.78	30~50°割れ目が主体 割れ目ぞいに多く砂状化したり、幅1~3mmの軟弱な灰白色などの粘土層をはさむことがある。後者の分布頻度は低い。	21.66	26.78	30~50°割れ目が主体 割れ目沿いに多く砂状化したり、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土層を挟むことがある。後者の分布頻度は低い。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の追正化（沿い、軟弱⇒軟質、挟む）
65	22.36	22.40	φ15mmの大型の長石斑晶2ヶが晶出。	22.36	22.40	φ15mmの大型の長石斑晶が2個見られる晶出。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の追正化（2ケ⇒2個、晶出しているわけではないため、見られるに変更した） ・文章の追正化
66	22.72	22.78	22.72m~45°~22.78m~50°は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。	22.72	22.78	22.72m~45°~22.78m~50°は風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に沿った褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した ・表現の追正化（伴う）
67	23.27	23.27	50°で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟質粘土層挟む。	23.27	23.27	50°で多少湾曲した割れ目に幅1mm灰白色の軟質粘土層挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の追正化（軟弱⇒軟質、挟む）
68	23.40	23.77	60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を切り、褐色風化で幅1~2cm砂状化する。	23.40	23.77	60~70°の低密着割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断し切り、褐色風化で幅1~2cm砂状化する。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目に斑晶を横断しており又していないため「切り」を「横断し」に変更した
69	-	-	-	23.76	24.00	緩傾10~30°湾曲した高角度割れ目が分布する。幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・湾曲した高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した
70	-	-	-	24.15	24.40	径15~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。								-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・大型の鉱物の斑晶は周囲と異なる状況であるため追記した
71	24.59	24.59	40°割れ目ぞい幅10mm淡灰緑色化（緑泥石化）、φ0.5mm前後の雲母を伴う。	24.59	24.59	40°割れ目沿い幅10mm淡緑灰色化（緑泥石化）、φ0.1mm前後の白雲母を伴う。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて色調を変更した ・鉱物名を追正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の追正化（沿い）
72	25.11	25.10	45°割れ目ぞい20mmが淡緑灰色化（緑泥石化）し、φ0.5~1mmの雲母を伴う。	25.09	25.09	45°割れ目沿い幅20mmが淡緑灰色化（緑泥石化）し、φ0.5~1mmの白雲母を伴う。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアに合わせて深度を変更した ・鉱物名を追正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の追正化（沿い） ・脱記の単正「幅」の記載漏れ）
73	25.41	25.40	50°幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布	-	-	-								-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
74	-	-	-	25.41	25.41	緩傾55°、幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 割れ目沿いはわずかに褐色化。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
75	25.61	25.61	40°割れ目ぞい10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）、φ0.5~1mmの雲母を若干伴う。	25.61	25.61	40°割れ目沿い幅10mmが淡緑灰色化（緑泥石化）、φ0.5~1mmの白雲母を若干伴う。幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を追正化した（雲母⇒白雲母） ・表現の追正化（沿い） ・脱記の単正（「幅」の記載漏れ） ・岩片混じり褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した
76	25.91	26.22	25.96m~50°~26.22m~45°の各割れ目に囲まれて、全体が風化で細片状～砂状化主体となる。	-	-	-								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
77	26.71	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃で0.1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し、27.00~27.23mでは砂部が細削時に流失している。一部27.16~27.22mはスライム主流える。粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。	26.78	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃で0.1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し、27.00~27.23mでは砂部が細削時に流失している。一部27.16~27.22mはスライム主流える。粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。								-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の追正化（沿い） ・文章の追正化（割れ目は少なくないため削除した） ・スライムの状況を追記した
78	27.11	27.22	（地質名欄）Op （割れ目状態欄）bランク （コアの形状欄）Vランク （コアの径3欄）bランク （風化傾）δランク （変質欄）3ランク （鉱鉱区分欄）c	27.16	27.22	（地質名欄）コア欠如 （割れ目状態欄）空欄 （コアの形状欄）空欄 （コアの径3欄）空欄 （風化傾）空欄 （変質欄）空欄 （鉱鉱区分欄）空欄						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	・コア欠如区間であるため地質名欄に追記した ・コア欠如区間であるため、各欄を空欄にした

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート（H24-D1-4）

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード																	
			記事			記事 （変更箇所を赤書きで表示） （変更していないものは「-」で表示）												破砕帯											
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の補語及び形態、含有物（有機質、異質など）を呼称的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、亀裂度、含水状態などを記載。	堆積構造 ・層理、葉理、級化など	鍵盤作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	地質名 ・岩種及びその区間深度を呼称的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な指標が見られる場合に、既晶の種類・種、既晶の含有率などを記載	色調 ・複数の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造 ・流理構造	整理等の誤れ目 ・同系統の誤れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な誤れ目の見かけの傾斜や供試物の種類を呼称的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な誤れ目があれば、誤れ目の間隔、開口幅、誤れ目面の色調、誤れ目面のすべり（スリッケンサイド、条線、見かけの変位センス）等を記載	鉱物脈 ・石英脈、沸石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挿間岩 ・岩種	破砕区分 ・記号（Hc,Hb,Hi） ・区分毎の区間深度	破砕度5分の境界面 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 （実測できる場合）	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破状構造、複合面構造、基幹構造、網目状粘土など	最新活動面（認定した場合）	空隙の状況	鍵盤作業における特記事項 ・コア欠如、コア擦乱など	記事を削除・変更・追記した理由
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部									-	-	-	-			-		-		-	-			・用語の統一（破砕帯→破砕部）
80	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの淡く粘土化した岩片を多く含む。やや緩った無質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染受ける。上端側は明褐灰。下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭。下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmの淡く粘土化した岩片を多く含む。粘土質硬質部からなるやや緩った無質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染受ける。上端側に明褐灰色、下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									-	-	-	-			-		-		-	-			・検土体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・27.91～28.33mOHと同等の硬さであるため硬軟を変更した ・粘記の表記（色）の記載漏れ ・表現の適正化（ほぼ） ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細さ化した岩片からなる組織について追記した
81	27.11	28.33	Hi 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～3mmの石英（2.5Y 7/2）～にぶい黄橙（10YR 7/2）～灰白（10YR 8/1）の軟質粘土が27.85～28.0mmでは10～20°で、28.00mは淡で、明状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土質り岩片状を呈する。色調は明褐灰（7.5YR 1/2）～にぶい黄橙（10YR 7/2）で、厚さ40mm。	27.91	28.33	Hi 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの石英（2.5Y 7/2）～にぶい黄橙（10YR 7/2）～灰白色（10YR 8/1）の軟質粘土が27.91～27.95mでは10～20°で、27.95mは淡で、明状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土質り岩片状を呈する。 やや軟質で、含まれる細粒部は明状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 色調は明褐灰（7.5YR 7/2）～にぶい黄橙色（10YR 7/2）も、厚さ40mm。									○	○	-	○			○		○		-	-			・粘記の表記（色）の記載漏れ ・表現の適正化（軟質→軟質、淡に） ・粘土の記載にある深度をコアに合わせて変更した ・硬軟、細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・厚さ40mmは区間長から考えて粘記であるため削除した
82	28.13	28.33	Hc-1（主せん断面） 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色（10YR 5/2）の軟質粘土層。	28.33	28.33	Hc-1（最新活動面） 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色（10YR 5/2）の軟質粘土層。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									-	-	-	-			-		-		-	-			・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化（軟質→軟質） ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
83	28.13	28.43	Hb 上端53°、下端40°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～3mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化した岩片からなる軟質り無質粘土。灰白（5YR 8/1）～明赤灰（2.5R 7/1）～明黄褐（10YR 6/6）を呈し、厚さ60mm。	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端40°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化した岩片からなる軟質粘土層挟在部。灰白（5YR 8/1）～明赤灰（2.5R 7/1）～明黄褐色（10YR 6/6）を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は明状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。									-	-	-	○			○				-	-			・検土体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化（軟質→軟質） ・粘記の表記（色）の記載漏れ ・細粒部の連続性・連続性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
84	27.75	27.91	（破砕度区分欄）記載なし	27.75	27.91	（破砕度区分欄）Hb									-	-	-	-			-		-		-	-			・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
85	27.11	27.95	（破砕度区分欄）記載なし	27.91	27.95	（破砕度区分欄）Hi									-	-	-	-			-		-		-	-			・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した
86	28.43	29.73	岩片は硬方で、主体である、30～60°を主体に低密着誤れ目を多く含む。粘土質をはさむ誤れ目は少ない。28.70m以浅では、誤れ目そいにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	岩片は硬方で、主体である、30～60°を主体に低密着誤れ目を多く含む。粘土質を挟む誤れ目は少ない。 28.70m以浅では、誤れ目沿いにマンガン鉱染し、黒褐色化する。									-	○	-	-			-		-		-	-			・表現の適正化（沿い、挟む）
87	27.17	27.57	65°誤れ目は幅2mmの粘土質をはさむが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65°誤れ目は幅2mmの粘土質を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。									-	○	-	-			-		-		-	-			・誤記の修正（27.57⇒28.57） 表現の適正化（挟む）
88	28.11	29.00	（コアの硬さ欄）Bランク	28.71	29.00	（コアの硬さ欄）Cランク									-	-	-	-			-		-		-	-			・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した
89	29.48	29.73	（コアの形状欄）Vランク	29.48	29.73	（コアの形状欄）IVランク									-	-	-	-			-		-		-	-			・上位に比べて誤れ目が少ないためコア形状のランクをIVランクに変更した
90	29.73	30.20	硬質で、誤れも少ない。ほぼ未風化、未変質である。	29.73	30.20	硬質で、誤れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。									-	なし	-	-			-		-		-	-			・表現の適正化（ほぼ）
91	30.20	31.03	低密着誤れ目も多いが、概ね3cm以上の誤れ目間隔のコア形状である。誤れ目、低密着誤れ目は30～50°主体で、両者そいに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	低密着誤れ目も多いが、概ね3cm以上の誤れ目間隔のコア形状である。誤れ目、低密着誤れ目は30～50°主体で、両者沿いに薄く砂状化する部分もある。									-	○	-	-			-		-		-	-			・表現の適正化（沿い）
92	31.63	32.30	60～70°誤れ目、低密着誤れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～50°誤れ目、低密着誤れ目も少有する。誤れ目そいに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土質は殆んどは認めない。	31.03	32.30	60～70°誤れ目、低密着誤れ目が主体で、一部で、これらに斜交～直交する40～50°誤れ目、低密着誤れ目も少有する。誤れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土質は殆んど認めない。 31.25～31.40m間はやや湾曲した傾斜40～50°で、31.60～31.61mでは傾斜60°で、幅5～20mm程度のカリ長石の重集部の脈を伴う。									-	○	-	-			-		-		-	-			・表現の適正化（沿い、挟む） ・カリ長石の重集部の脈は周囲と異なる状況であるため追記した
93	31.17	31.51	1～1.5cm間隔で60～70°誤れ目～低密着誤れ目が平行に分布する。	-	-	-									-	○	-	-			-		-		-	-			
94	31.75	32.30	85～90°誤れ目がやや波打って連続する。誤れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1～2mmが付着する。	31.75	32.30	85～90°誤れ目がやや波打って連続する。誤れ目の一部に軟質な灰白色粘土幅1～2mmが付着する。									-	○	-	-			-		-		-	-			・表現の適正化（やや、軟質⇒軟質）
95	32.3	32.13	60°、幅5～8mmで φ1～3mmに角礫化した破砕誤れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	60°、幅5～8mmで φ1～3mmの硬さ含むマンガン鉱染部に、角礫化し残っている部分があり、その岩片は移動や回転をしていない。角礫化した破砕誤れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。									-	なし	○	-			-		-		-	-			・角礫化、残っている部分があり、その岩片は移動や回転をしていないため角礫化は破砕によるものではないと判断して「破砕誤れ目」を削除した ・検査後マンガン断であるためその旨の記載に変更した
96	32.10	33.10	一部で硬さ8の硬質岩片を含んでいる。30～50°誤れ目と、これらに斜交～直交する60～80°誤れ目が主体。32.86m～80°誤れ目の上盤側は、誤れ目そいの砂状化はないが、下盤側の一部の誤れ目では、誤れ目そいの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土膜は全区間を通じて殆んどが有しない。33.00～33.10mの細かい誤れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	一部で硬さ8の硬質岩片を含んでいる。30～50°誤れ目と、これらに斜交～直交する60～80°誤れ目が主体。32.86m～80°誤れ目の上盤側は、誤れ目沿いの砂状化はないが、下盤側の一部の誤れ目では、誤れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。 32.40m、標高40°、33.70m、標高31°に幅5～10mmのカリ長石の重集した脈を挟む。粘土化部や粘土膜は全区間を通じて殆んどが有しない。33.00～33.10mの細かい誤れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。									-	-	-	-			-		-		-	-			・コアにあわせて誤れ目状態、コアの形七、コアの硬さ、風化のランクを変更した
97	33.10	33.10	（誤れ目状態欄）Uランク （コアの形状欄）IVランク （コアの硬さ欄）Cランク （風化欄）Vランク	33.00	33.10	（誤れ目状態欄）Uランク （コアの形状欄）Vランク （コアの硬さ欄）Cランク （風化欄）Bランク									-	○	-	-			-		-		-	-			・岩片ではないため削除した ・粘記の修正（は⇒や） ・表現の適正化（挟む）
98	33.0	33.65	硬さ8と硬質岩片からなり、誤れ目の面は一部脱化褐色化するが状状化や粘土とはなさない。	33.10	33.65	硬さ8と硬質岩片で、誤れ目の面は一部脱化褐色化するが状状化や粘土は挟まない。									-	なし	○	-			-		-		-	-			
99	33.14	33.24	75°、幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-									-	なし	○	-			-		-		-	-			・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した
100	-	-	-	33.29	33.29	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。									-	なし	○	-			-		-		-	-			・カリ長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した
101	-	-	-	33.53	33.53	傾斜45°、幅2～4mm程度のカリ長石の脈を挟む。									-	なし	○	-			-		-		-	-			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			直正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード													
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を水黒書で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や細かい互層などを記事欄に記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、硬の種類及び形状、含有物(有機質、異物など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状態、含水状態など記載。	多種構造 層理、葉理、級化など	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接長など	地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・褐鉄の色調が見られる場合は記事欄に記載	流理構造	節理等の割れ目 ・同系統の割れ目の特徴を持つ区間を まとめて記載。 ・系統毎の代表的な割れ目の見かけの傾斜や挟在物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な割れ目があれば、割れ目の間隔、開口幅、割れ目面の色調、割れ目面のオーバリス リッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物脈 ・石英脈、凍石脈、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	挿図図 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕帯 破砕度区分の境界決 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕帯 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の高結性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし高結性・連続性の岩片からなる組織の有無	内部構造 ・細状構造、複合葉構造、葉構造、明旗状結土など	鉱業法動脈(設定した場合)	空隙の状況	鉛直作業における特記事項 ・コア欠如、コア接長など	記事を削除・変更・追記した理由
102	33.35	37.15	(コアの形状欄)Vランク	33.65	37.15	一部、33.75～34.05mで割れ目が多いコア形状Vを呈するが、これ以外はコア形状がV である。硬さは34.64m以浅は中主体、以深は中硬質である。割れ目は30～50°主体であるが、一部で、これらに斜交～直交する50～60°割れ目も分布する。また、以上の2系の割れ目と交差する70～90°割れ目が35.42m付近、36.5m付近などに分布する。 各割れ目は34.64m以浅では一部の割れ目がいが薄く砂状化するが、以深では砂状化しないものが主体である。 33.75m、傾斜35°、幅20mm程度で粘化した脈を挟む。 33.85m、傾斜60°、幅5mm程度のスリ長石の脈を挟む。						-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が多いコア形状Vの区間に変更した ・表現の直正化(ふい) ・表現の統一(36.5→36.50) ・粘化に脈、力)長石の脈は周囲と異なる状況であるため追記した
103	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク	33.78	34.05	(コアの形状欄)Vランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲にくべて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
104	34.10	34.00	60°、幅1～3mmの軟弱な白色粘土脈が直線的でシャープに連続し、その下端側は34.22m付近まで風化で軟化している。	34.00	34.00	60°、幅1～3mmの硬質な白色岩物脈が直線的でシャープに連続し、その下端側は34.22m付近まで風化で軟質化している。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・薬品に対わせて硬質な白色岩物脈に変更した。 ・下端側ドジ必ずし も下盤とは限らないため下端に変更した。 ・表現の直正化(軟質化)
105	34.17	34.83	34.57m～45°～34.63m～65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟化(破砕)、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。	34.57	34.63	34.57m～45°～34.63m～65°は細かい割れ目が発達し、全体が軟化(破砕)、粘土化はないが若干砂状化する。また、マンガン鉱染を受け黒褐色化する。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の直正化(軟質化)
106	35.10	35.40	40°周辺は70°割れ目と交差し、0.20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬(破砕)、砂状化や粘土化、粘土脈はみなおらない。	35.40	35.40	40°周辺は70°割れ目と交差し、0.20～30mmに細片状を呈するが、岩片は硬(破砕)、砂状化や粘土化、粘土脈は伸びない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・文章の直正化 ・表現の直正化(伸ら)
107	35.12	38.95	(変質欄)3ランク	35.42	38.95	(変質欄)2ランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した
108	35.40	35.90	80°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。	35.90	35.90	80°低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はなく、粘土脈は形成していない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の統一(軟弱→軟質) ・文章の直正化(連続性がないことと脈状ではないことは同義であるため削除した)
109	36.10	37.20	75～90°の高角度割れ目で、他々で50°前後の割れ目で切られている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈はささない。	36.30	37.20	75～90°の高角度割れ目は、他々で50°前後の割れ目で止められる、切られもしている。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・高角度割れ目が50°の割れ目と極断する箇所も多く見られるため「切られる」を「止められる」に変更した ・表現の直正化(所々、挟む)
110	36.37	36.37	45°はせん断性割れ目で、交差する75～80°割れ目をはさんでいる(変位量20mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂をはさむ。	36.37	36.37	45°のせん断性割れ目は、交差する75～80°割れ目をはさんでいる(変位量20mm、左ズレ)。割れ目の一部には幅1mmの風化で生じた砂を挟む が、粘土は伴わない。割れ目面沿の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・変位量を上とした高角度割れ目は、一連の割れ目ではない(挟在物の種類が異なる)ため「切っている」を「止めている」に変更し、変位量の記載を削除した ・割れ目まとり箇所の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断を」を削除した ・表現の直正化(挟む)
111	36.48	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。36.68m付近以の高角度割れ目に切られるが、変位はない。	36.68	36.68	55°幅1～2mmの石英脈が母岩に密着して分布。36.68m付近以の高角度割れ目を横断する。切られ れるが、変位はない。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈は横断する割れ目で又レていないため「切られる」を「交差する」に変更し、変位の記載は削除した
112	36.80	37.00	75～80°の高角度割れ目中の幅2～4mmの砂ユマンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
113	37.15	39.60	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.95m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「ことないC」が分布する。割れ目は40～50°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.95～39.41mのB硬さの区間では、割れ目は消滅したものが多い。割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は知んどないが、割れ目ふいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さBの38.95～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟質粘土脈を挟在することが多い。	37.15	39.41	上位に比べ、割れ目も多くなる。硬さは37.68～38.15m間のBが主体で、その上下位側に硬さ「ことないC」が分布する。割れ目は40～60°が主体で、これに斜交～直交する60～80°割れ目も分布する。 38.15～39.41mの硬さB区間では、割れ目は消滅したものが多い。割れ目は硬さ「C」の37.15～37.68m、39.41～39.60mでは粘土化部や粘土脈の挟在は知んどないが、割れ目ふいに薄く砂状化するものもある。硬さBの37.68～38.95mでは割れ目は風化で薄く粘土化するが挟在物はない。硬さBの38.15～39.41mでは幅1mm前後の灰白色軟質粘土脈を挟在することが多い。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・割れ目が多い区間(コア形状V主体)の記載のため下端深度を変更した(39.41m以深はコア形状が) ・表現の直正化(ふい、軟質→軟質) ・下端深度を変更したため区間外の記載を削除した
114	37.18	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。	37.15	37.68	マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐灰色(7.5YR 5/1)を呈する。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにそわせてマンガン鉱染を受けている上端深度を変更した
115	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR6/2灰褐	37.18	37.68	(色調欄)7.5YR5/1褐灰						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアにそわせて色調を変更した
116	37.68	37.89	(コアの形状欄)Vランク	37.68	37.89	(コアの形状欄)IVランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲にくべて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
117	38.01	38.12	(コアの形状欄)Vランク	38.01	38.12	(コアの形状欄)IVランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲にくべて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
118	38.12	38.20	割れ目そいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。	38.12	38.20	割れ目ふいに褐色化するが、岩片は硬さBで劣化していない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の直正化(ふい)
119	38.25	38.95	(コアの形状欄)Vランク	38.23	38.95	(コアの形状欄)IVランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・周囲にくべて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した
120	38.96	39.41	風化と変質で軟化している。特に最下位側の3934～39.41mは、上端25°、下端30°で顕著れ灰色～にぶい橙色の軟弱な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。	38.95	39.41	風化と変質で軟化している。特に最下位側の39.39～39.41mは、上端25°、下端30°で顕著れ灰白～にぶい橙色の軟質な粘土脈が20～30°、60～65°幅1～4mmで多く分布する。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の直正化(軟質化、軟弱→軟質)
121	38.96	39.41	(岩級区分欄)CL	38.95	39.41	(岩級区分欄)CM						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・39.41～40.00mの割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクの変更に伴い、岩級もCMに変更されたことにより、本区間長が50cm未満になったため周囲の岩級に合わた
122	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質ではほ来風化、未変質である。	~~39.41~~	~~39.60~~	~~硬さBも含んでおり、硬質ではほ来風化、未変質である。~~						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・深度39.10～39.90mの記事と併せて記載したため削除した
123	39.41	40.21	(割れ目状態欄)cランク	39.41	40.21	(割れ目状態欄)bランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した
124	39.41	39.60	(コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Oランク	39.41	39.60	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)BランクB						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位にくべて割れ目が少なく、コアの硬さも硬質なためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した
125	39.41	40.00	(岩級区分欄)CL	39.41	40.00	(岩級区分欄)CM						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上記の変更に伴い、岩級を変更した
126	39.51	39.50	20°幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して分布。	39.50	39.50	20°幅2～4mmの白色変質脈が分布。						-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・花崗質な白色変質脈であるため変更した
127	39.54	39.90	硬さBで上位のよりも割れ目が少なくなる。ほ来風化、未変質で堅硬である。	39.41	40.00	硬さで上位のほうも割れ目が少なくなる。ほぼ来風化、未変質で堅硬である。						-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・同様のも変来のランクの区間の記載としたため上端・下端深度を変更した ・表現の直正化(ほぼ)
128	39.94	40.68	40～50°割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が多く砂状化する。また、幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土脈をはさむが、分布は少ない。	40.00	40.68	40～50°割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が多く砂状化する。また、幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。						-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・40～50°の割れ目が平行に分布する区間の上端深度を変更した ・表現の直正化(ほぼ、軟弱→軟質、挟む)
129	39.94	40.00	(コアの形状欄)Vランク	39.90	40.00	(コアの形状欄)IVランク						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位より硬度の割れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名 H24-D1-4

○ 記載有り　　なし 該当区間に対象物はあるが、周囲の状況と同様であるため記載していないもの　　－ 該当区間に対象物がないもの

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			第四系コア観察カード					基盤岩コア観察カード														
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正し(転記されているか？ ☑	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きできた) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか？ ☑	地質名 ・薄層や縞から五層などを記事欄に記載	色調 ・現地の色調が見られる場合は記載欄に記載	土質の特徴 ・粒度構成、間の種類及び形態、含有物(有機質、異型など)を網羅的に記載。 ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、必要に応じて、硬軟、湿状態、含水状態などを記載。	多種構造 層理、葉理、級化など	節適作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など		地質名 ・岩種及びその区間深度を網羅的に記載。 ・周囲と状況が異なる場合や特徴的な岩相が見られる場合は、岩品の種類・径、岩品の含有率などを記載	色調 ・現地の色調が見られる場合は記載欄に記載	流理構造	整理等の訳れ目 ・同系統の訳れ目の特徴を持つ区間をまとめて記載。 ・系統毎の代表的な訳れ目の見かけの傾斜や検査物の種類を網羅的に記載。 ・周囲と異なる状況や特徴的な訳れ目があれば、訳れ目の間隔、開口幅、訳れ目面の色調、訳れ目面のすべりスリッケンサイド、条線、見かけの変位センス)等を記載	鉱物膜 ・石英膜、清石膜、方解石脈等の種類、幅、色調、見かけの傾斜など	膨潤岩 ・岩種	破砕帯 破砕度区分 ・記号(Hc,Hb,Hj) ・区分毎の区間深度	破砕度区分の境界寸 ・見かけの傾斜 ・性状	破砕幅 (実測できる場合)	破砕部 ・色調 ・破砕部内物質 ・硬軟 ・細粒部の直線性・連続性 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・細状構造、斑合構造、基質構造、斑晶状組織など	基剤法動面(変形した場合)	空隙の状況	節適作業における特記事項 ・コア欠如、コア破損など	記事を削除・変更・追記した理由
130	39.90	40.21	(コアの硬さ欄)Cランク	39.90	40.21	(コアの硬さ欄)Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した
131	40.24	40.28	20.24m(40°～20.28m(45°訳れ目に囲まれて、やや軟化する。上端訳れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。土体に砂状～粘土化は伴なわない。	40.24	40.28	40.24m(40°～40.28m(45°訳れ目に囲まれて、やや変質化する。上端訳れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。土体に砂状～粘土化は伴わない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脆記の修正(20.24m、20.28m⇒40.24m、40.28m) ・表現の是正化(やや、軟質化、伴う)
132	40.44	40.68	(訳れ目状態欄)aランク	40.44	40.68	(訳れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・検査物伴う訳れ目が少ないため訳れ目状態のランクをbランクに変更した
133	40.50	－	40.50m以深では硬さBと変硬部も混える。	－	－	－									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
134	40.50	40.68	(コアの硬さ欄)Cランク	40.50	40.68	(コアの硬さ欄)Bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・コアは軟質なためコアの硬さのランクをBランクに変更した
135	40.38	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度訳れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度訳れ目は41.00～41.53mまでやや高頻しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～ δ3～5mm程度の破砕帯状を呈している。訳れ目は0～30°が主体であるが、分布は少ない。たゞし、0～30°と70°程後の低密度訳れ目も分布し、コア形状IVとする。訳れ目の挟在物はない。	40.68	41.20	硬さBと堅硬であるが、41.20mでは75～80°の高角度訳れ目を境として硬さ「D」の軟質部と接する。高角度訳れ目は41.00～41.53mまでやや高頻しながら連続している。幅5～10mm程度が砂状～ δ3～5mm程度の破砕帯状を呈している。 **接着部分等に移動や回転は見られない。**訳れ目は0～30°が主体であるが、分布は少ない。**ただし、20～30°と70°程後の低密度訳れ目も分布**し、コア形状IVとする。訳れ目の挟在物はない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・現状をよする部分の硬に移動や回転は見られないため「破砕」を削除した。 ・表現の是正化(やや、ただし)
136	－	－	－	40.95	40.95	傾斜45°、幅2mm程度の石英脈を挟む。 白雲母が晶出する。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・石英脈、白雲母の晶出は周囲と異なる状況であるため追記した
137	41.10	41.62	上端75～80°、下端80～85°の高角度訳れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度訳れ目と斜交～直交するδ0～50°訳れ目が主体で、訳れ目やいの一部は薄δ状化するが、粘土部や粘土または泡んと分布せず、高角度訳れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟弱粘土がわずかに付着する程度である。	41.20	41.62	上端75～80°、下端80～85°の高角度訳れ目に囲まれて、全体に軟化している。高角度訳れ目と斜交～直交するδ0～50°訳れ目が主体で、訳れ目やいの一部は薄δ状化するが、粘土部や粘土または泡んと分布せず、高角度訳れ目の一部に幅0.5mmの灰白色軟質粘土がわずかに付着する程度である。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
138	41.12	41.62	40°と85°訳れ目に囲まれて、δ5～10mmの角礫状に破砕されて、緑ったお状土の基質中にマンガン鉱染が認められる。	41.52	41.62	40°と85°訳れ目に囲まれて、δ5～10mmの角礫状に破砕されて、緑ったお状土の基質中にマンガン鉱染が認められる。訳れ目や角礫には挟在物が付着していない。角礫状部は連続していない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・角礫状に呈する部分の硬には細粒物が付着せず、訳れ目にも挟在物が見られないため節制隣のコアの接続部であると判断して「破砕」されて」を削除した ・角礫状の連続性について追記した。 ・表現の是正化(緑ったお→硬質、砂質土→砂状)
139	41.42	42.37	硬さBと硬質で、訳れ目もやゝ少なくなる。40～50°訳れ目が主体、また、40～50°と60°前後の低密着訳れ目が多い。訳れ目、低密着訳れ目には砂状化、粘土部などの挟在物はない。たゞし、42.50mなどでは55°訳れ目ゝいの一部がδ3～5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	硬さBと硬質で、訳れ目もやゝ少なくなる。40～50°訳れ目が主体、また、40～50°と60°前後の低密着訳れ目が多い。訳れ目、低密着訳れ目には砂状化、粘土部などの挟在物はない。ただし、42.50mなどでは55°訳れ目**ゝ**いの一部がδ1～5mmで硬質細片化している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
140	41.92	41.92	40°幅5～6mm石英脈が母岩に密着して連続。脈の周辺にδ0.1mmの金属鉱物が晶出。	－	－	－									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	
141	42.27	42.61	低密着訳れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37～42.46mは訳れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もδ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がこくわずかや着している。	42.37	42.61	低密着訳れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37～42.46mは訳れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もδ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がこくわずかに付着している。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是一(軟質⇒軟質)
142	42.43	42.43	60°訳れ目はせん断性訳れ目で、面上に条線が認められる	42.43	42.43	60°訳れ目は、**交差する42.38mの**各化する訳れ目間δ10mm程度**を**交ぇに**密合**させているせん断性訳れ目で、面上に条線が認められる。訳れ目の挟在物は不連続で、訳れ目間**密合**は**原岩**組織が認められ、系統的な訳れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・60°訳れ目と斜交する深度42.38mの補生化した訳れ目が2mm程度見かけ左ズレに変位しているため追記した ・訳れ目及び構造の状況を追記した
143	42.61	43.34	30～50°訳れ目が主体で、ほゞ平行に分布する。硬質で、訳れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染り黒褐色化するが、劣化は伴なわない。	42.61	43.34	30～50°訳れ目が主体で、**ほぼ**平行に分布する。硬質で、訳れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染**により**黒褐色化するが、劣化は**伴わ**ない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是正化(ほぼ、受け、伴う)
144	43.39	43.39	55°幅3～4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	55°幅3～4mm石英脈が母岩に密着して連続する。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	・脆記の修正(43.39⇒43.29)
145	43.34	45.00	岩片自身は硬δBが多いが、低密着訳れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。訳れ目は50～70°と、これに斜交～直交するδ0～40°が主体で、訳れ目の一部は薄δ状化した。幅1～2mmの軟質な白色粘土膜を挟むものもある。	43.34	45.00	岩片自身は硬δBが多いが、低密着訳れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。訳れ目は50～70°と、これに斜交～直交するδ0～40°が主体で、訳れ目の一部は薄δ状化した。幅1～2mmの軟質な白色粘土膜を挟むものもある。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是正化(軟弱⇒軟質、挟む)
146	43.34	43.34	55°訳れ目幅3mmで砂状化し、一部でδ1mmの雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本訳れ目1cm下位の43.35mには、本訳れ目と平行に幅δ～5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.34	55°訳れ目幅3mmで砂状化し、一部でδ1mmの白雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本訳れ目1cm下位の43.35mには、本訳れ目と平行に幅δ～5mmの石英脈が連続する。									-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・鉱物名を適正化した(雲母⇒白雲母) ・文章の是正化(「雲母片」は晶出していたが、「片」を削除した)
147	43.34	44.40	(訳れ目状態欄)aランク	43.34	44.40	(訳れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う訳れ目が少ないため訳れ目状態のランクをbランクに変更した
148	44.67	44.67	65°訳れ目はせん断性訳れ目で、交差する60°訳れ目を切って、かゝ差けるながら連続する(変位量5mm左ズレ)。	44.67	44.67	65°訳れ目は**せん断性訳れ目**で、交差する60°訳れ目**をよ**ぇに**切って**、**や**ゝ差けるながら連続する**(変位量5mm左ズレ)。訳れ目に**挟在物は**認められない。訳れ目面**密合**は**原岩**組織が認められ、系統的な訳れ目も存在しない。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・65°訳れ目は一部で屈曲するが、その部分でかみ合わせが良いためズレていないと判断して、「切って」を「ぇに」に変更し、変位量についてD記載を削除した。 ・訳れ目の挟在物及び訳れ目面密合の状況について追記した ・表現の是正化(やや)
149	44.86	44.83	60°訳れ目の一部に幅1～2mmの軟弱白色粘土が付着。粘土部とこの連続性はない。	44.83	44.83	60°訳れ目の一部に幅1～2mmの**乾質**白色粘土が付着。**粘土部とこの連続性はない。**									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是一(軟弱⇒軟質) ・文章の是正化(一部に付着と粘土部とこの連続性はないことは問題であるとの削除した)
150	44.86	45.15	(訳れ目状態欄)cランク	44.83	45.15	(訳れ目状態欄)bランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・挟在物を伴う訳れ目が少ないため訳れ目状態のランクをbランクに変更した
151	45.00	45.45	60～70°訳れ目、低密着訳れ目が主体で、これに斜交～直交するδ40～60°訳れ目、低密着訳れ目が分布する。一部の訳れ目でこく薄く砂状化するが、粘土部ははさまない。各訳れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	60～70°訳れ目、低密着訳れ目が主体で、これに斜交～直交するδ40～60°訳れ目、低密着訳れ目が分布する。一部の訳れ目でこく薄く砂状化するが、粘土部ははさまない。各訳れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。									-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・表現の是正化(挟む)
152	45.11	45.45	(コアの形状欄)IVランク	45.15	45.45	(コアの形状欄)Vランク									-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・上位にくべて訳れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した
153	45.21	45.24	45°幅2～18mmと指間で連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は訳れ目化、下盤側は密着する。	45.24	45.24	45°幅2～18mmと指間で**石英脈が**連続するが、**母岩に対し、上端**側の一部は訳れ目化、**下端**側は密着する。									-	なし	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・脆記の修正(「石英脈」の記載漏れ) ・上端側がよずしも上盤とは限らないためと端に変更した。下盤も同様。 ・文章の是正化(「母岩に対し」は特に記載する必要がないため削除した)